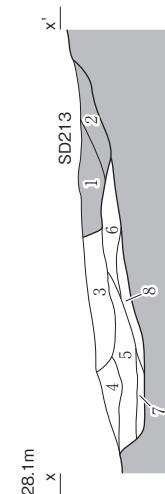


層名	色	調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	黄	5Y2/1	シルト	弱	-	中	SR11上層
2	灰	黄	2.5Y7/2	砂質	なし	粗砂	密	SR11上層
3	灰	オリーブ	7.5Y4/2	砂質	なし	粗砂	密	SR11上層
4	黒	褐	2.5Y3/1	シルト	弱	-	中	粗砂を少量含む。SR11上層
5	暗	灰	2.5Y5/2	砂	なし	粗砂	中	SR11上層
6	オリーブ	黒	5Y3/1	シルト	弱	弱	中	SR11上層
7	黒	黒	2.5Y2/1	シルト	弱	弱	中	SR11上層
8	黒	黒	2.5Y2/1	シルト	弱	弱	中	粗砂を含む。土器片をごく少量含む。SR11下層1
9	灰	オリーブ	5Y4/2	砂質	なし	粗砂	密	砂と黒色シルトの互層堆積。SR11下層1
10	黄	灰	2.5Y4/1	砂	弱	弱	中	砂と黒色シルトの互層堆積。SR11下層1
11	オリーブ	黒	5Y3/1	砂質	なし	中砂	中	木片をごく少量含む。SR11下層1
12	黄	灰	2.5Y6/1	砂	弱	弱	中	木片を含む。SR11下層1
13	オリーブ	黒	5Y2/2	シルト	弱	弱	中	細砂をごく少量含む。SR11下層1
14	黒	褐	2.5Y3/1	シルト	弱	弱	中	SR11下層2
15	黄	灰	2.5Y5/1	砂	弱	弱	中	砂と黒色シルトの互層堆積。SR11下層2
16	黒	褐	2.5Y3/2	シルト	弱	弱	中	木片を含む。SR11下層2
17	灰	褐	5Y4/1	砂	弱	弱	中	細砂を含む。SR11下層2
18	褐	灰	10YR4/1	シルト	弱	弱	中	細砂を含む。SR11下層2
19	灰	褐	7.5Y4/1	砂	弱	弱	中	細砂を含む。SR11下層3
20	灰	褐	5Y4/1	シルト	弱	弱	中	細砂を含む。SR11下層3
21	灰	オリーブ	5Y4/2	砂質	なし	極粗砂	中	細砂を含む。SR11下層3
22	灰	オリーブ	5Y5/2	砂質	なし	中~極粗砂	中	木片を少量含む。SR11下層3
23	オリーブ	黒	7.5Y3/1	砂質	なし	中砂	中	SR11-SX1
24	灰	オリーブ	5Y4/2	砂質	なし	粗砂	中	オリーブ黒色ブロックを含む。土器片をごく少量含む。SR11-SX1

層名	色	調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐	5Y2/1	シルト	強	-	中	SD213堆土
2	黄	灰	2.5Y3/1	シルト	中	細砂	中	SD213堆土。遺物あり
3	黒	黒	2.5Y4/1	シルト	中	細砂	中	SR11堆土
4	オリーブ	黒	2.5Y2/1	シルト	中	細砂	中	やや疎密 SR11堆土
5	オリーブ	黒	5Y3/1	シルト	中	粗砂	中	疎密 SR11堆土。黒褐色(2.5Y3/1)小礫混じり粗砂プロックあり
6	黄	暗	2.5Y5/1	シルト	弱	粗砂	中	SR11堆土
7	オリーブ	黒	5Y5/2	シルト	なし	小礫	中	SR11堆土。最大1cmの礫少量あり
8	オリーブ	黒	5Y2/2	シルト	なし	細砂	中	やや疎密 SR11堆土



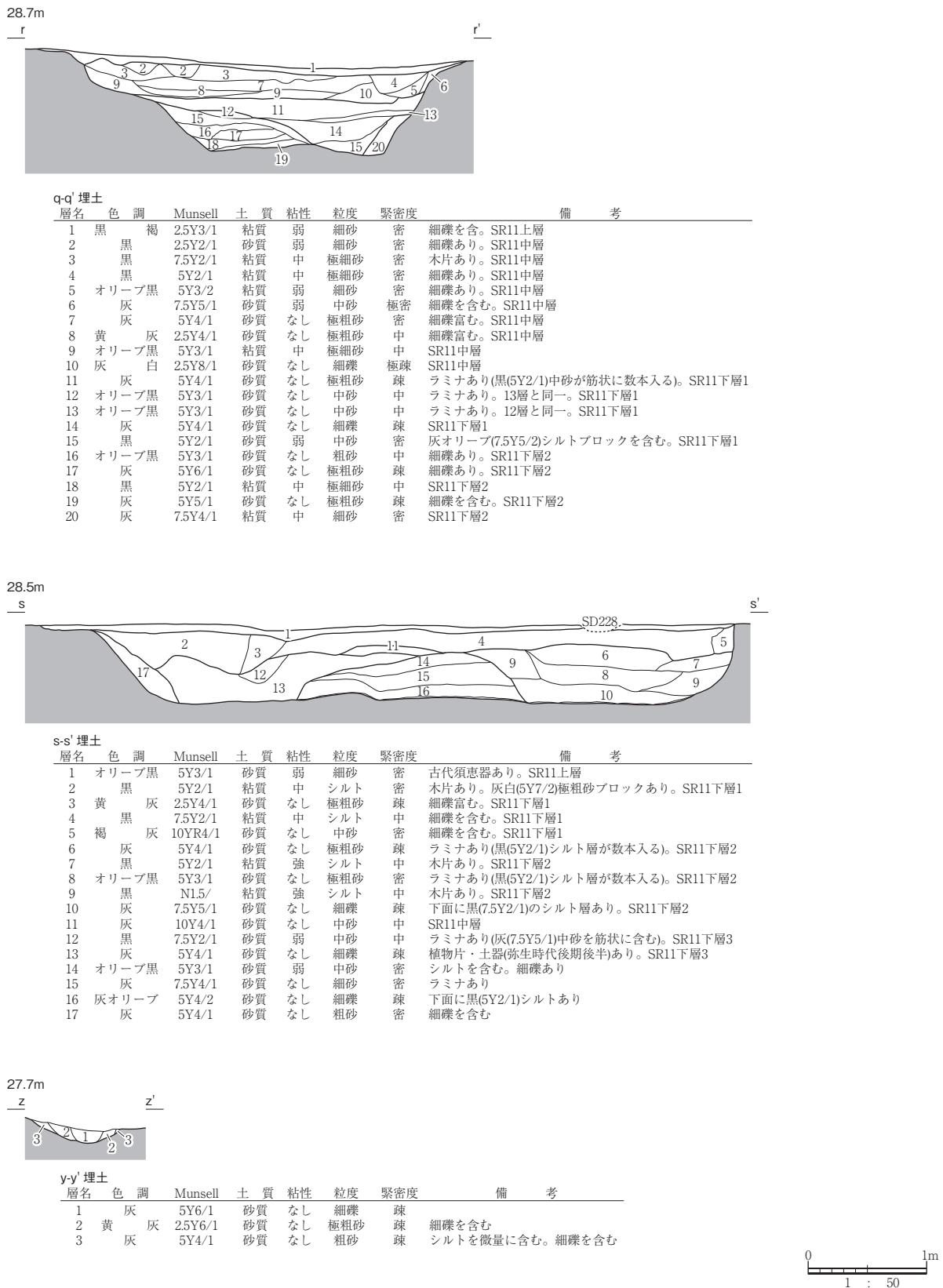
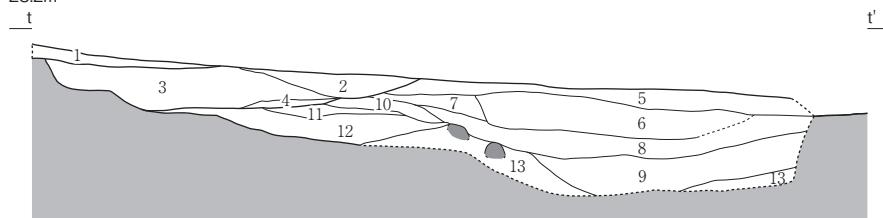


図259 SR11 断面 9

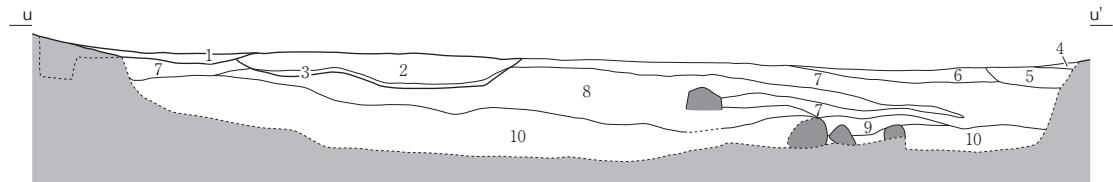
28.2m



t-t' 埋土

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒褐	2.5Y3/1	砂質	弱	粗砂	密	シルトあり。SR27
2	灰	5Y4/1	砂質	弱	中砂	密	細礫・シルトあり。SR11下層3
3	黄褐	2.5Y5/3	砂質	なし	粗砂	中	横方向のラミナあり。細礫を含む。SR11下層3
4	灰	10Y5/1	粘質	弱	極細砂	密	SR11下層3
5	黒	2.5Y2/1	砂質	弱	細砂	中	シルトあり。極粗砂を含む
6	黒	2.5Y2/1	粘質	弱	シルト	中	極粗砂を含む。灰黄(2.5Y6/2)粗砂を筋状に含む
7	黄灰	2.5Y4/1	砂質	なし	粗砂	中	黒(2.5Y2/1)シルトを筋状に含む
8	暗灰黄	2.5Y5/2	砂質	なし	極粗砂	中	黒(2.5Y2/1)シルトを筋状に含む
9	黄灰	2.5Y4/1	砂質	なし	細礫	密	10cm大の礫あり
10	黒	2.5Y2/1	粘質	中	シルト	中	粗砂あり
11	灰黄	2.5Y6/2	砂質	なし	粗砂	密	
12	黄灰	2.5Y5/1	砂質	なし	極粗砂	極密	
13	-	-	-	-	-	-	

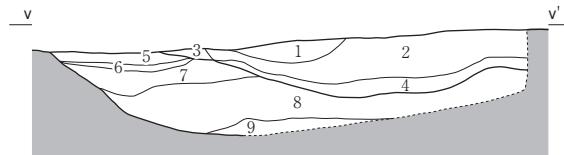
27.9m



u-u' 埋土

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	暗灰黄	2.5Y5/2	砂質	なし	粗砂	疎	
2	灰黄	2.5Y6/2	砂質	なし	極粗砂	密	細礫あり
3	灰	10Y5/1	粘質	弱	極細砂	密	
4	黒褐	2.5Y3/1	砂質	なし	粗砂	疎	
5	黒	5Y2/1	粘質	中	細砂	中	
6	暗灰黄	2.5Y5/2	砂質	なし	粗砂	中	細礫あり
7	黒褐	2.5Y3/1	粘質	中	シルト	中	
8	黒褐	2.5Y3/1	砂質	なし	粗砂	極密	黒(2.5Y2/1)シルトを筋状に含む
9	黒	5Y2/1	砂質	弱	中砂	中	シルトを含む。植物片あり
10	-	-	-	-	-	-	

27.7m



v-v' 埋土

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	2.5Y2/1	粘質	中	シルト	中	暗灰黄(2.5Y5/2)粗砂が互層状に入る。植物片あり
2	灰黄	2.5Y6/2	砂質	なし	極粗砂	密	細礫すこぶる富む
3	灰	5Y5/1	砂質	なし	中砂	中	ラミナあり
4	黒	10YR2/1	粘質	中	シルト	中	木片すこぶる富む(腐植土に近い)
5	黒褐	2.5Y3/2	砂質	なし	粗砂	中	細礫あり
6	黒	2.5Y2/1	砂質	弱	中砂	中	シルトを含む。細礫あり
7	灰	5Y4/1	砂質	なし	中砂	密	細礫を含む
8	灰	7.5Y4/1	砂質	なし	中砂	密	黄灰(2.5Y4/1)細礫を互層状に含む。
9	黒褐	2.5Y3/2	粘質	中	細砂	密	木片(植物片)富む(特に灰(7.5Y4/1)の層に多い)

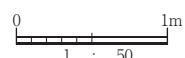
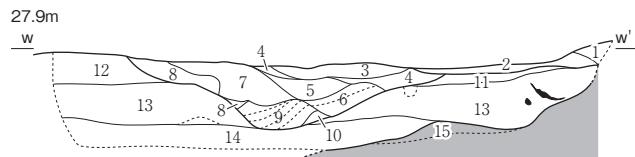
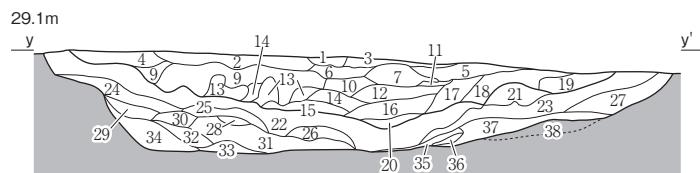


図260 SR11 断面 10



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	灰	7.5Y4/1	—	中	中砂	密	
2	オリーブ黒	7.5Y3/1	—	中	中砂	密	
3	オリーブ黒	5Y3/1	—	中	中砂	中	粗砂を含む。SR11
4	黒	2.5Y2/1	—	中	シルト	中	粗砂を含む。SR11
5	灰	5Y4/1	—	弱	粗砂	中	小礫を含む。SR11
6	灰	5Y5/1	—	細繊	中	SR11	
7	黒	2.5Y2/1	—	弱	中砂	中	SR11埋土。シルトを含む。SR11
8	オリーブ黒	5Y3/2	—	弱	中砂	中	SR11埋土。粗砂を含む。SR11
9	灰	7.5Y5/1	—	細繊	中	SR11	
10	黒	2.5Y3/2	—	弱	粘土	中	SR11
11	灰	10Y4/1	—	中	細砂	密	
12	灰	7.5Y5/1	—	粗砂	密		
13	黒	2.5Y3/2	—	弱	シルト	密	中期？包含層。植物遺存体を多く含む
14	暗オリーブ黒	2.5Y3/3	—	弱	シルト	密	植物遺存体を多く含む
15	灰	10Y5/1	—	中	シルト	密	地山。中～粗砂を含む。グライ化



層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	にぶい黄褐	10YR5/3	砂質	弱	中砂	密	SR11
2	黒	10YR2/1	砂質	中	シルト	中	SR11
3	黒	10YR3/1	砂質	弱	シルト	中	SR11
4	黒	10YR17/1	砂質	中	中砂	密	SR11
5	黒	10YR2/1	砂質	中	中砂	密	SR11
6	灰 黄	10YR4/2	砂質	中	粗砂	密	上位・下位に2層を筋状に含む。SR11
7	にぶい黄褐	10YR5/4	砂	なし	細砂	極疎	2層と灰白(10YR7/1)砂を筋状に含む。SR11
8	黒	10YR2/1	粘土	強	シルト	疎	SR11
9	灰 白	10YR7/1	砂質	強	細砂	疎	1cm程の暗褐(10YR3/3)ブロックを多く含む。SR11
10	黒	2.5Y3/1	砂質	中	細砂	密	炭化物を含む。SR11
11	黒	2.5Y2/1	粘土	強	シルト	極疎	1cm程のにぶい黄橙(10YR7/2)砂ブロックを含む。SR11
12	にぶい黄褐	10YR5/3	砂	なし	細砂	極疎	上位・下位に黒(10YR2/1)粘土を筋状に含む。SR11
13	黒	2.5Y3/1	砂質	中	シルト	疎	SR11
14	黒	5Y2/1	粘土	強	シルト	疎	SR11
15	黒	5Y2/1	粘土	強	シルト	疎	灰(5Y4/1)細砂を筋状に含む。SR11
16	暗 黄	10YR3/3	砂	なし	細砂	極疎	上位・下位に黒(10YR2/1)粘土を筋状に含む。SR11
17	黒	2.5Y2/1	粘土	強	粗砂	疎	SR11
18	黒	2.5Y3/1	砂質	強	シルト	中	SR11
19	黒	2.5Y2/1	砂質	強	シルト	中	SR11
20	褐	10YR5/1	砂	なし	粗砂	極疎	SR11
21	黄	2.5Y5/3	砂	なし	細砂	極疎	SR11
22	黒	2.5Y2/1	粘土	強	シルト	疎	SR11
23	オリーブ黒	5Y3/1	粘土	強	シルト	疎	SR11
24	黒	2.5Y2/1	砂質	強	粗砂	疎	SR11
25	黒	10YR2/1	粘土	強	シルト	疎	下位に灰黄(2.5Y6/2)砂・黄灰(2.5Y4/1)粘土を筋状に含む。炭化物を含む。SR11
26	にぶい黄橙	10YR7/2	砂	なし	中砂	極疎	SR11
27	オリーブ黒	5Y3/1	砂質	強	中砂	中	SR11
28	灰 黄	2.5Y6/2	砂	なし	シルト	極疎	SR11
29	オリーブ黒	5Y3/1	砂質	強	粗砂	疎	SR11
30	にぶい黄橙	10YR7/3	砂	なし	細砂	極疎	SR11
31	黒	10YR2/1	粘土	強	シルト	疎	SR11
32	灰	10Y5/1	砂	なし	細砂	極疎	28層を筋状に含む。SR11
33	にぶい黄橙	10YR7/2	砂	なし	細砂	極疎	SR11
34	黒	2.5Y2/1	砂質	強	粗砂	疎	SR11
35	灰	10Y4/1	砂	なし	粗砂	極疎	SR11
36	褐	10YR5/1	砂	なし	粗砂	極疎	SR11
37	灰	5Y5/1	砂	なし	シルト	極疎	23層と灰黄褐(10YR6/2)細砂を筋状に含む。SR11
38	にぶい黄橙	10YR7/4	砂	なし	細砂	極疎	SR29

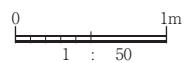


図261 SR11 断面 11

と考えられる。また、断面d-d'の5・8・10層を挟んだ下位に置かれた板(報1-113)は、設置前の滑り止めなどの機能をもたせたものと考えられる。本遺跡の自然流路が等高線に直交して流れる場合が多いなかで、SX1周辺では南西からの流路が直角に屈曲後、等高線に沿うように北方向へ流れを変え、35mほど先で再び大きく屈曲し下流へと向かう。上流からの流れが大きく屈曲したのち、SX1の周辺約7mの範囲では流路幅が1.3m程度広くなり、底面の標高についても下流域に比べて0.4m程度深くなる。これらのことから、流路方向が改変された可能性があり、屈曲部付近では流路の幅を拡張し、その部分に面してSX1が設置されたと推測される。また、SR11-SX1の北方では、A・D地点で杭が数本集中する箇所、B・C地点では木質遺物集中地点があることから堰の可能性を含む、いくつかの構造物の存在が想定できる。とくにC地点では、杭のほか柱?、垂木、板、矢板、妻壁板、加工材(『報告書1』表2・3参照)といった掘立柱建物を構成する建築部材の一部が集中して出土している。建物部材を集中的に投棄した可能性もあるが、材のいくつかは流路に直行するように残存していることから、これらを堰として二次利用した後に流水の影響等

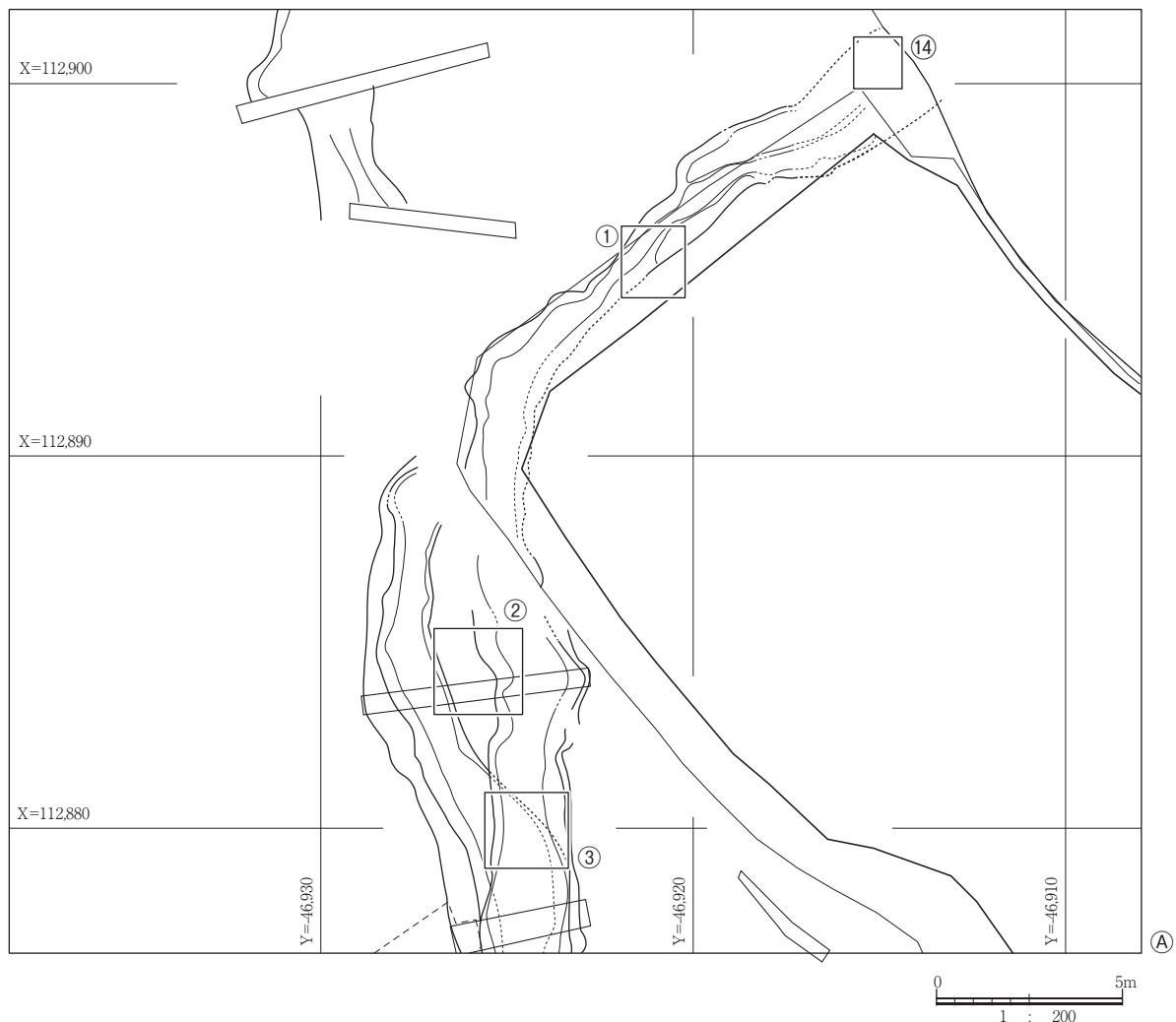


図262 SR11 遺物出土状況配置図 1

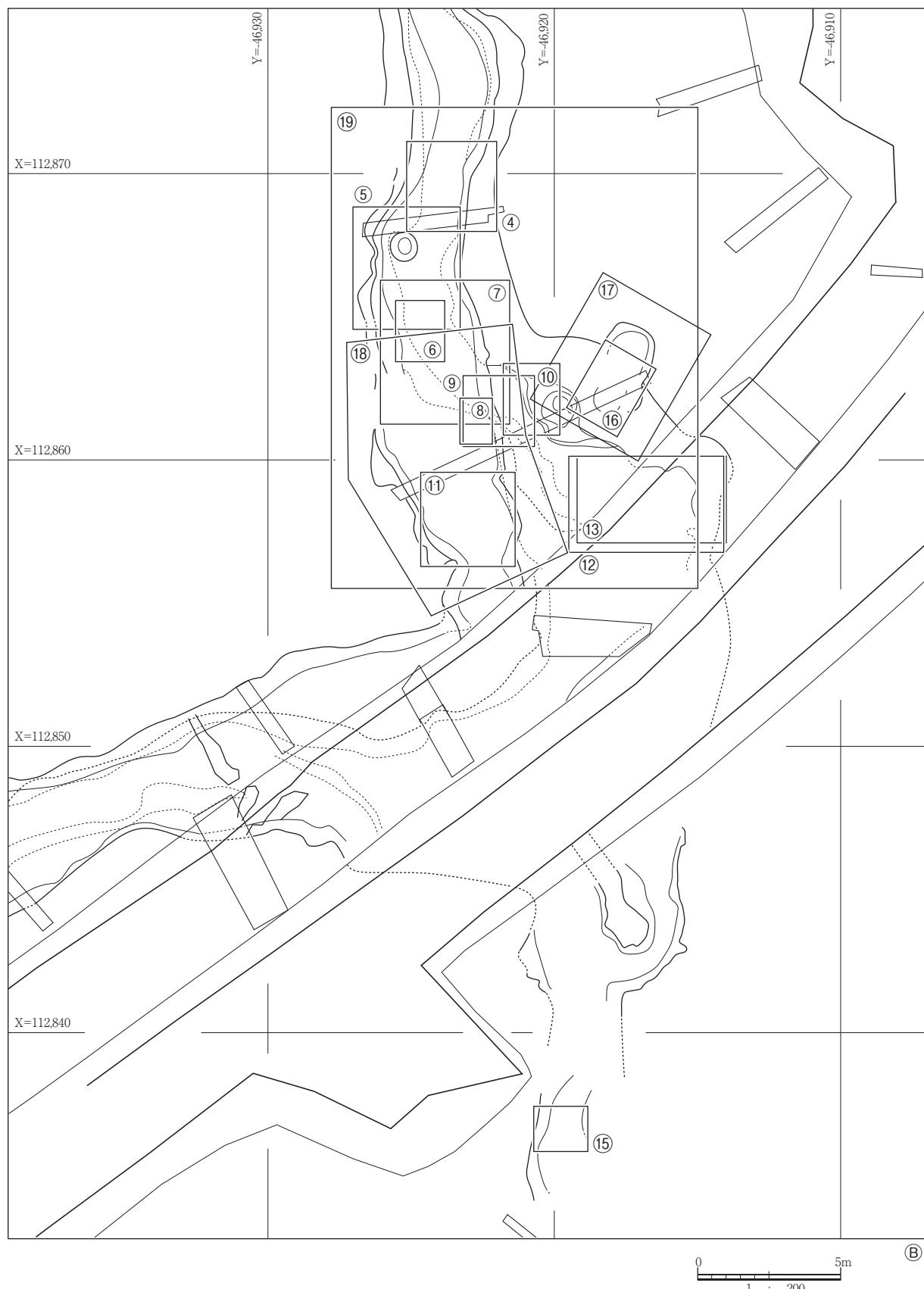


図263 SR11 遺物出土状況配置図 2

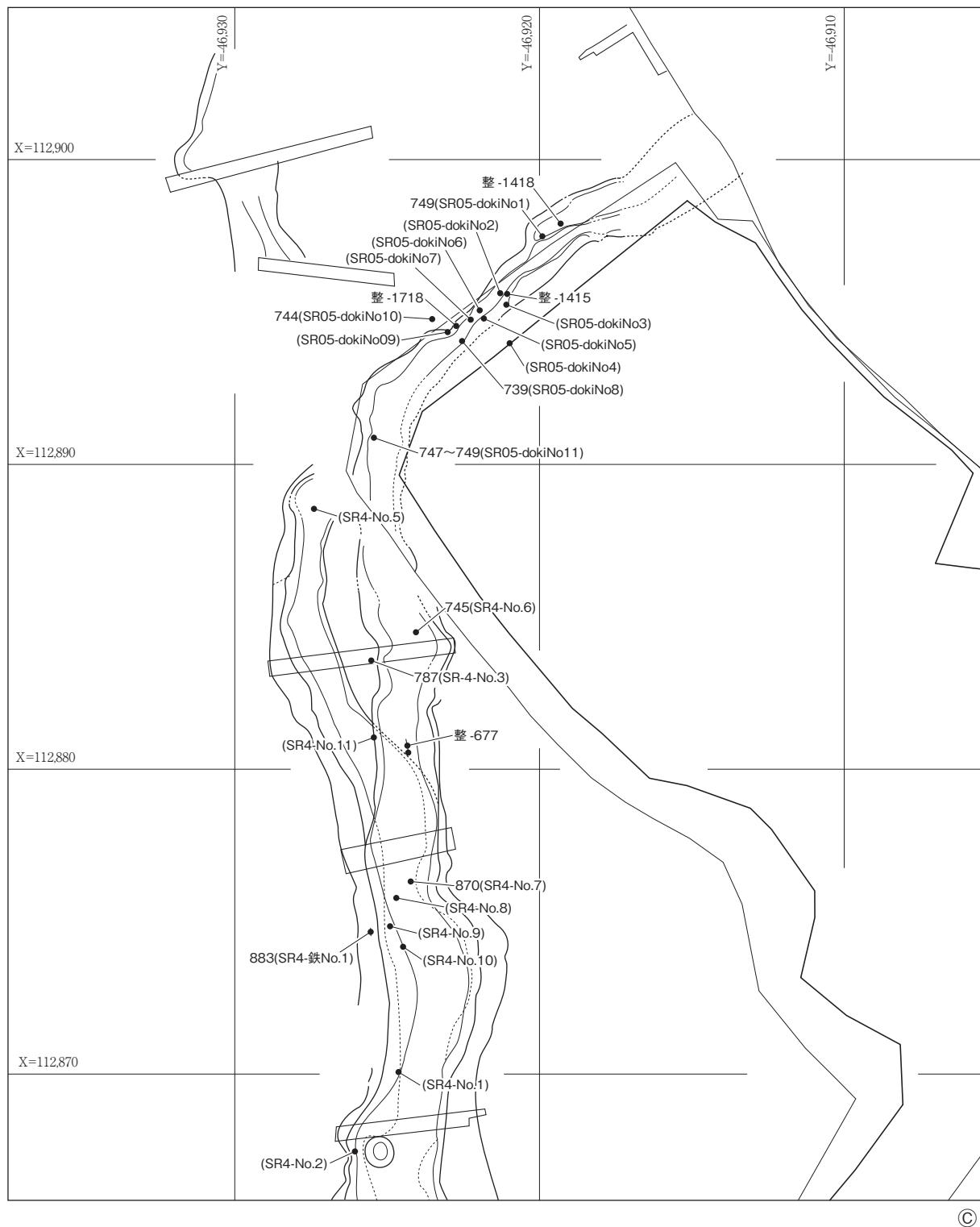


図264 SR11 遺物出土状況 1

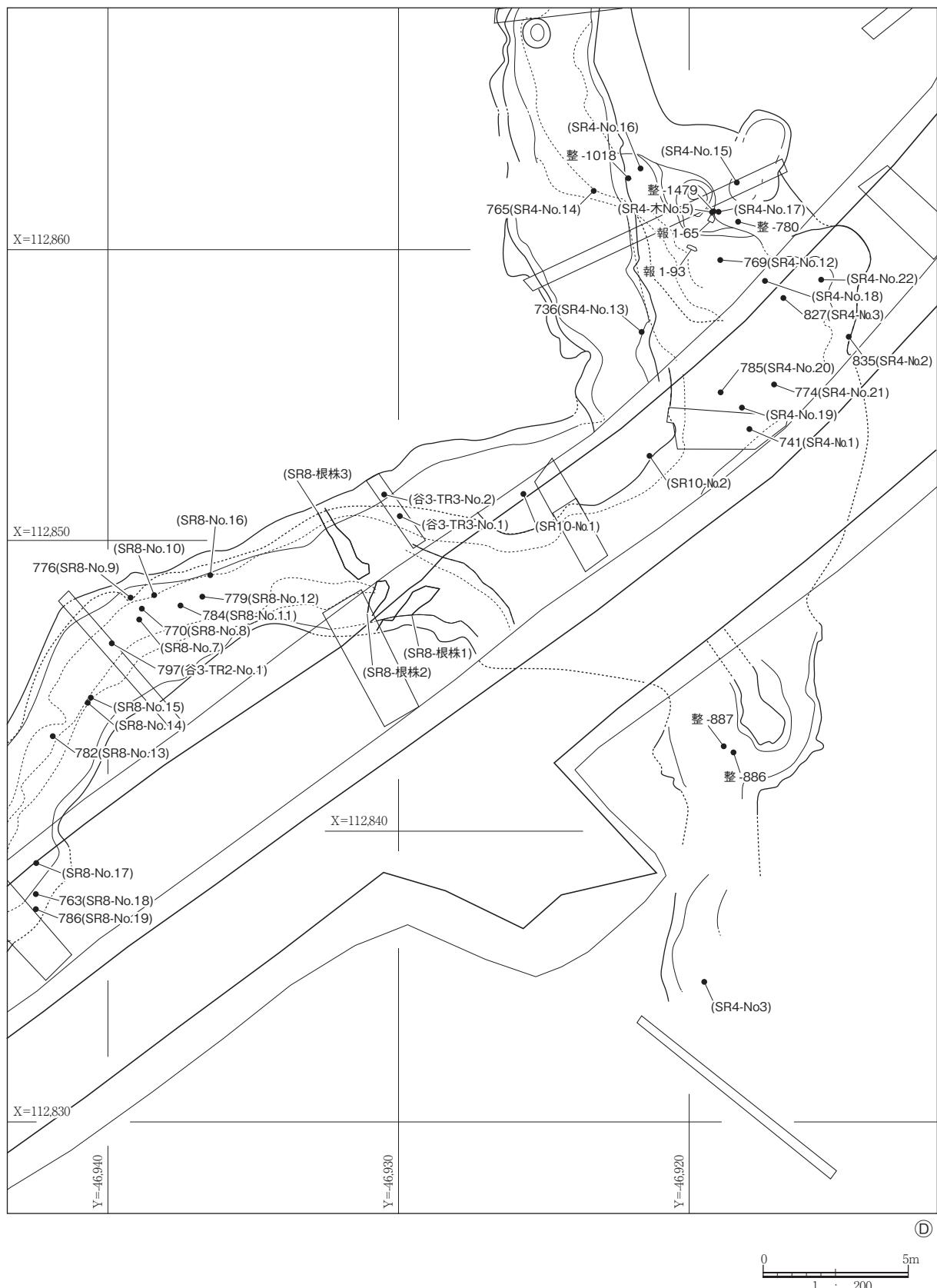


図265 SR11 遺物出土状況 2

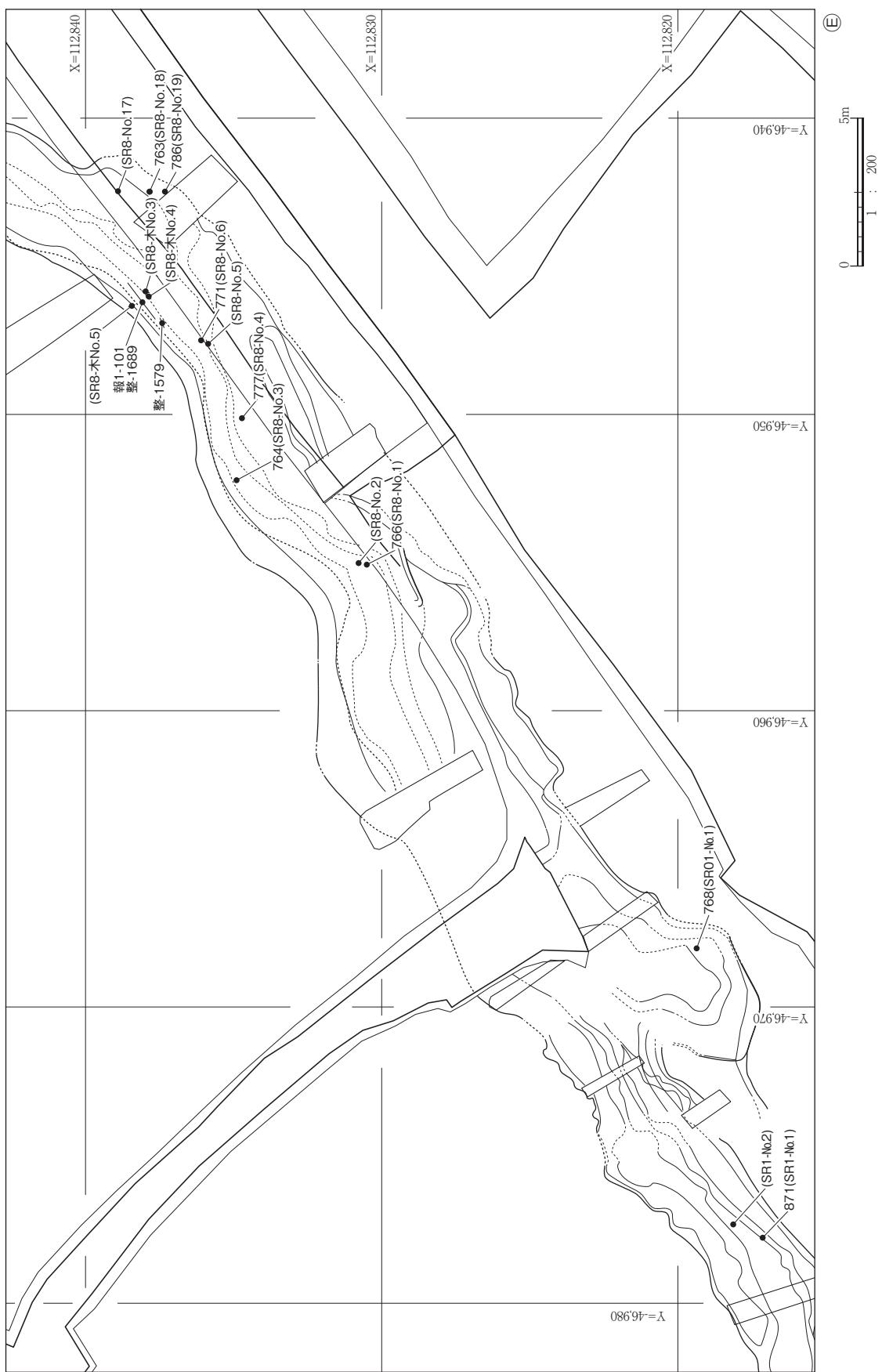


図266 SR11 遺物出土状況 3

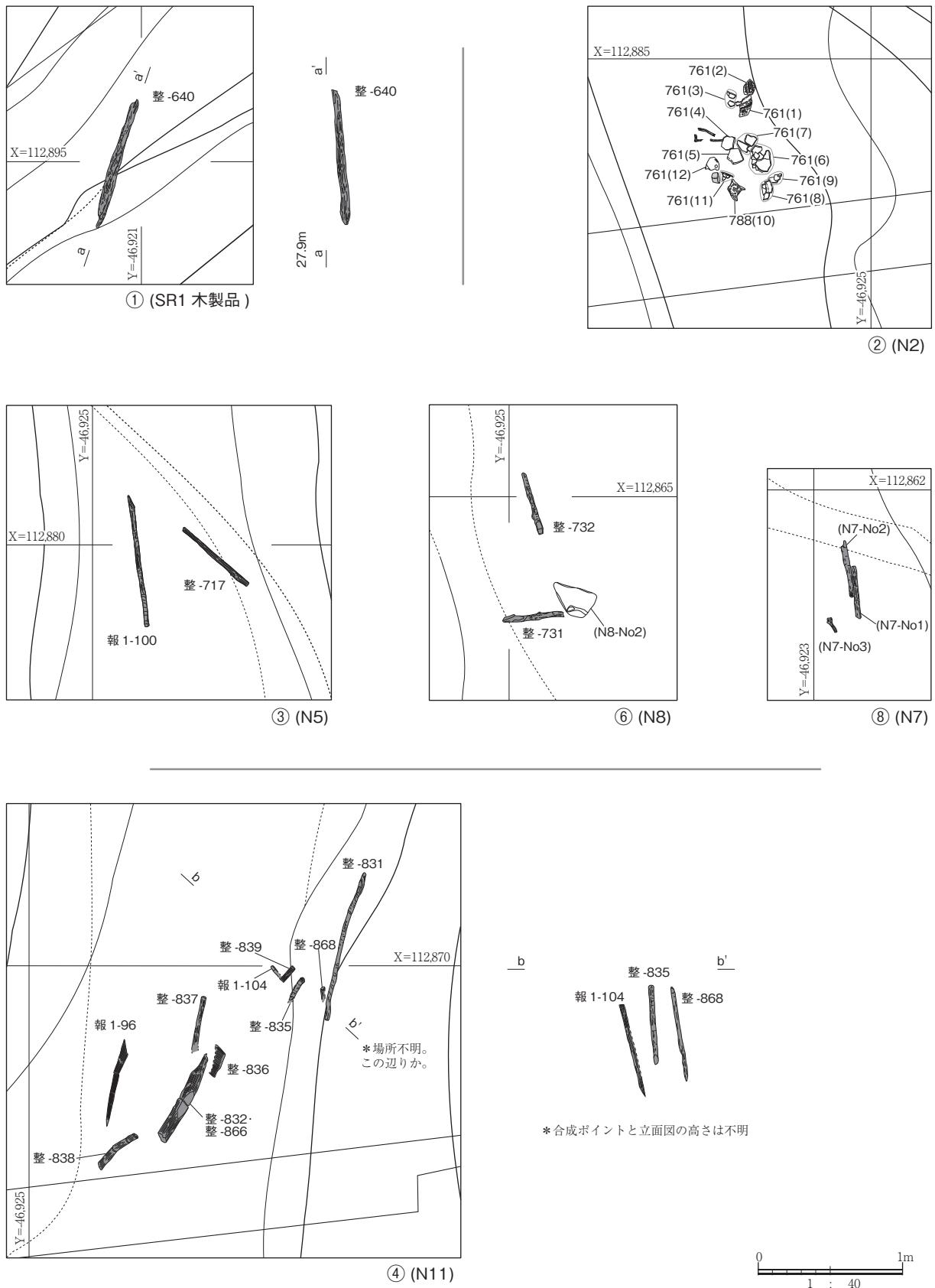


図267 SR11 遺物出土状況 4

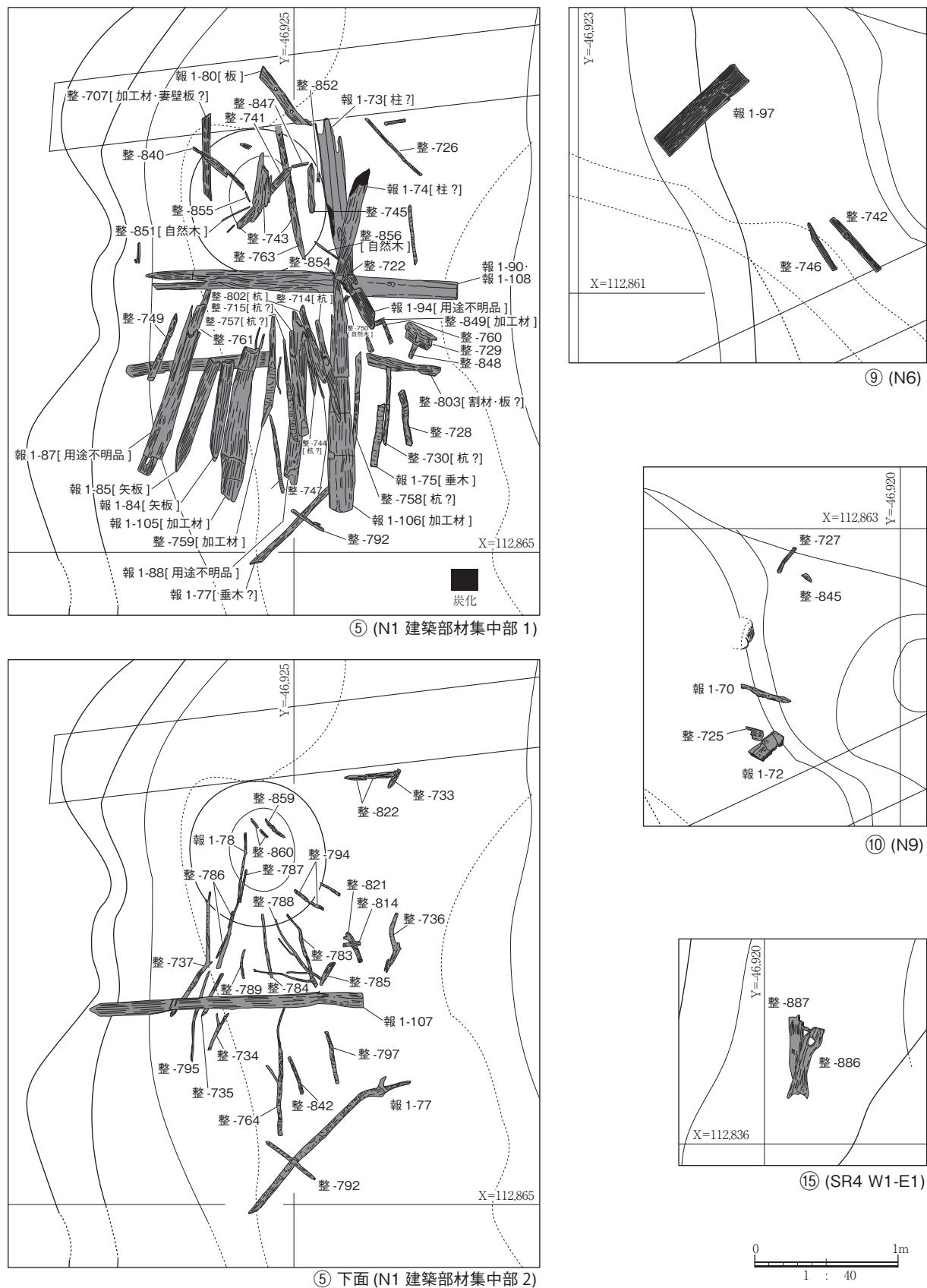


図268 SR11 遺物出土状況 5

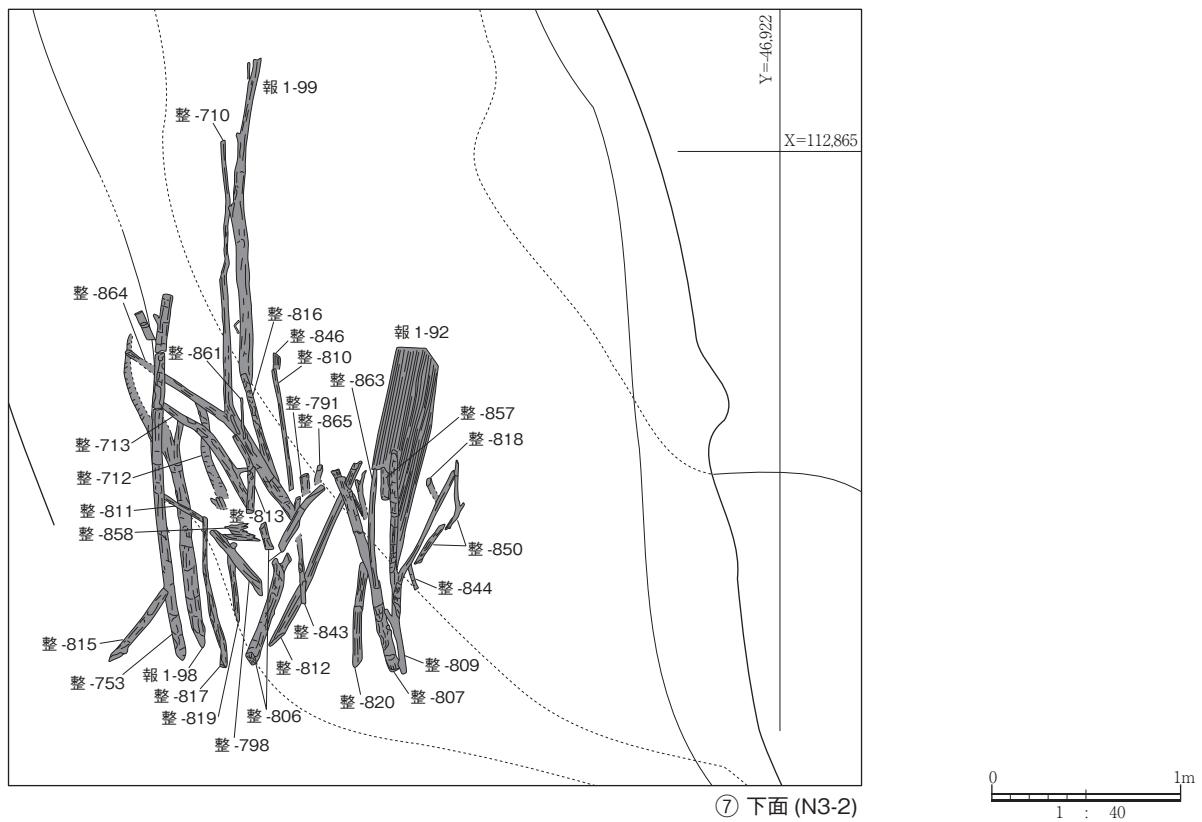
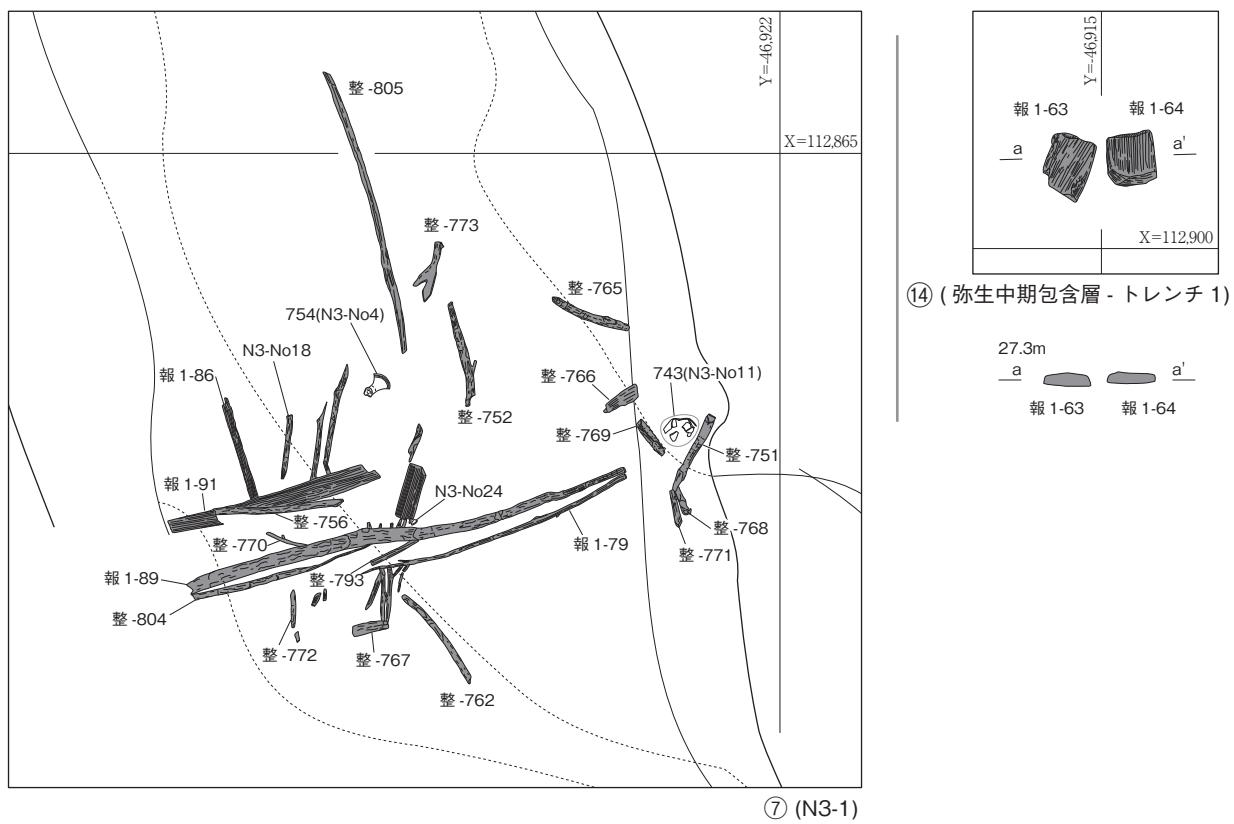


図269 SR11 遺物出土状況 6

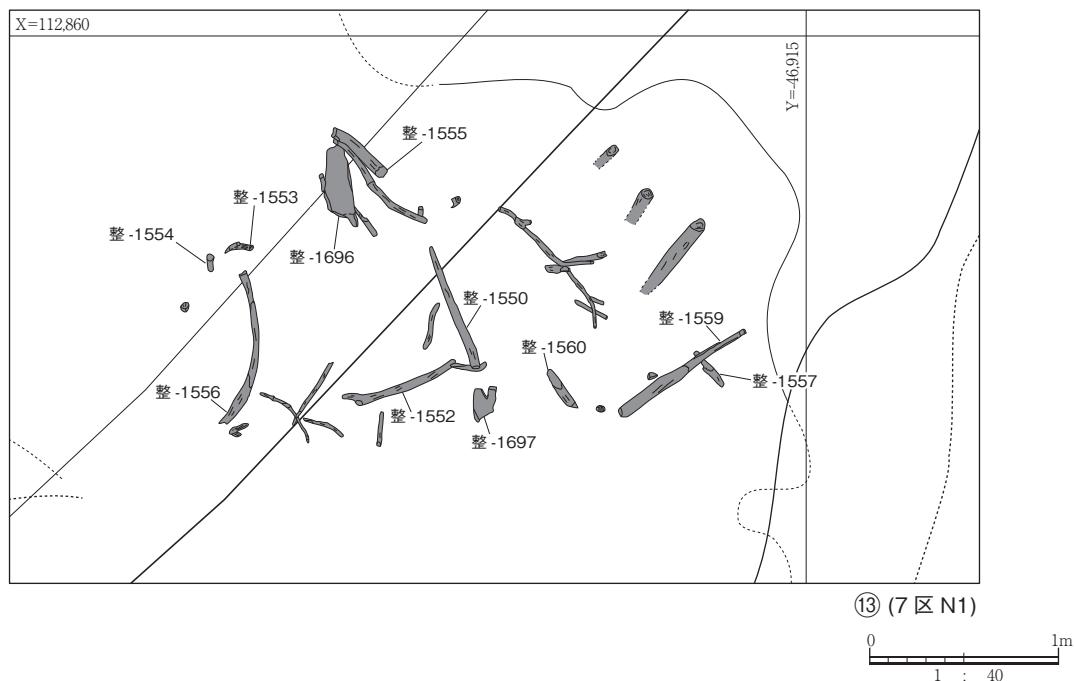
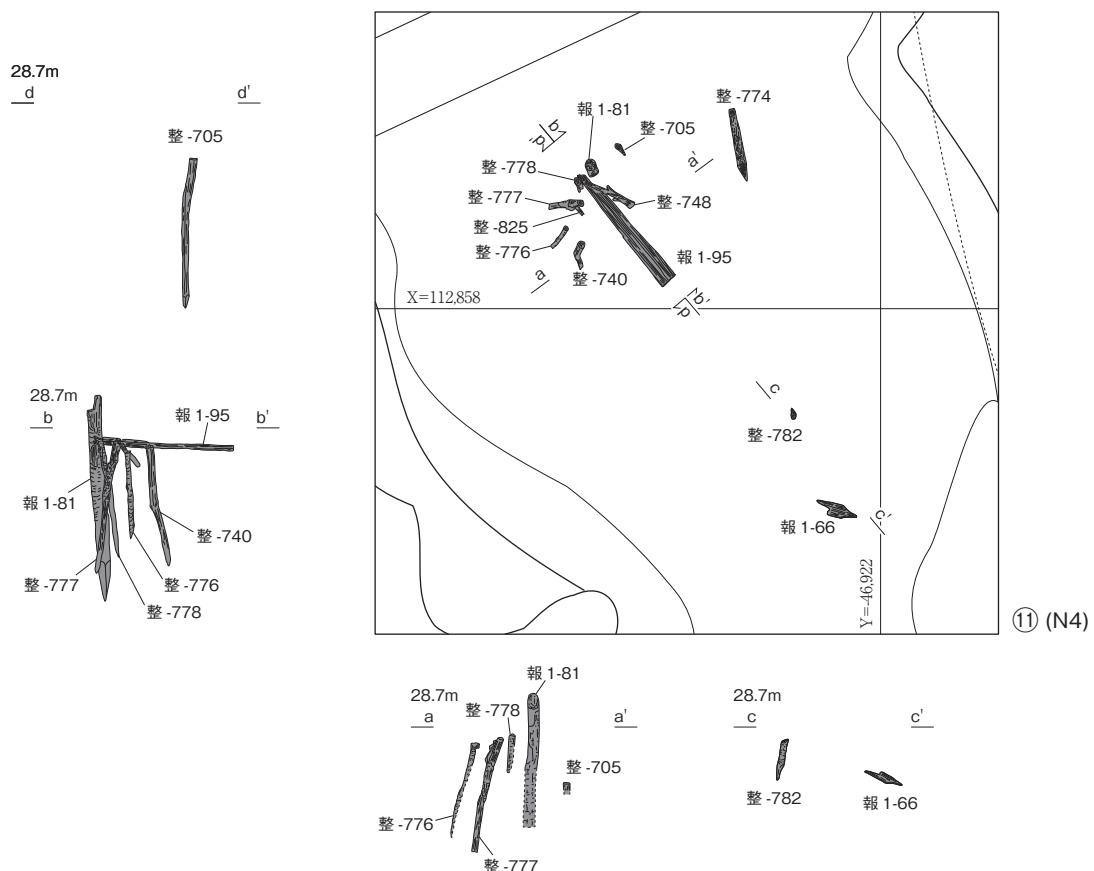


図270 SR11 遺物出土状況 7

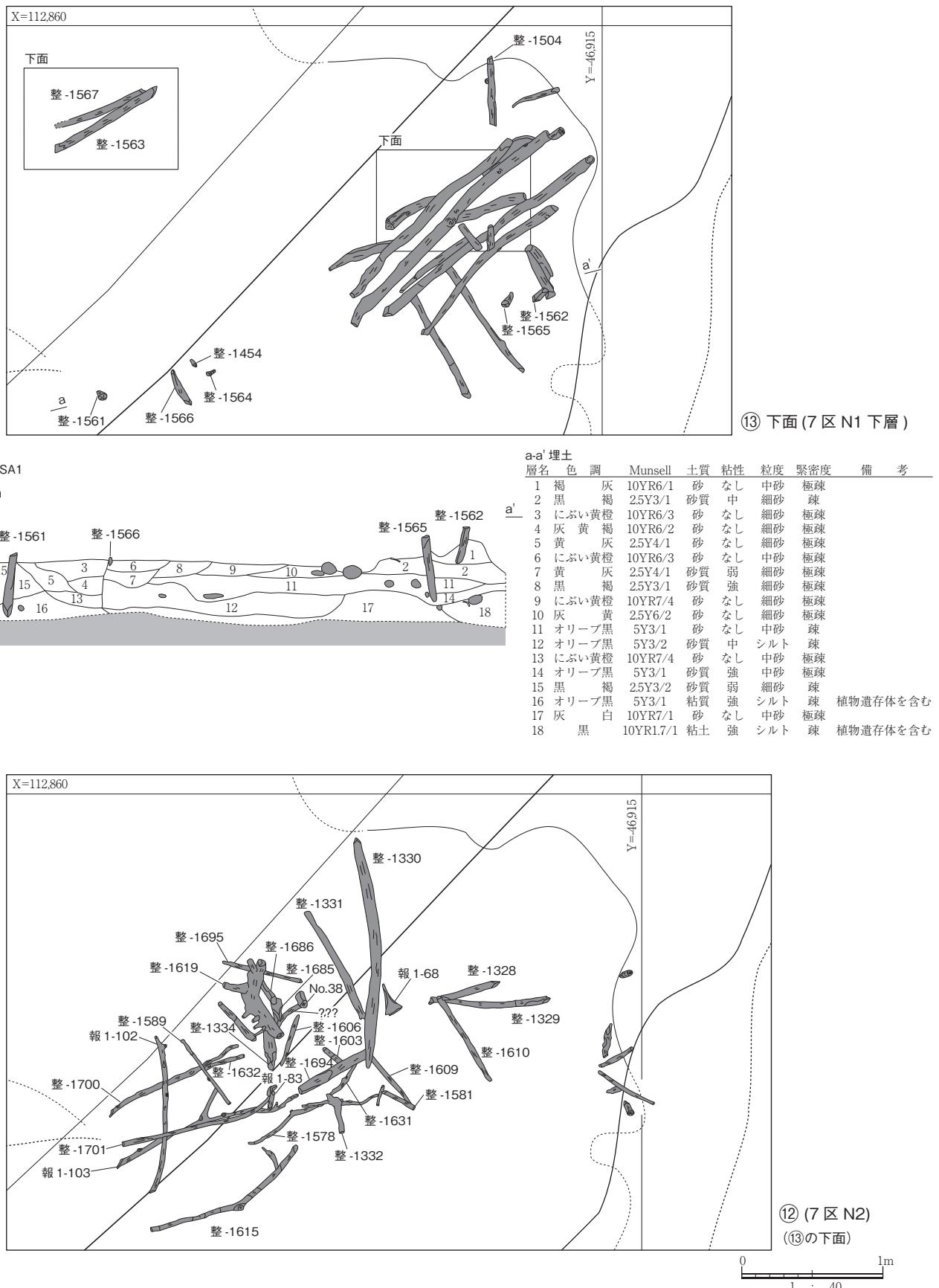


図271 SB11 断面・遺物出土状況 8



図272 SR11-SX1 遺物出土状況 1

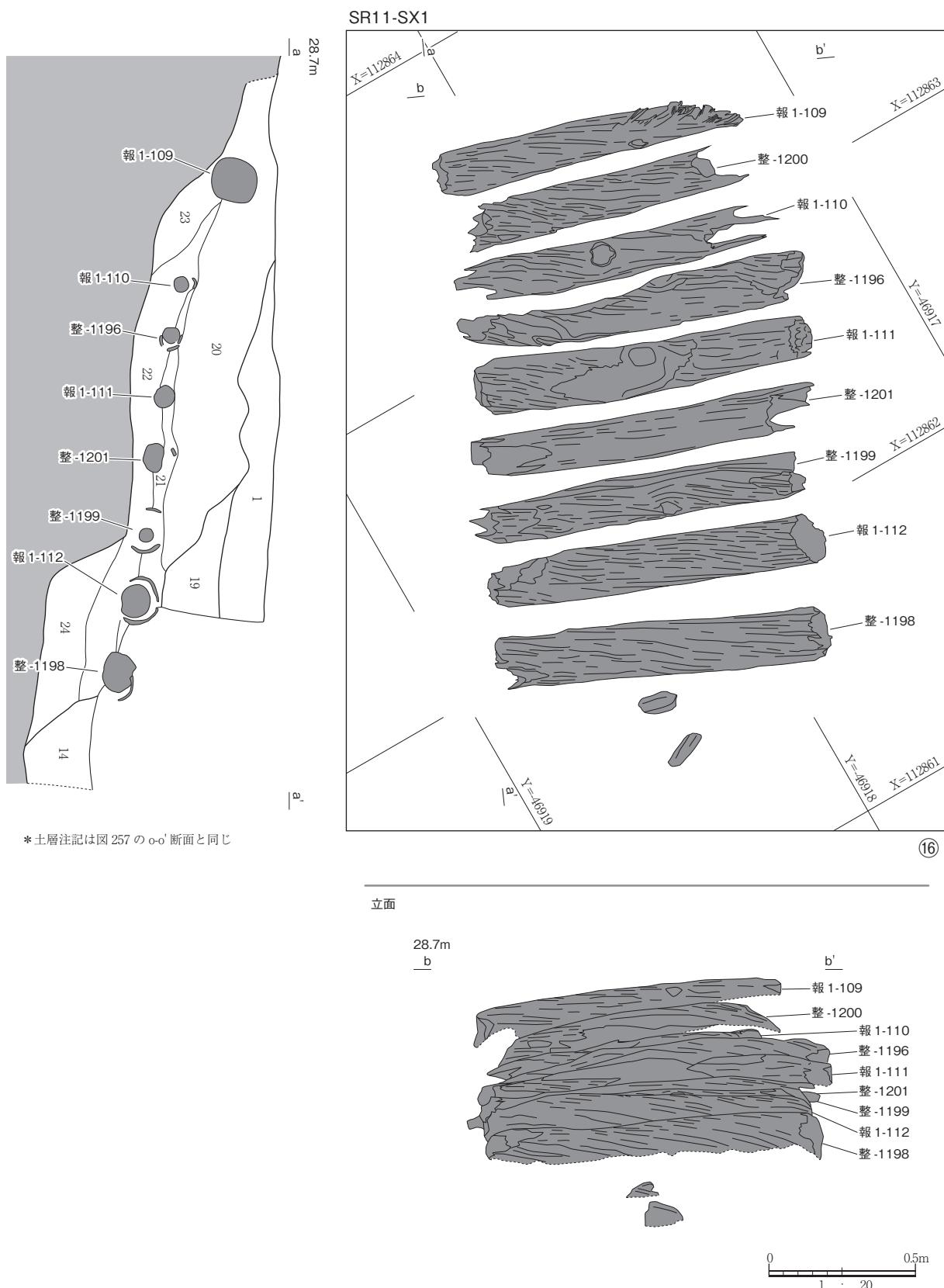


図273 SR11-SX1 断面・遺物出土状況 2

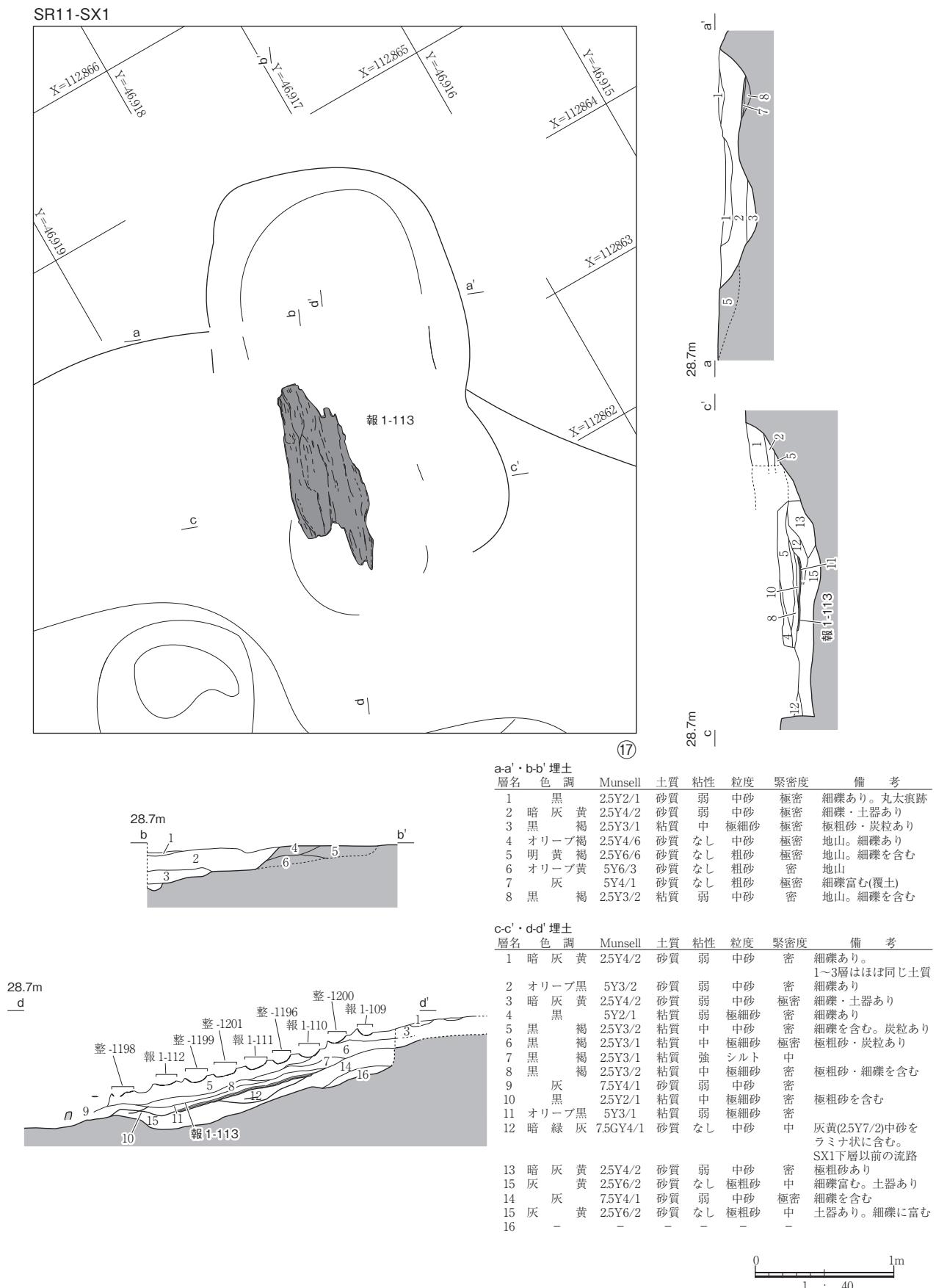


図274 SR11-SX1 断面・遺物出土状況 3



図275 SR11 B・C地点 遺物出土状況

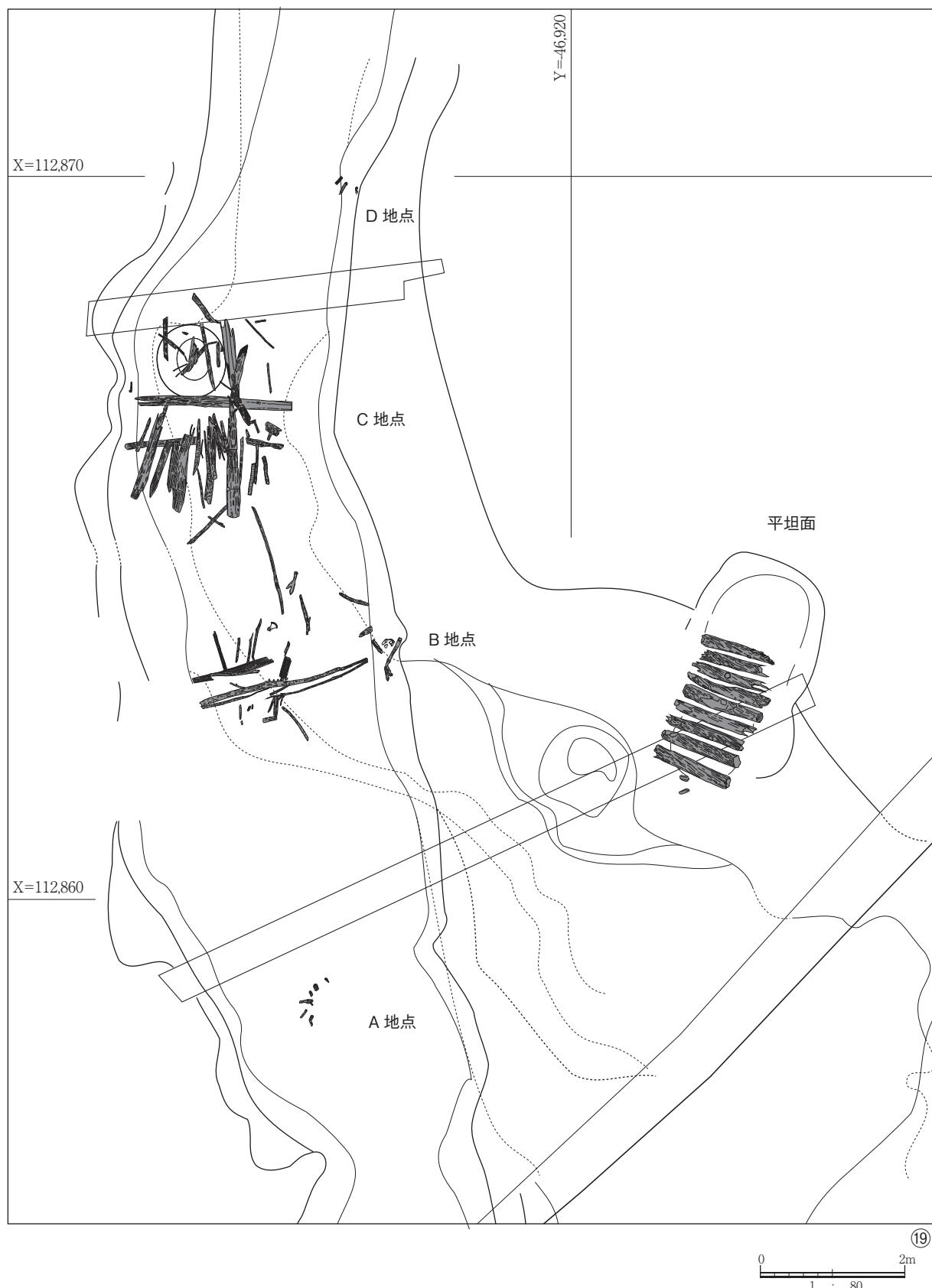


図276 SR11-SX1・A・B・C・D地点 遺物出土状況

により流出した可能性も推測される。B地点では、建築部材と判断された材は少ないが、C地点同様に材のいくつかが流路に直行するような状況で出土しており、B地点同様に堰が流出した可能性が考えられる。両地点では打ち込まれた杭はとらえられていない。これらの構造物とSR11-SX1との併存関係については、流水の影響により壊されているため断言できない。自然科学分析によるとSR11-SX1を構成する丸太の伐採年代は少なくとも紀元前303年以降とされる(『報告書1』第4章第5節参照)。SR11-SX1と構造物が同時期に機能していたならば、両者については水をせき止めて木材などを集積し、丸太列を使用して木材を引き上げるといった貯木場のような施設であった可能性をここでは提示しておく。若干の平坦面の残る丸太列北方向に作業場等の存在が想定されるが、遺構は後世に削平されており不明である。

(2)遺物(図277～293) 弥生土器、弥生時代終末期～古墳時代前期の土器、須恵器1点、黒色土器1点、石器、鉄器等、948点と木質遺物が出土した。このうち木質遺物を除く157点を図化した。

**土器** 727～732は上層出土の遺物である。727は弥生土器の長頸壺で口縁部は短く外に開く。728は土師器甕で二重口縁を有する。729は頸胴部境に圧痕文突帯をもつ弥生土器甕である。口縁端部は上下にやや拡張する。730も弥生土器甕で口縁部はやや外に短く伸びる。731は須恵器蓋の破片で、内面に擦痕が残るため、転用硯とした。732は黒色土器碗である。

733は中層から出土した土師器鉢である。

734・735は下層1出土の遺物である。734は逆L字状口縁を有する弥生土器甕である。735も弥生土器甕で、如意形口縁と胴部上位に2条の沈線文をもつ。736は弥生土器鉢である。

737～760は下層2からの出土で、このうち737～743は弥生土器壺である。737は頸部に2条の沈線文が巡る。短頸広口壺738の拡張する口縁端部には明瞭な凹線文が認められる。739・740は直立する口縁部をもち、口縁部外面に数条の凹線文を伴う。741は頸胴部境の屈曲が弱く、整形は粗雑である。744は土師器壺の口縁部、745は土師器直口壺である。746～751は弥生土器甕である。746は端部に刻目文を伴う逆L字状口縁をもつ。747・748・750の頸胴部境の屈曲は弱い。749・751は頸胴部境の屈曲がやや強く、胴部はやや細身のタイプである。752～755は弥生土器高杯である。杯部752は弱い屈曲から反転して外に口縁部が伸びる。753・754は脚部下位、または脚端部と脚部下位に凹線文を巡らせ、脚部上位に複数条の沈線文をもつ。755は脚部中位に2段の円形透孔が穿たれる。756～759は弥生土器鉢である。756は口縁部が短く外に伸びるタイプ、757・758は杯部から弱く屈曲して口縁部が外に伸びるタイプである。759はボウル状で平底の底部をもつ。760は鉢の脚部だろう。

761は下層4出土の弥生土器の二重口縁甕で、肩部には波状文が認められる。

762～786は下層3出土の遺物で、このうち762～771は弥生土器壺である。762はやや拡張する口縁端部にハケ原体による文様が施されている。763・764は頸胴部境の屈曲が弱い広口壺である。766は口縁端部外面に斜格子文、頸部に沈線文が施されている。頸部下位以下を欠損するため、沈線文が2条以上であった可能性はある。767は複合口縁壺で口縁部を欠損する。頸部には斜格子文突帯が巡る。768は長頸壺の頸部である。縦位に6条の沈線文で区画し、さらにその内

部を横位に3条の沈線文で区画する。横位の沈線文の上下には3条の沈線文が半円状に認められる。772～774は弥生土器甕である。772は如意形口縁で口縁端部に刻目文をもつ。773はヨコナデにより口頸部境に強い屈曲が生じている。774はやや弱い口頸部境の屈曲から口縁部が外に外反しながら伸びる。775は土師器の甕で、口縁端部は拡張しない。776・777は弥生土器甕の胴部である。778～780は弥生土器高杯である。778は杯部が小さいため、高さもさほどないと推測される。779は拡張する脚端部に凹線文が巡る。781～786は弥生土器鉢で、781～784は屈曲して口縁部が形成されるタイプ、785・786は胴部から屈曲を経ずに口縁部にいたるタイプである。

787・788は下層4から出土した遺物である。787はボウル状を呈する弥生土器鉢で、外面にはタタキが残る。788は弥生土器器台である。2段の円形透孔が巡らされている。789～794は谷3トレンチ1として取り上げた遺物である。789は弥生土器壺で拡張する口縁端部に凹線文が認められる。790も弥生土器壺である。口縁端部にハケ原体による文様が施されている。791は弥生土器甕である。口頸部境が強く屈曲し、口縁端部は拡張しない。792は弥生土器高杯脚部で矢羽根形透孔が穿たれる。793は弥生土器鉢の底部と推測される。794は小型の器台で胴部中位に円形透孔が認められる。

795～800は谷3トレンチ2として取り上げた遺物である。795は弥生土器壺である。摩滅が顕著だが口縁端部の凹線文と頸胴部境の押捺突帯文を確認することができる。796・797は弥生土器甕である。798は弥生土器甕で外面の胴部から口縁部にかけてタタキが残る。799・800は弥生土器鉢である。

801は谷3トレンチ3として取り上げた弥生土器甕で、口頸部境の屈曲はやや弱くなっている。

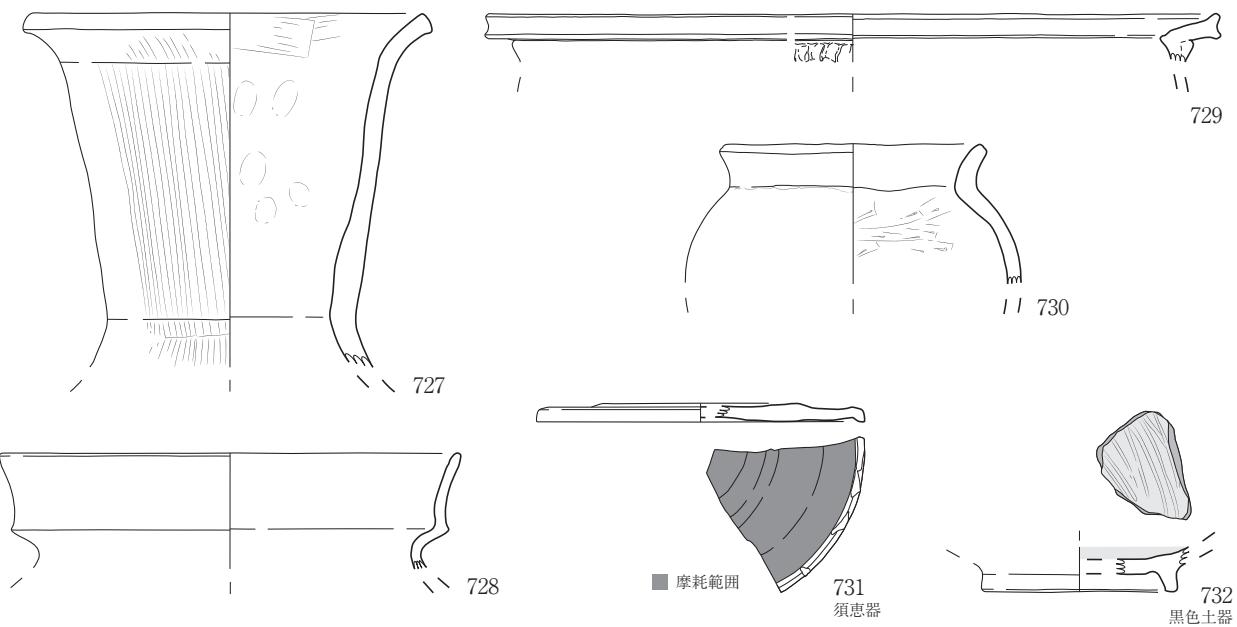
802は旧SR04トレンチ6として取り上げた弥生土器壺である。口縁端部には沈線文状の文様、頸部には連続する爪形文が施される。

803は旧SR08トレンチGHとして取り上げた弥生土器鉢の底部である。

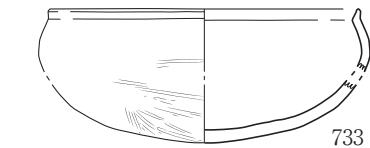
804はトレンチ1として取り上げた弥生土器壺の口縁部で、上位に4条の凹線文が巡る。

805～869は出土層位不明の遺物である。805～827は弥生土器壺である。805は大型の壺で口縁端部に1条の沈線文を有する。806は頸部に3条の沈線文を巡らせている。807・808は口縁部外面に複数条の凹線文をもつ短頸直口壺で、808は口縁端部上面にも凹線文が認められる。弥生土器壺の口縁部片809の端部には刻目文が施されている。810は口縁部を失っているが、短頸広口壺、または短頸直口壺だろう。811～813は広口壺で口縁端部外面には凹線文を残している。818は上方に伸びる口縁部外面に3条の凹線文が施されている。819・820は複合口縁壺である。821は二重口縁壺の可能性がある。822の頸部下位には突帯が添付され、突帯とその下位に連続する刺突文が巡らされている。823の頸部中位には大きめの竹管文が2個一対で認められる。824は長頸壺の頸部と推測される。複数条の沈線文による絵画、または記号が表現されている。825の突帯の文様はハケ原体によると推測される。828～846は弥生土器甕である。828～831は如意形口縁を有し、828は無文、829～831は3～4条の沈線文をもつ。832も如意形口縁で条数は不明だが沈線文が巡る。833の頸部には押捺突帯文が巡り、口縁部はやや拡張する。834～836の口縁部は拡張し、一部には凹線文も認められるが、口頸部境の屈曲は弱くなっている。839・840は小型で胴が張る

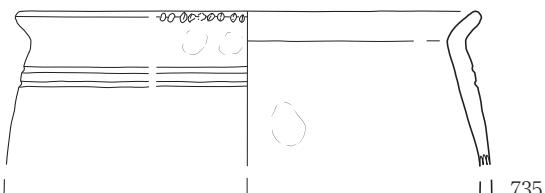
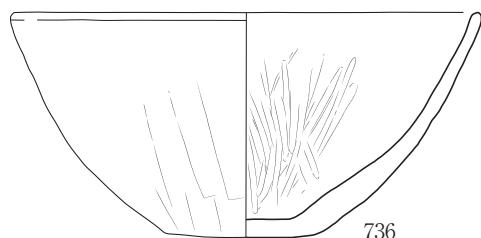
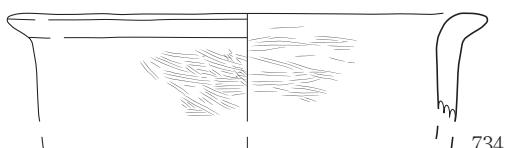
上層



中層



下層 1



下層 2

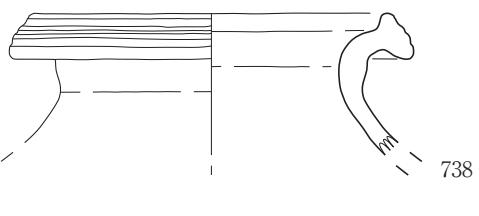
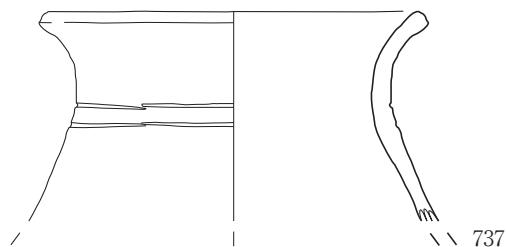


図277 SR11 出土遺物 1

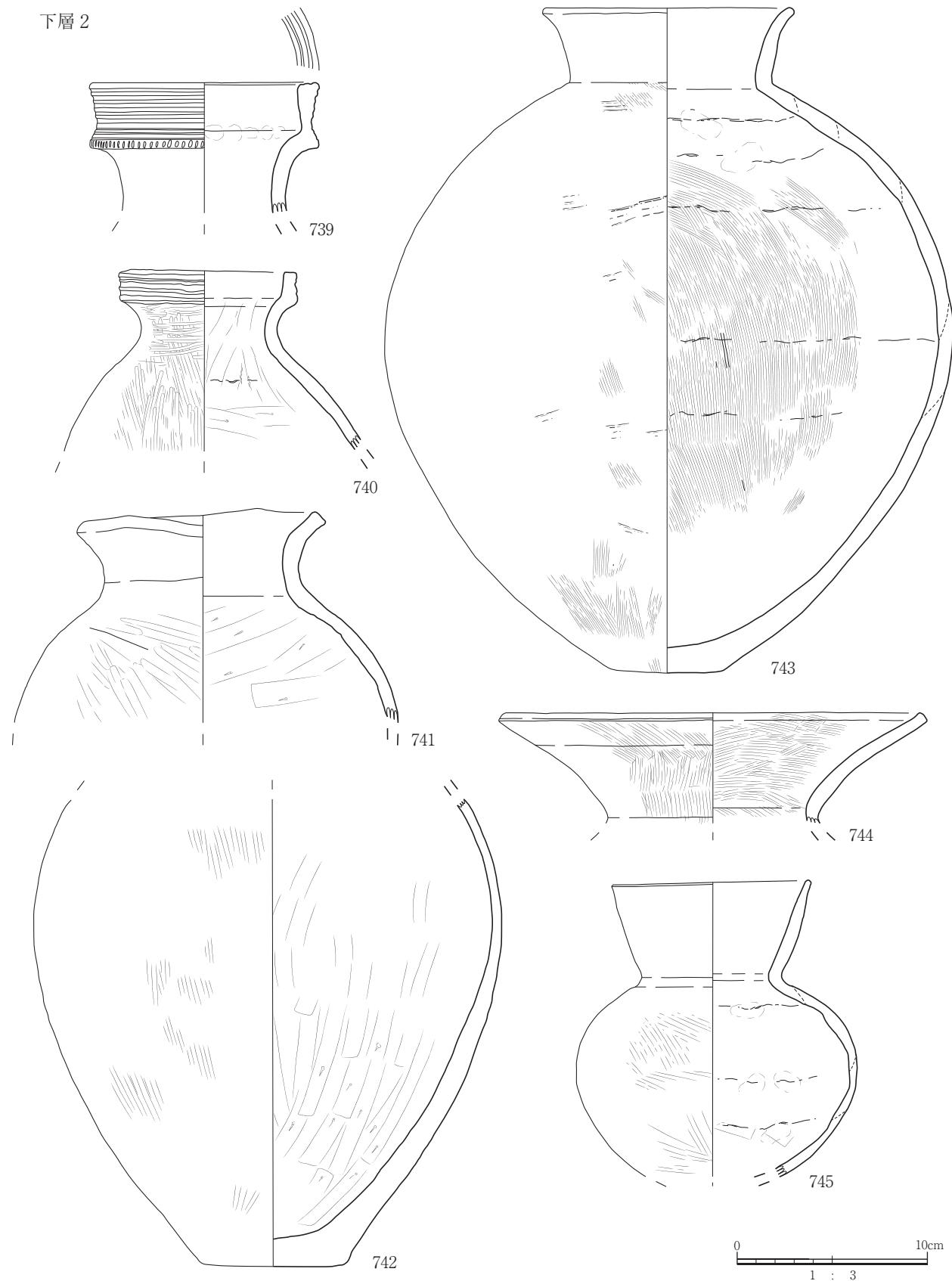


図278 SR11 出土遺物 2

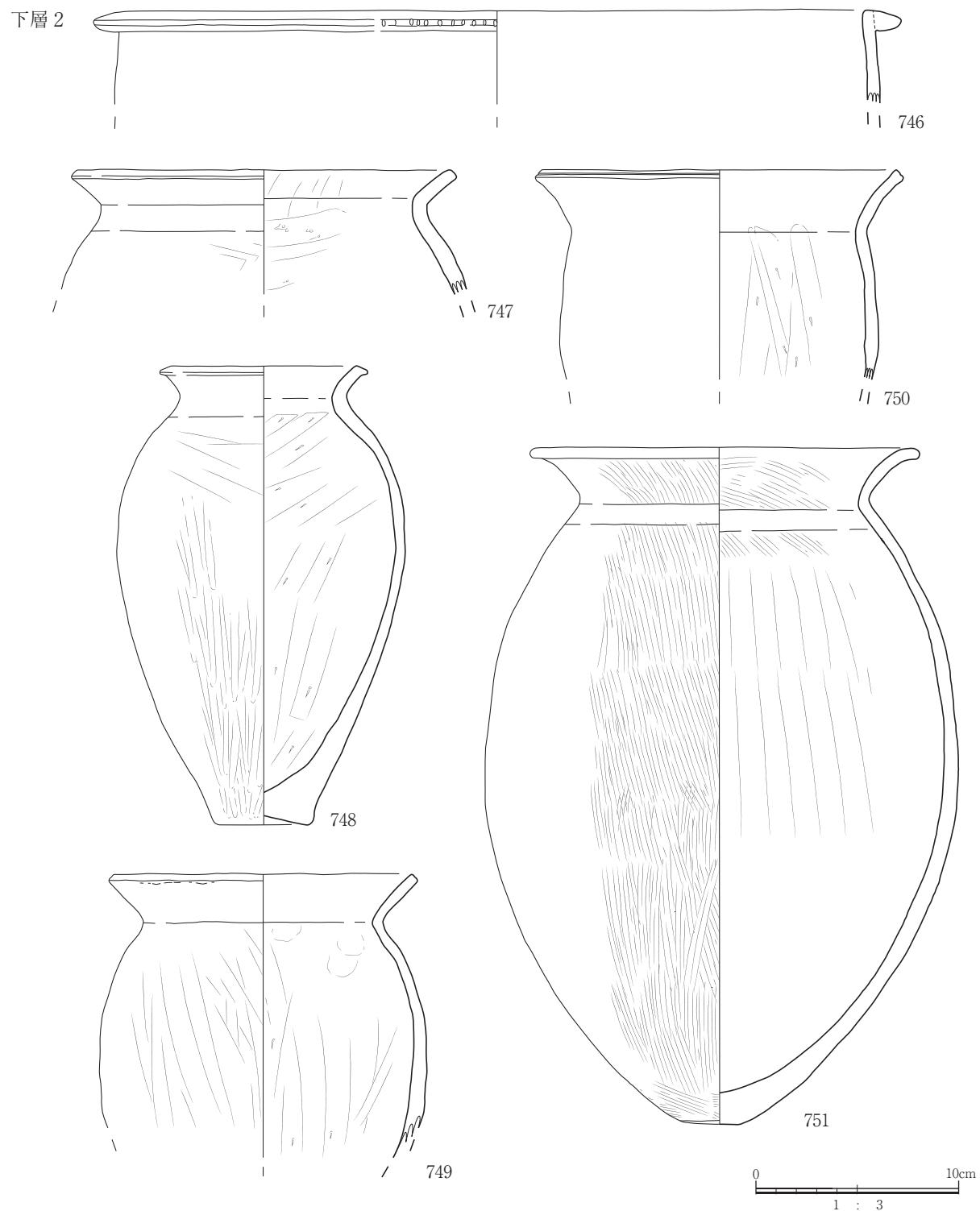


図279 SR11 出土遺物 3

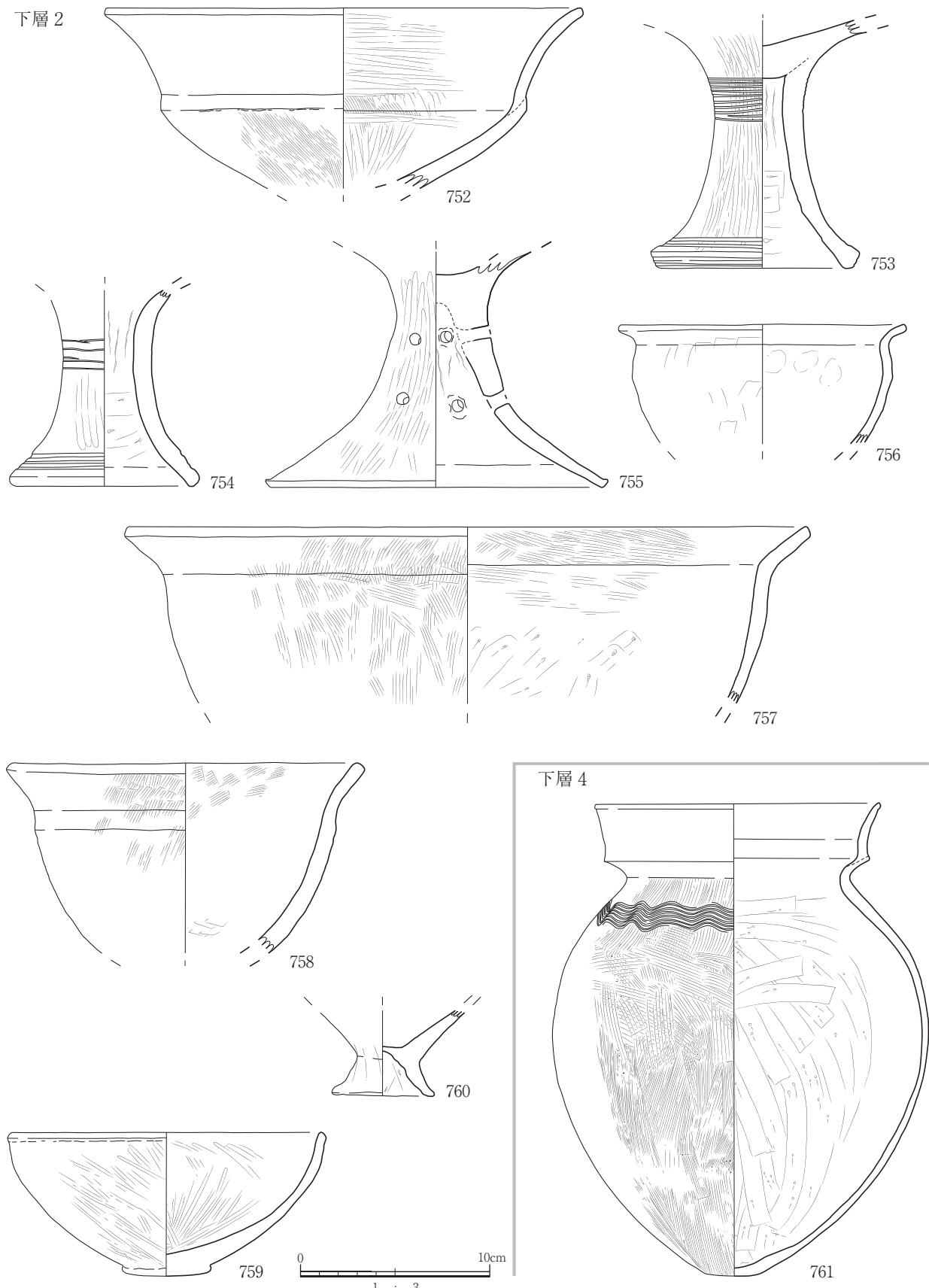


図280 SR11 出土遺物 4

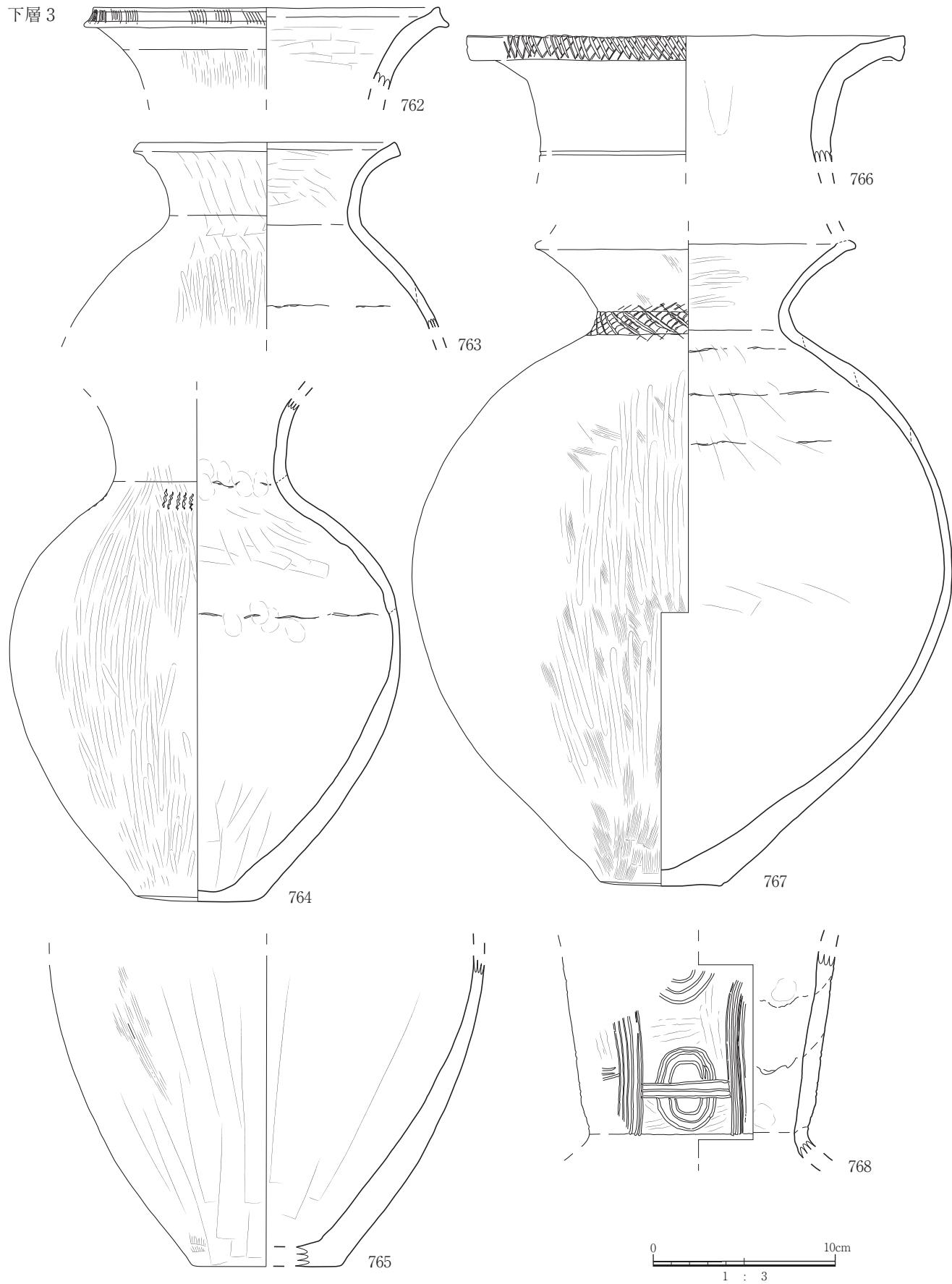


図281 SR11 出土遺物 5

下層 3

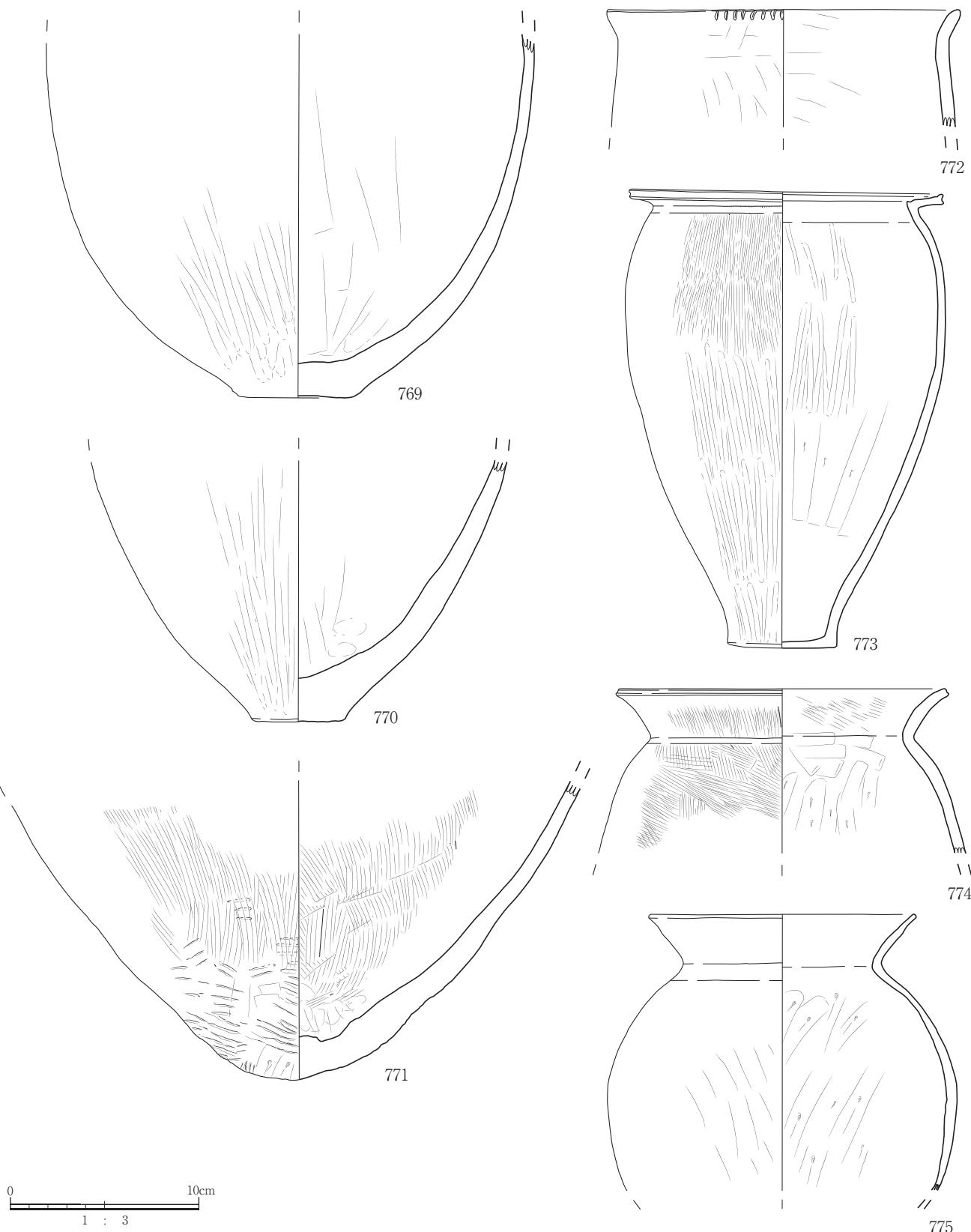


図282 SR11 出土遺物 6

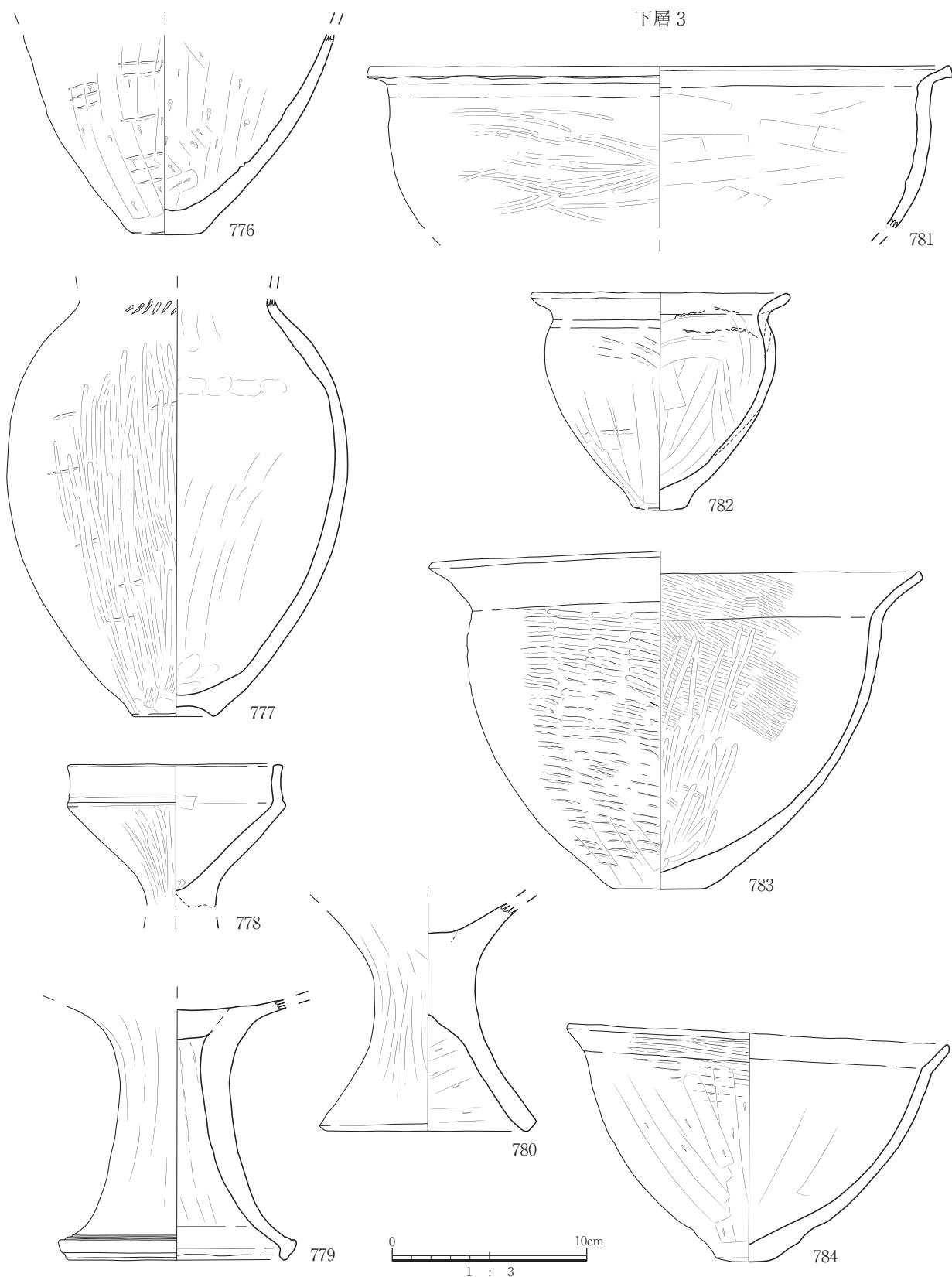


図283 SR11 出土遺物 7

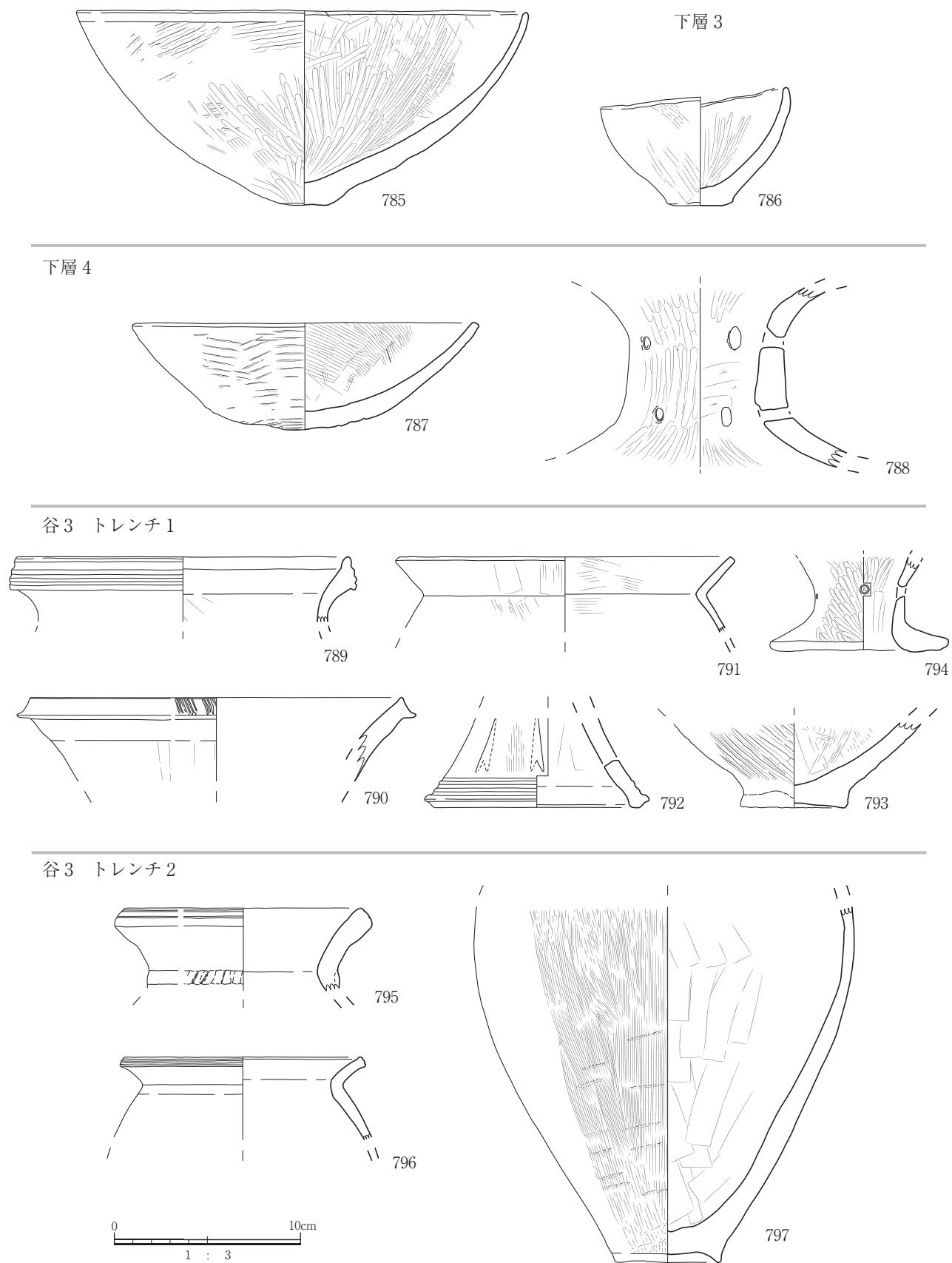
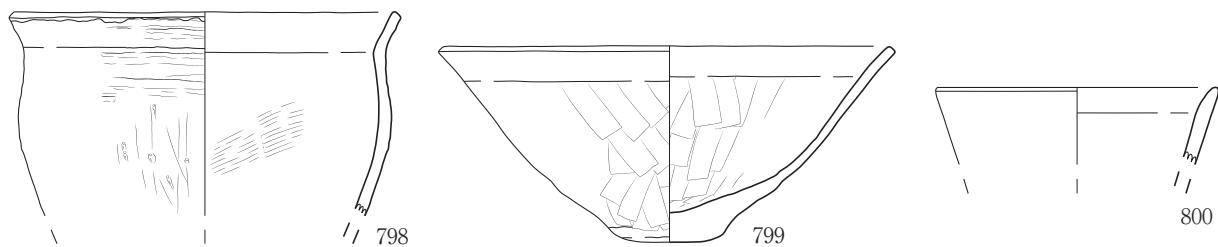
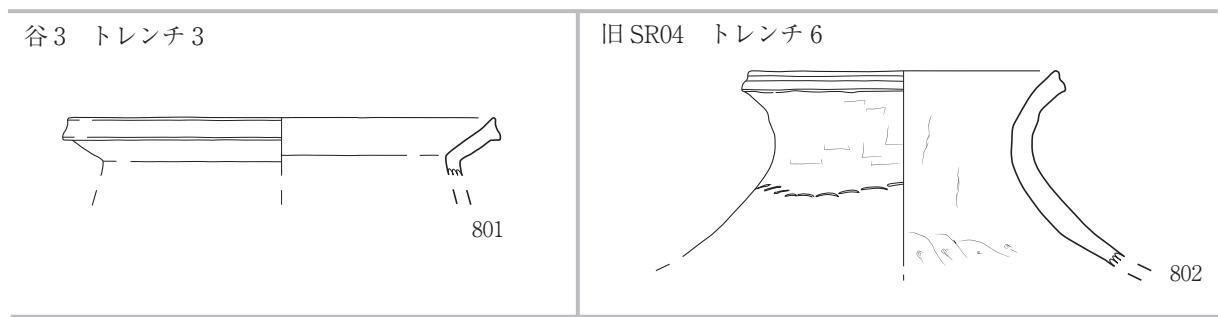


図284 SR11 出土遺物 8

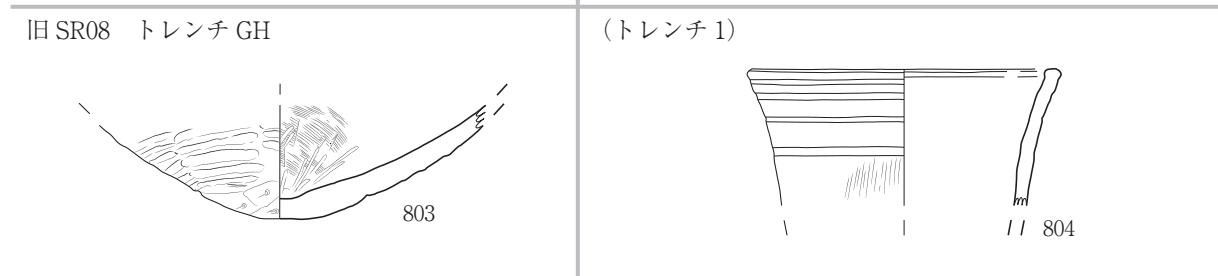
谷3 トレンチ2



谷3 トレンチ3



旧SR08 トレンチGH



層位不明

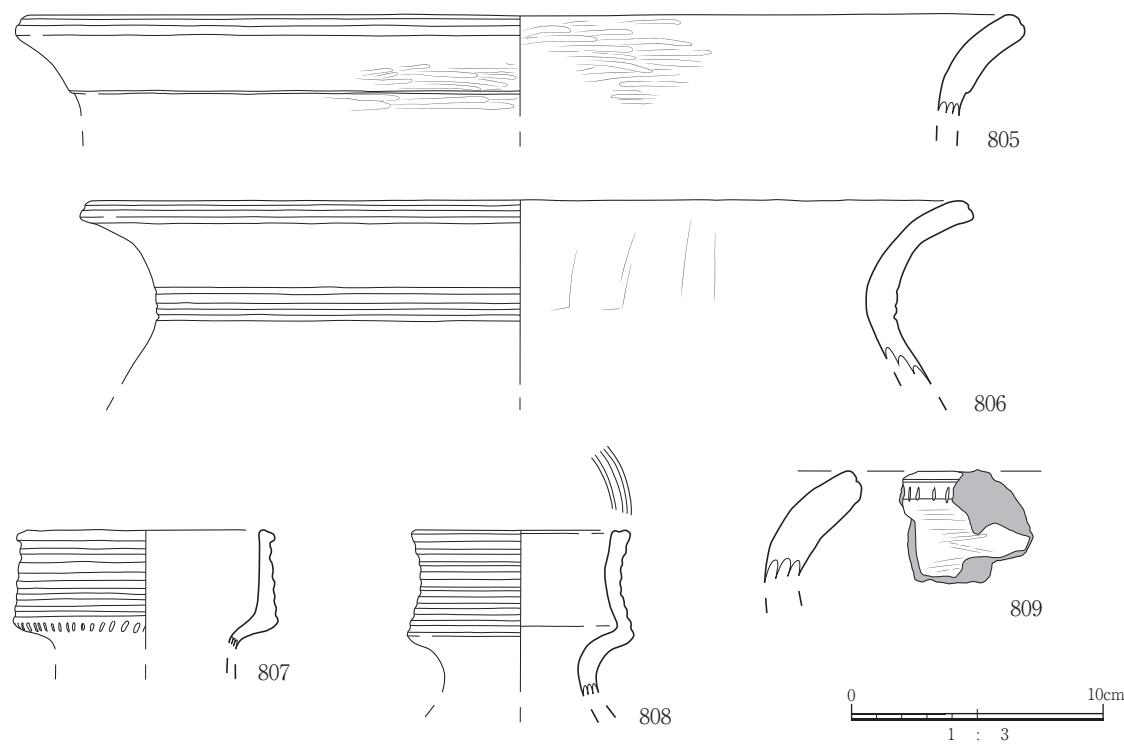


図285 SR11 出土遺物 9

層位不明

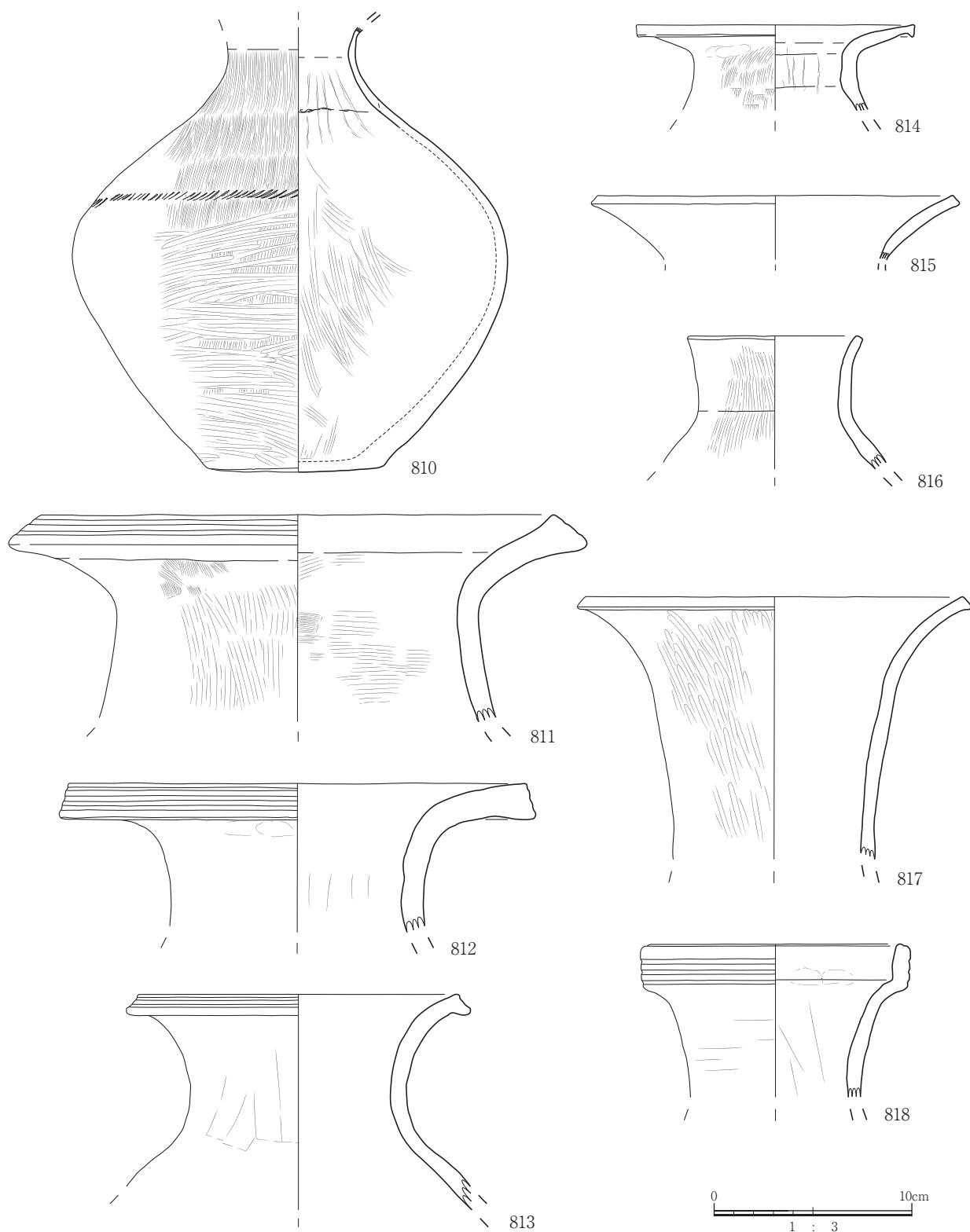


図286 SR11 出土遺物 10

層位不明

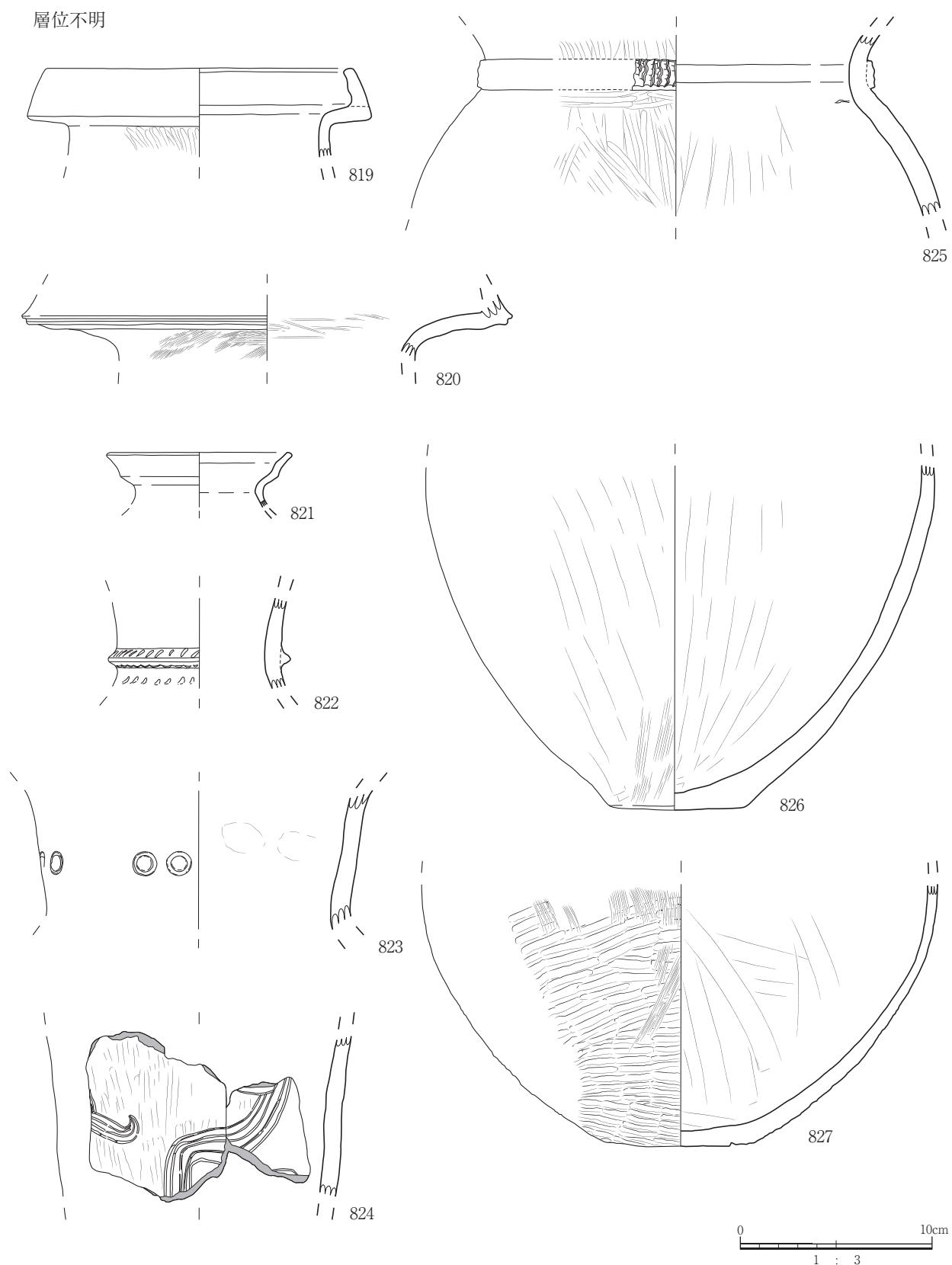


図287 SR11 出土遺物 11

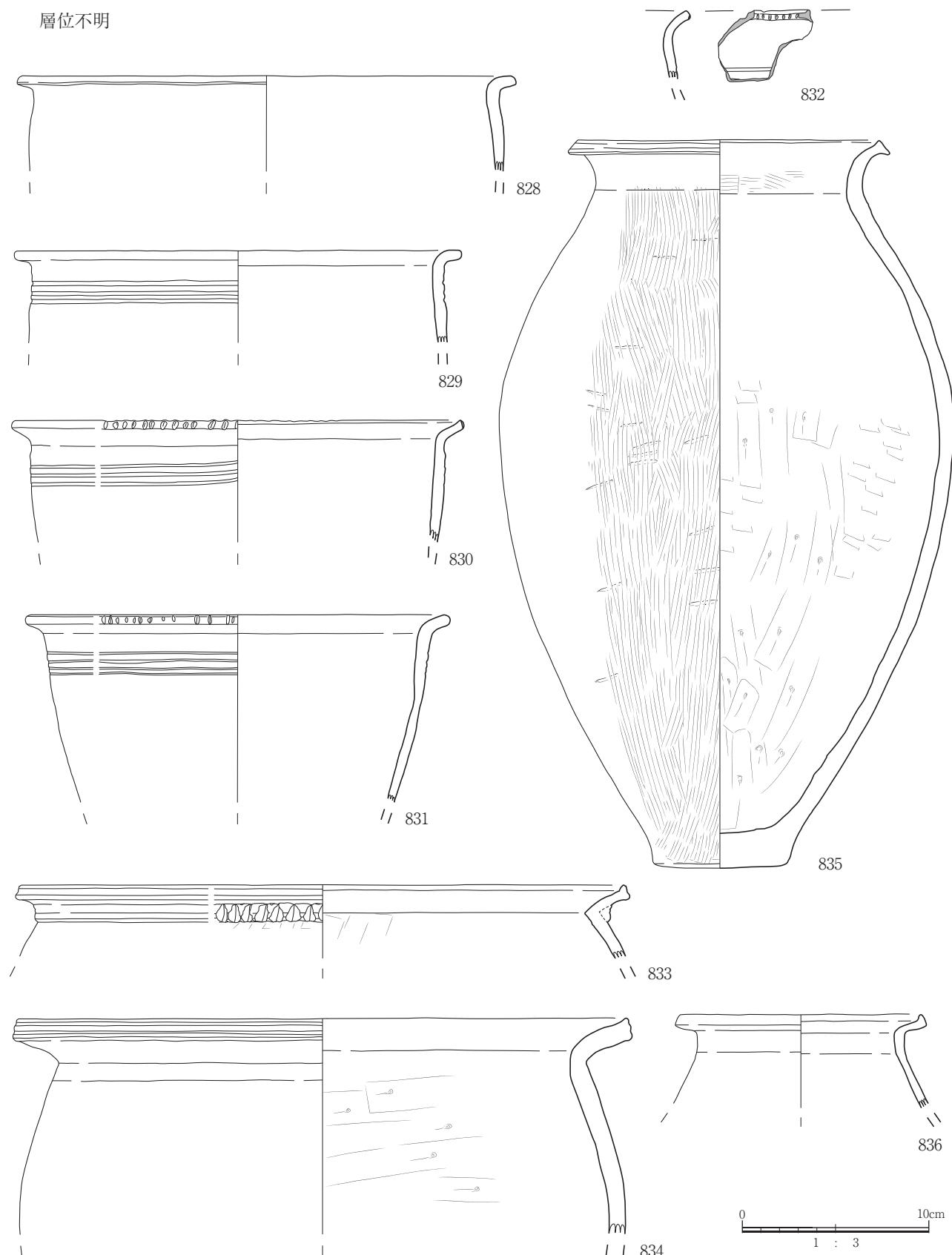


図288 SR11 出土遺物 12

層位不明

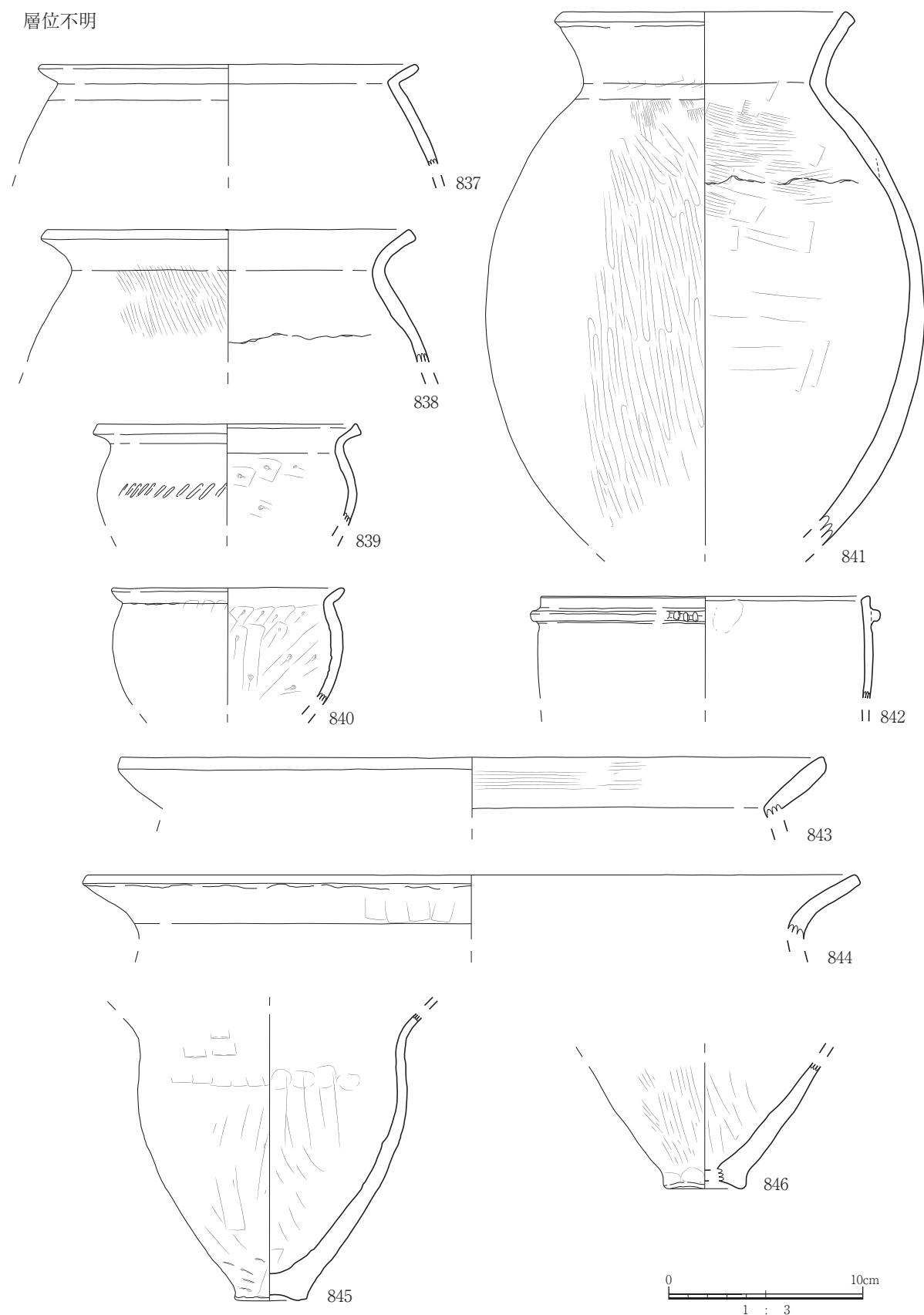


図289 SR11 出土遺物 13

層位不明

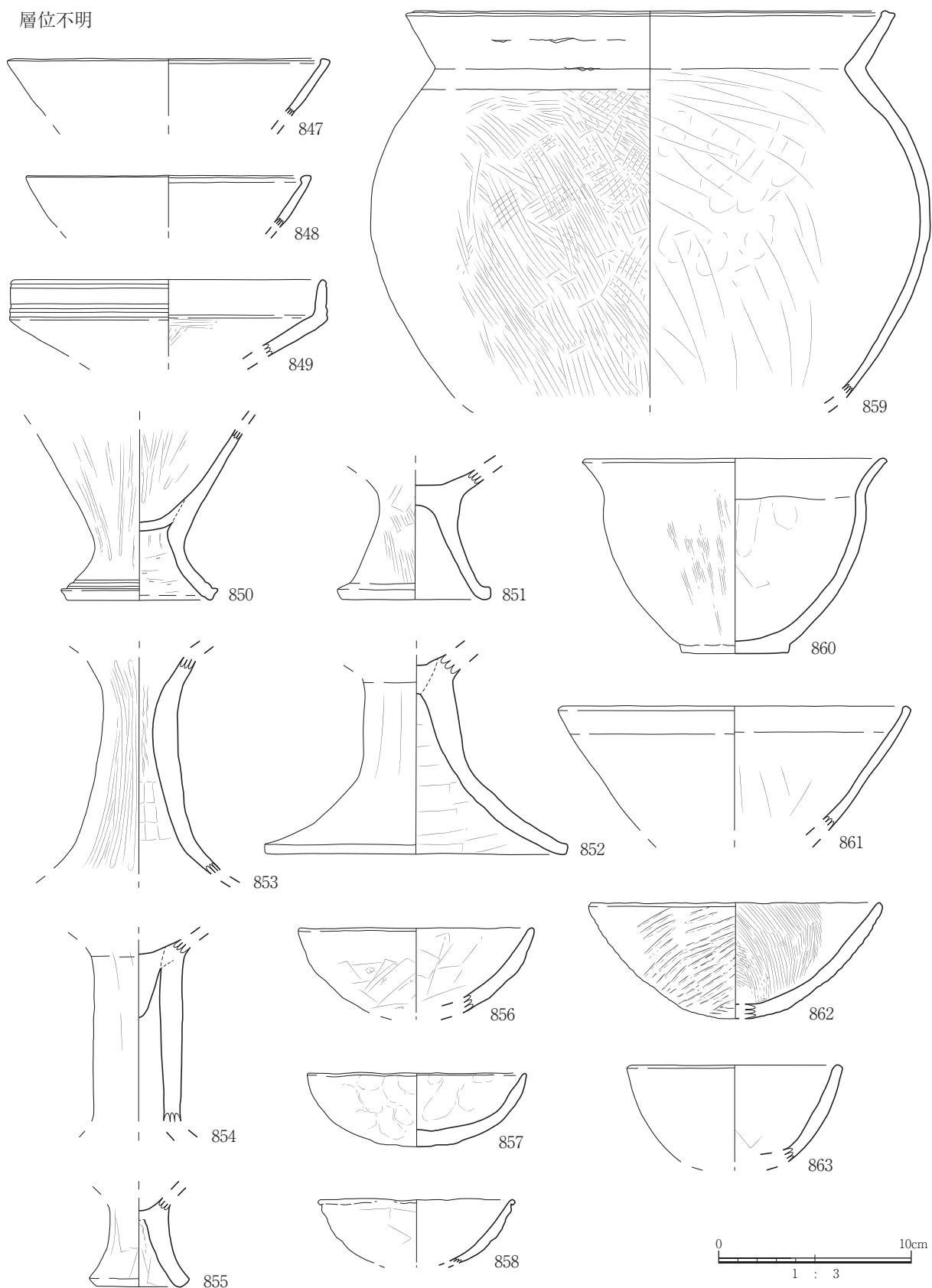


図290 SR11 出土遺物 14

タイプである。842は口縁端部からやや下がった位置に刻目文をもつ貼付突帯が巡る。843・844は大型の甕の口縁部だろう。845・846は底部に向かってすぼまるタイプで、845は底部付近にタタキを残す。847・848は土師器甕で、口縁端部は内面に若干突出する。849～855は弥生土器高杯である。855は口縁端部上面に凹線文を有する。856～858は弥生土器、または土師器の鉢で、いずれもボウル状を呈する。859は土師器甕で、口縁端部は内面に若干突出する。860～867は弥生土器鉢、868は須恵器杯である。869は弥生土器壺または甕を転用した紡錘車である。

**石器** 870は濃緑色を呈する緑色片岩製の石庖丁である。体部のほぼ全面が研磨され、背部は敲打によって調整されている。残存する紐穴1孔は回転穿孔法による。871はサヌカイト製の石庖丁でA面右側を折損し、A面左側縁には自然面が残る。背部、抉りには敲打がおこなわれている。刃部は摩耗し、刃部に近い稜線付近にはコーングロス状の光沢が認められる。872はサヌカイト製の石庖丁である。横長剥片を素材とする。両側縁に抉りをもち、刃部は細かな剥離によって形成される。自然面を背部とし、背部の一部に敲打が行われている。873は濃緑色を呈する緑色片岩製の扁平片刃石斧で、上部を欠損する。研磨はほぼ全面に及ぶ。側面に平坦面は形成されていない。片理の方向は刃線方向に並行する。874は緑色片岩製の柱状片刃石斧の刃部付近で、体部から基部を欠損する。残存する3面ともに研磨は非常に丁寧である。875はサヌカイト製の剥片のA面右半部の上下端部に敲打痕が残る。両極打法による剥片獲得を試みた石核とした。下端部は本来刃部とあったとみられ、元はスクレイパーの可能性がある。876・877はサヌカイト製のスクレイパーである。878は緑色片岩製の提砥である。A面、B面ともに擦痕が残る。879～882はサヌカイト製石鎌で、879・881は凹基式、880・882は平基式である。

**鉄器** 883は板状鉄斧である。全長22.70cm、最大厚1.55cm、刃部幅は残存部が最大で4.50cm、基部幅は3.10cm、重さ412.02gである。厚さのピークは中心からやや下がった部分にある。実測図の矢印の範囲は使い減りの可能性がある。基部は刃部に比べ幅がやや狭く、刃部は緩やかにバチ形に広がる点や両側面が丁寧に鍛打されている点などの製作技法的な特徴から、朝鮮半島南部で

層位不明

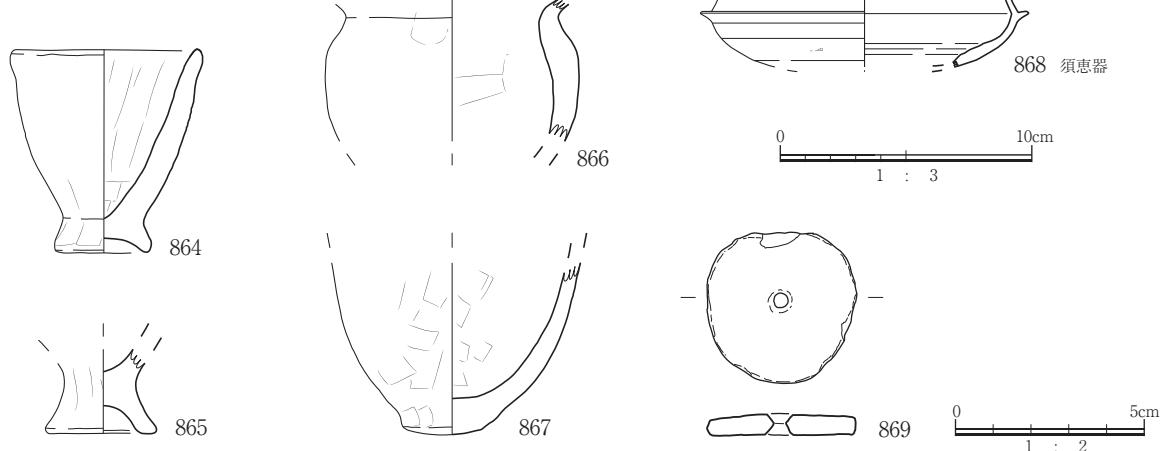


図291 SR11 出土遺物 15

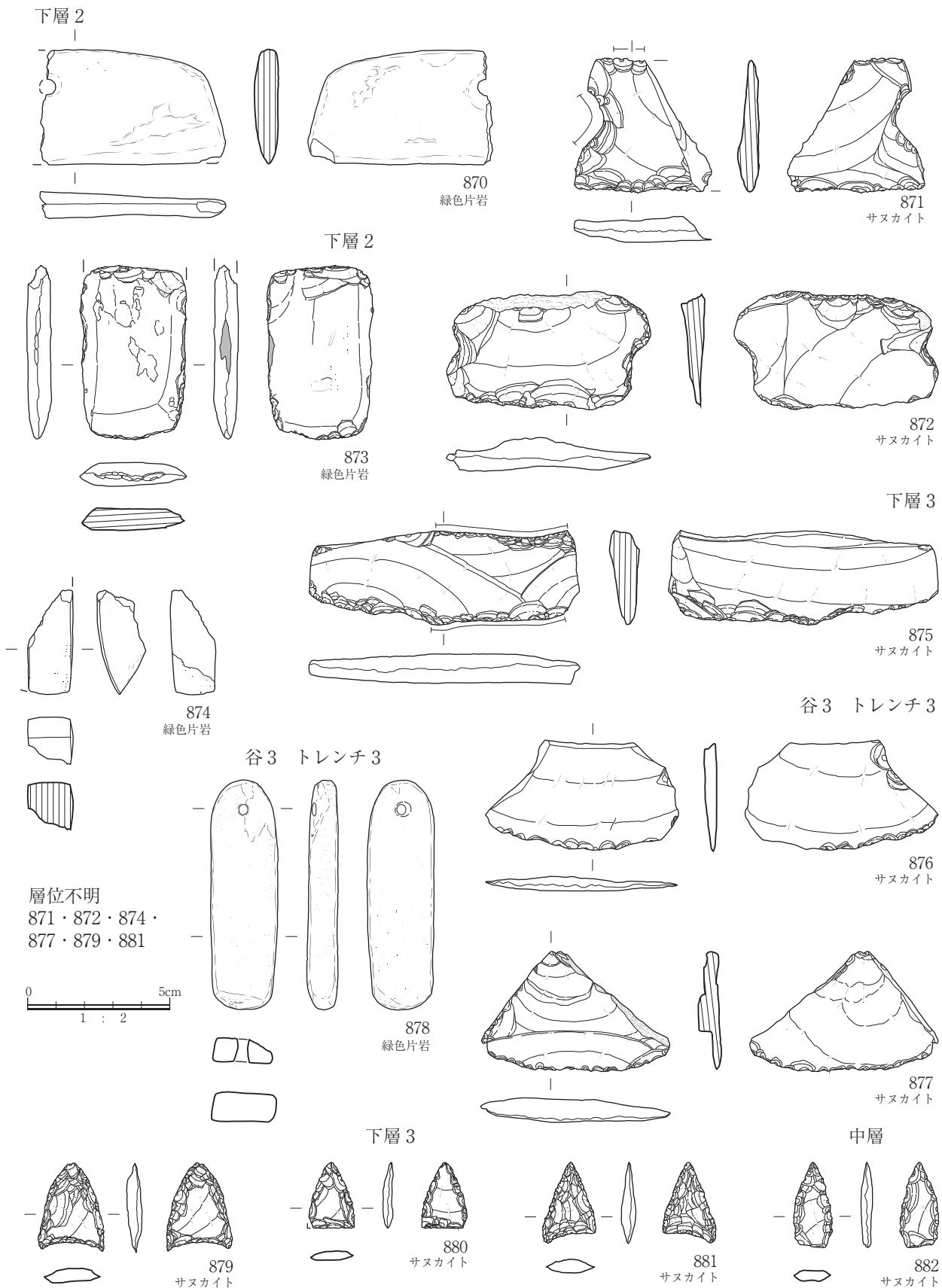


図292 SR11 出土遺物 16

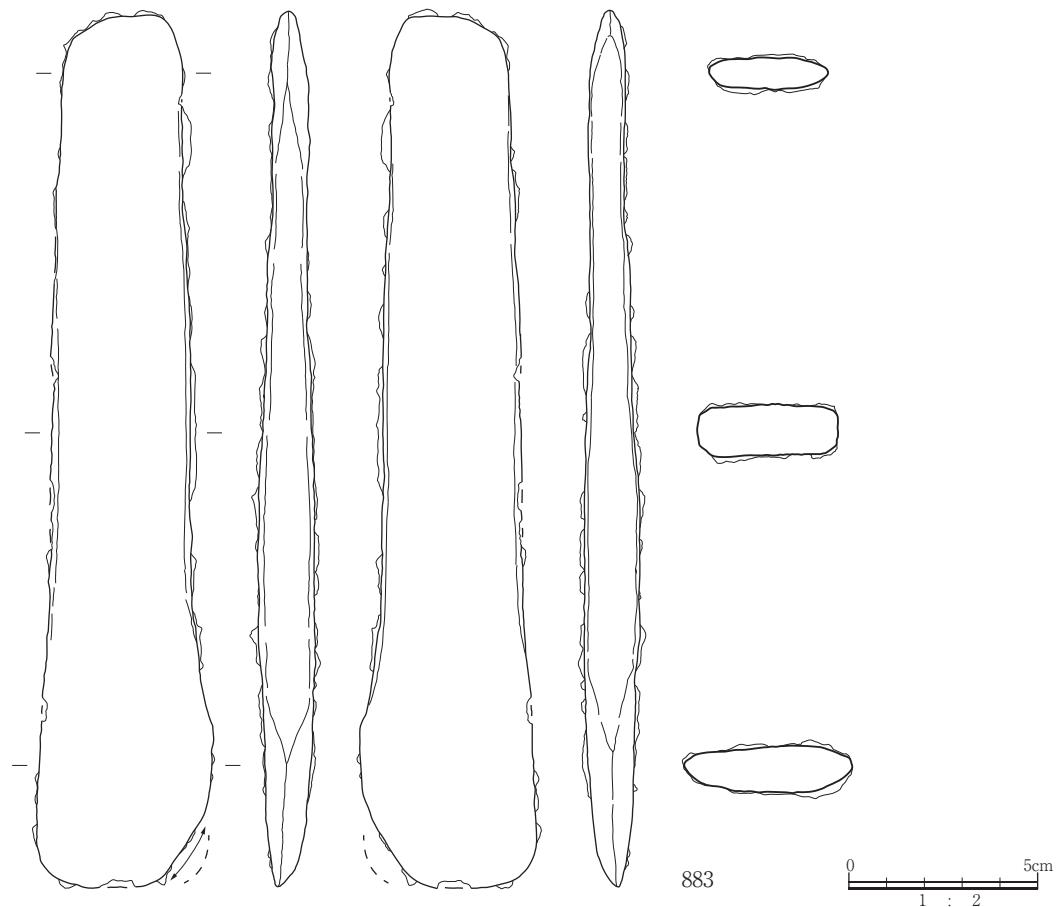


図293 SR11 出土遺物 17

製作された蓋然性が高く、製作時期は弥生時代中期末から後期にかけてと考えられる<sup>1</sup>。類例は兵庫県三田市中西山遺跡、兵庫県淡路市五斗長垣内遺跡、神奈川県海老名市川原口坊中遺跡などにある。

(3)時期 下層は弥生時代終末期(VI-1～VI-2様式)も目立つが、745・752・761・775から古墳時代前期(I-1期)と考えられる。弥生時代終末期～古墳時代前期(VI-1様式～I-1期)のSR29に後出することも含めて、中層、上層も後続する段階を含む同時期(古墳時代前期、I-1～I-2期)と判断できる。8世紀、10世紀を示す731・732は上面を覆う層に伴うものだろう。

## 10 SR12 (10区-SR10) 浅谷1-A

(1)遺構(図294～296) SR12は北東へ向かって伸びる溝で、長軸方向はN-28°-E、である。最大深度は0.45mである。埋土は複数層ある。弥生時代終末期～古墳時代前期のSR29に後出する。

堰状遺構(図297・298) 上流側に堰状遺構をもつ。この堰状遺構は流路の長軸(N-28°-E)から西に53°傾いており、流路方向を変える役割をもつと考えられるが、流れが変化すると想定される方向(N-23°-W)には流路のような遺構はみられなかった。堰状遺構の材の杭は現状で4本残存

しており、杭(整-1051)-杭(報1-119)間の距離は0.26m、杭(報1-119)-杭(整-1049)間の距離は0.42m、杭(整-1049)-杭(整-1053)間の距離は1.70mである。縦方向の木杭が合計本数を杭間の距離から類推すると、杭間の距離が0.20m前後の場合は19本程度、杭間の距離が0.40m前後の場合は10本前後となる。堰材の横木は短いもので1.40m程度、長いものになると3.00m以上になる。これらの横木は現状で杭の上流側に設置されていた。横木を挟み込むような横木より上流側の杭は検出されていない。また、堰状遺構の上流側と下流側の埋土に明確な違いはみられなかった。

(2)遺物(図299) 繩文土器片19点、弥生土器片519点、土師器片17点、須恵器片5点が出土した。このうち12点を図化した。

土器 884～888は弥生土器壺である。884の口縁端部外面には凹線文とともに廉状文と2段の円形浮文が認められる。広口壺888の口縁端部にも浮文の痕跡が残る。889・890は弥生土器甕で、いずれも口頸部境の屈曲は弱い。891は弥生土器高杯で、数条の沈線文と脚端部付近の凹線文による3段の区画に、上位から矢羽根形透孔、矢羽根形透孔、山形文が施される。892は口縁部に近い外面に明瞭な凹線文をもつ弥生土器鉢である。893・894も弥生土器鉢である。895は須恵器杯である。

(3)時期 弥生時代終末期～古墳時代前期(VI-1様式～I-1期)のSR29に後出するため、古墳時代前期(I-1期)を中心とした時期と考えられる。

## 11 SR13 (10区-SD2)\_浅谷1-A

(1)遺構(図300・301) 南から北端で向きを変えて北西へ伸びる流路で、長軸方向はN-23°-Eである。全長が残存で39m、幅は11.04m～3.7m、最大深度は0.58mである。埋土は砂質土主体の複数層で、いくつかの堆積単位が推定されることから、複数回にわたり流路として機能したと考えられる。古墳時代前期のSR11、弥生時代終末期～古墳時代前期のSR29に後出する。流路南側(図300-①)では建築部材や杭(『報告書1』124～128)が確認されている。

(2)遺物(図302・303) 繩文土器、弥生土器、弥生時代終末期～古墳時代前期の土器、須恵器等、合わせて846点が出土した。このうち27点を図化した。

土器 896～903は弥生土器壺である。広口壺896～898は口縁端部外面に数条の凹線文をもち、898は円形浮文を伴う。898は短頸直口壺で直立する口縁部に凹線文を巡らせる。903は複合口縁壺の口縁部で凹線文と棒状浮文が認められる。904～909は弥生土器甕である。904は如意形口縁の弥生土器甕で口縁部直下に2条の沈線文が施される。905は強いヨコナデを伴い、口縁端部は上方にわずかに拡張する。906・907は頸部に圧痕文突帯がみられる。908は口縁端部が拡張するが口頸部境の屈曲は弱い。910は土師器甕と考えられる。911・912・914は弥生土器高杯である。911・912ともに口縁端部上面にも凹線文を伴う。913は土師器甕、916～917は弥生土器鉢である。918～920は須恵器蓋、921は須恵器杯、922は須恵器甕である。

(3)時期 古墳時代前期(I-1～I-2期)のSR11に後出するため、古墳時代前期(I-1～I-2期)と判断できる。当該期の可能性のある遺物は910・913である。

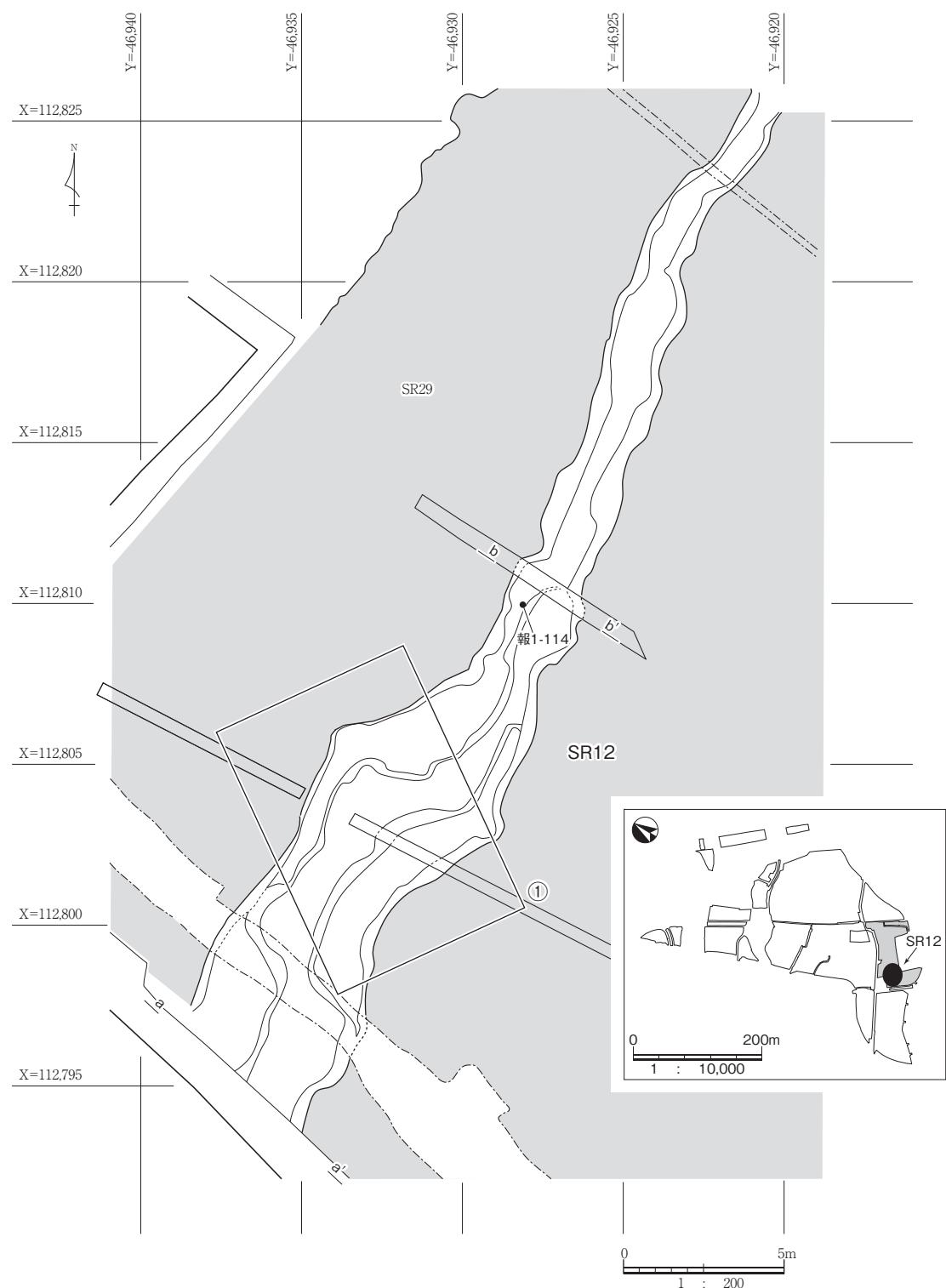
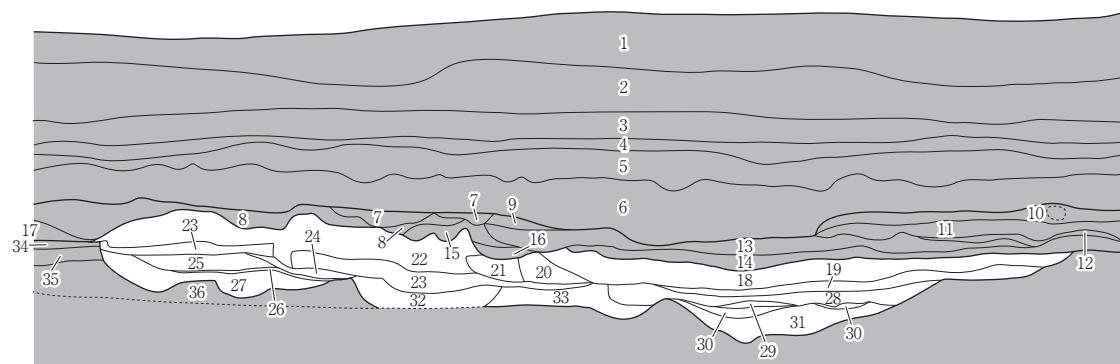


図294 SR12 平面

31.4m

a

a'



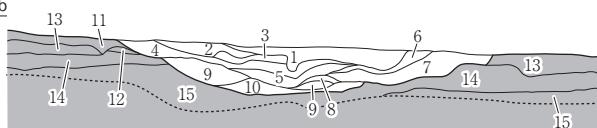
## a-a' 埋土

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黄	褐	25Y5/3	粘質	中	中砂	細礫富む
2	灰オリーブ	5Y5/2	砂質	弱	粗砂	密	細礫富む
3	黒	褐	25Y3/2	粘質	強	中砂	細礫富む
4	暗	灰	25Y4/2	粘質	強	細砂	細礫富む
5	黒	褐	25Y3/2	粘質	強	中砂	細礫富む
6	オリーブ	黒	5Y3/2	粘質	強	中砂	細礫富む
7	オリーブ	黒	5Y3/1	粘質	強	極細砂	細礫富む
8	黒	黒	5Y2/1	粘質	強	細砂	細礫富む
9	灰オリーブ		5Y4/2	砂質	弱	中砂	密
10	黄	褐	25Y5/3	砂質	な	細礫	疎
11	黄	褐	25Y5/3	砂質	な	細礫	疎
12	オリーブ	黒	7.5Y3/1	粘質	強	粘土	
13	灰	黄	25Y6/2	砂質	な	細礫	
14	オリーブ	黒	5Y3/1	粘質	強	粘土	
15	灰		5Y4/1	砂質	中	中砂	
16	オリーブ	黒	5Y3/1	粘質	強	細砂	
17	黄	褐	25Y5/3	砂質	な	細礫	
18	黄	灰	25Y6/1	砂質	な	細礫	
19	オリーブ	黒	5Y3/1	粘質	強	粘土	SR12埋土
20	青	青	10BG6/1	砂質	弱	細砂	SR12埋土
21	明	青	10BG7/1	砂質	弱	細礫	SR12埋土
22	浅	黄	25Y7/4	砂質	な	細砂	SR12埋土
23	緑	灰	7.5GY6/1	砂質	弱	細砂	SR12埋土
24	浅	黄	25Y7/4	砂質	な	細礫	SR12埋土
25	オリーブ	黒	7.5Y3/1	砂質	中	粗砂	SR12埋土。細礫富む。浅黄(2.5Y7/4)細砂をブロック状に含む
26	黒	褐	25Y3/1	砂質	中	細砂	SR12埋土。細礫富む
27	オリーブ	黒	5Y3/1	粘質	強	粘土	SR12埋土。植物遺存体を含む
28	オリーブ	黒	5Y3/1	砂質	な	細砂	SR12埋土
29	緑	灰	7.5GY6/1	砂質	弱	細砂	SR12埋土
30	オリーブ	黒	5Y3/1	粘質	強	粘土	SR12埋土
31	オリーブ	黒	5Y3/1	粘質	強	粘土	SR12埋土。細礫富む。植物遺存体を含む
32	浅	黄	25Y7/4	砂質	な	細砂	SR12埋土
33	オリーブ	黒	5Y3/1	粘質	強	粘土	SR12埋土。植物遺存体を含む。緑灰(7.5GY6/1)細砂をブロック状に含む
34	淡	黄	25Y8/3	砂質	な	細礫	II-11層より粒子が細かい
35	黒	褐	25Y3/1	砂質	中	細砂	細礫富む。植物遺存体を多く含む
36	灰オリーブ		5Y6/2	砂質	な	細礫	

29.5m

b

b'



## b-b' 埋土

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	灰オリーブ	5Y4/2	砂質	な	細礫	疎	SR12埋土
2	オリーブ	黒	5Y3/1	砂質	弱	細砂	SR12埋土
3	オリーブ	黒	5Y3/1	砂質	弱	中砂	SR12埋土
4	オリーブ	黒	5Y3/1	粘質	強	シルト	SR12埋土
5	灰オリーブ		5Y4/2	砂質	な	細礫	SR12埋土
6	灰		5Y4/1	砂質	弱	極細砂	SR12埋土
7	浅	黄	25Y7/3	砂質	な	細礫	SR12埋土
8	オリーブ	黒	7.5Y3/1	粘質	強	粘土	SR12埋土
9	灰オリーブ		5Y4/2	砂質	な	細礫	SR12埋土
10	オリーブ	黒	7.5Y3/1	粘質	強	粘土	SR12埋土
11	オリーブ	黒	5Y3/1	粘質	な	細礫	灰オリーブ(5Y4/2)細礫をブロック状に含む
12	オリーブ	黒	5Y3/1	粘質	強	粘土	灰(5Y5/1)砂質弱 極粗砂 疎の平行堆積がみられる
13	灰		5Y4/1	砂質	弱	粗砂	植物遺存体が土壤化した層
14	黒	褐	25Y3/2	粘質	強	粘土	植物遺存体を多く含む
15	灰		7.5Y4/1	粘質	強	粘土	細礫を多量に含む

0 1 : 50

図295 SR12 断面

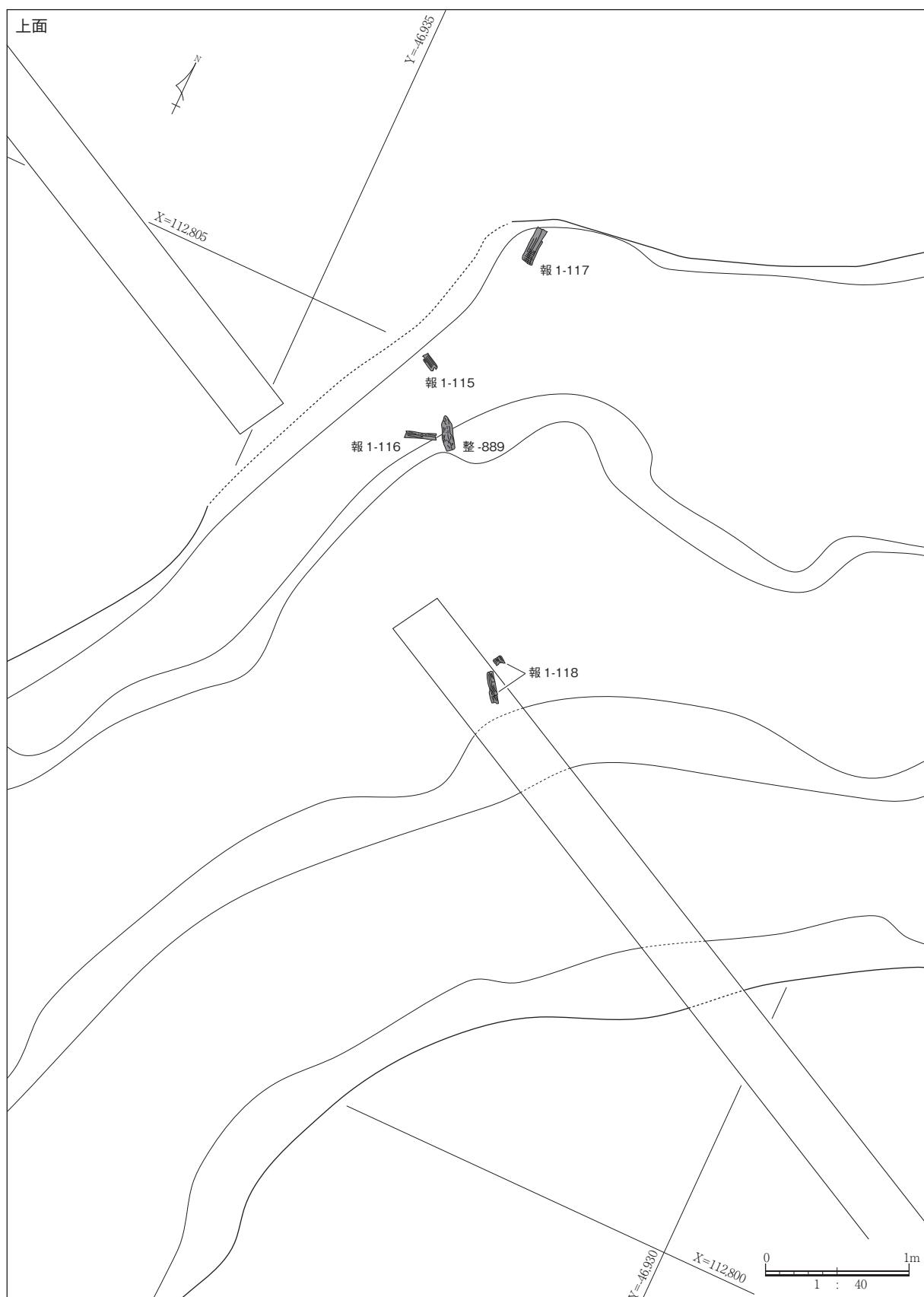
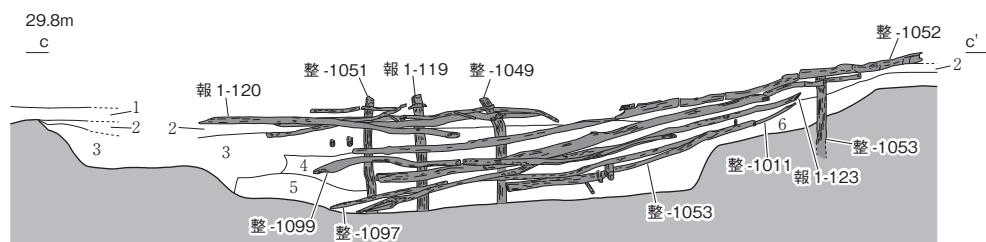
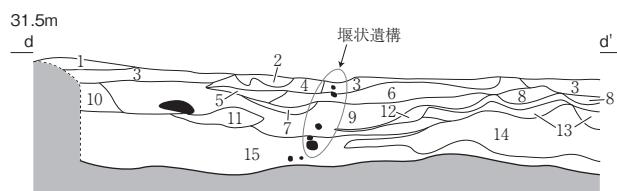
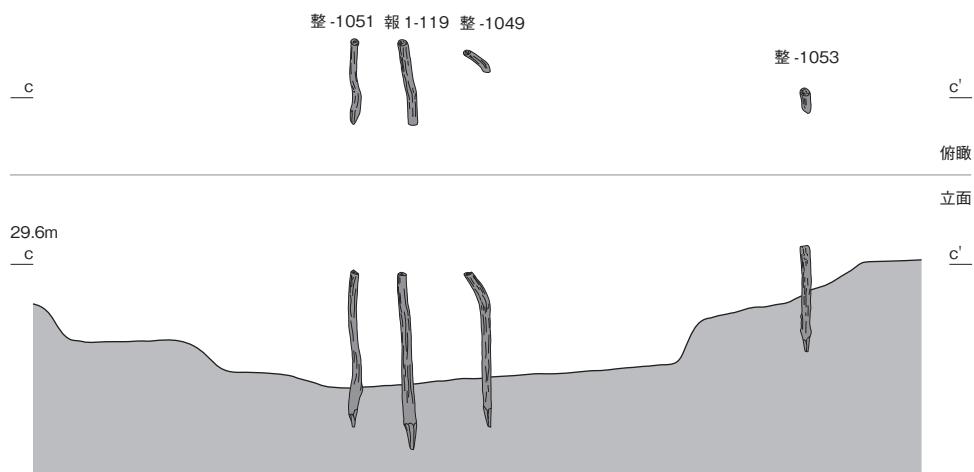


図296 SR12 遺物出土状況





c-c' 埋土		Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	5Y2/1	粘質	中	粘土	中	細礫を多く含む
2	黒	褐 25Y3/1	粘質	強	粘土	中	
3	灰	白 5Y7/2	砂質	なし	細礫	極疎	
4	—	—	—	—	—	—	d-d'土層断面の9層に細礫をブロック状に含んだ層
5	—	—	—	—	—	—	d-d'土層断面の15層
6	—	—	—	—	—	—	d-d'土層断面の6層



d-d' 埋土		Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	オリーブ黒	5Y3/1	粘質	中	細砂	密	細礫を含む
2	黄	灰 25Y4/1	砂質	なし	細礫	疎	
3	黒	褐 25Y3/1	粘質	弱	中砂	中	細礫富む
4	黒	褐 25Y3/1	粘質	強	粘土	中	細礫あり
5	オリーブ黒	5Y3/1	粘質	強	シルト	疎	
6	黄	灰 25Y4/1	砂質	なし	極粗砂	疎	
7	オリーブ黒	5Y3/1	粘質	強	粘土	疎	
8	黄	灰 25Y5/1	砂質	なし	極粗砂	疎	
9	黄	灰 25Y4/1	砂質	なし	細礫	疎	
10	黄	灰 25Y5/1	砂質	なし	細礫	疎	
11	黒	5Y2/1	粘質	強	粘土	疎	
12	オリーブ黒	5Y3/1	粘質	強	シルト	疎	
13	灰	5Y5/1	砂質	なし	極粗砂	中	
14	灰	5Y4/1	砂質	なし	極粗砂	中	
15	黒	褐 25Y3/1	粘質	強	粘土	疎	細かい植物遺存体あり



図298 SR12 壇状遺構 断面

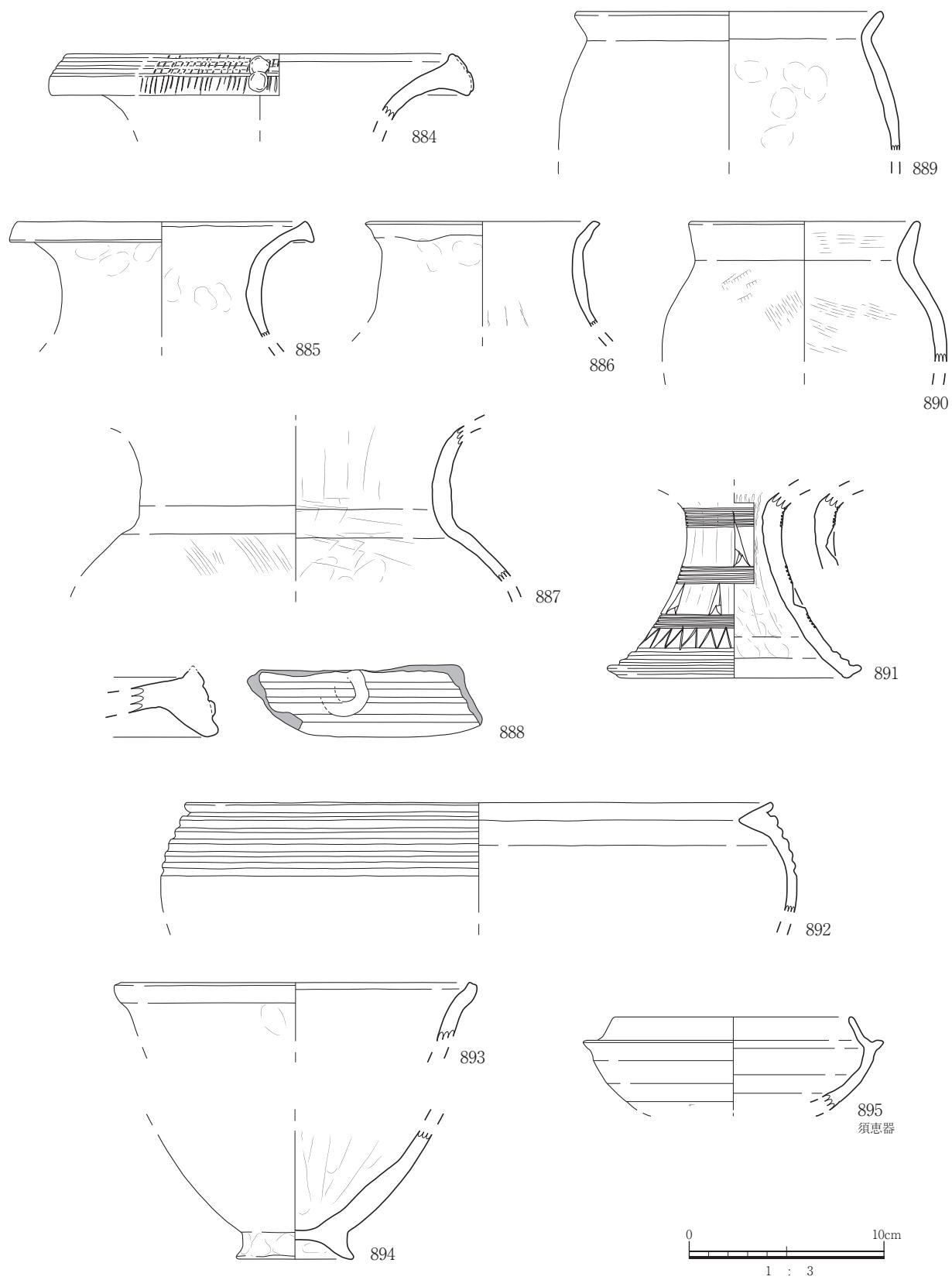


図299 SR12 出土遺物

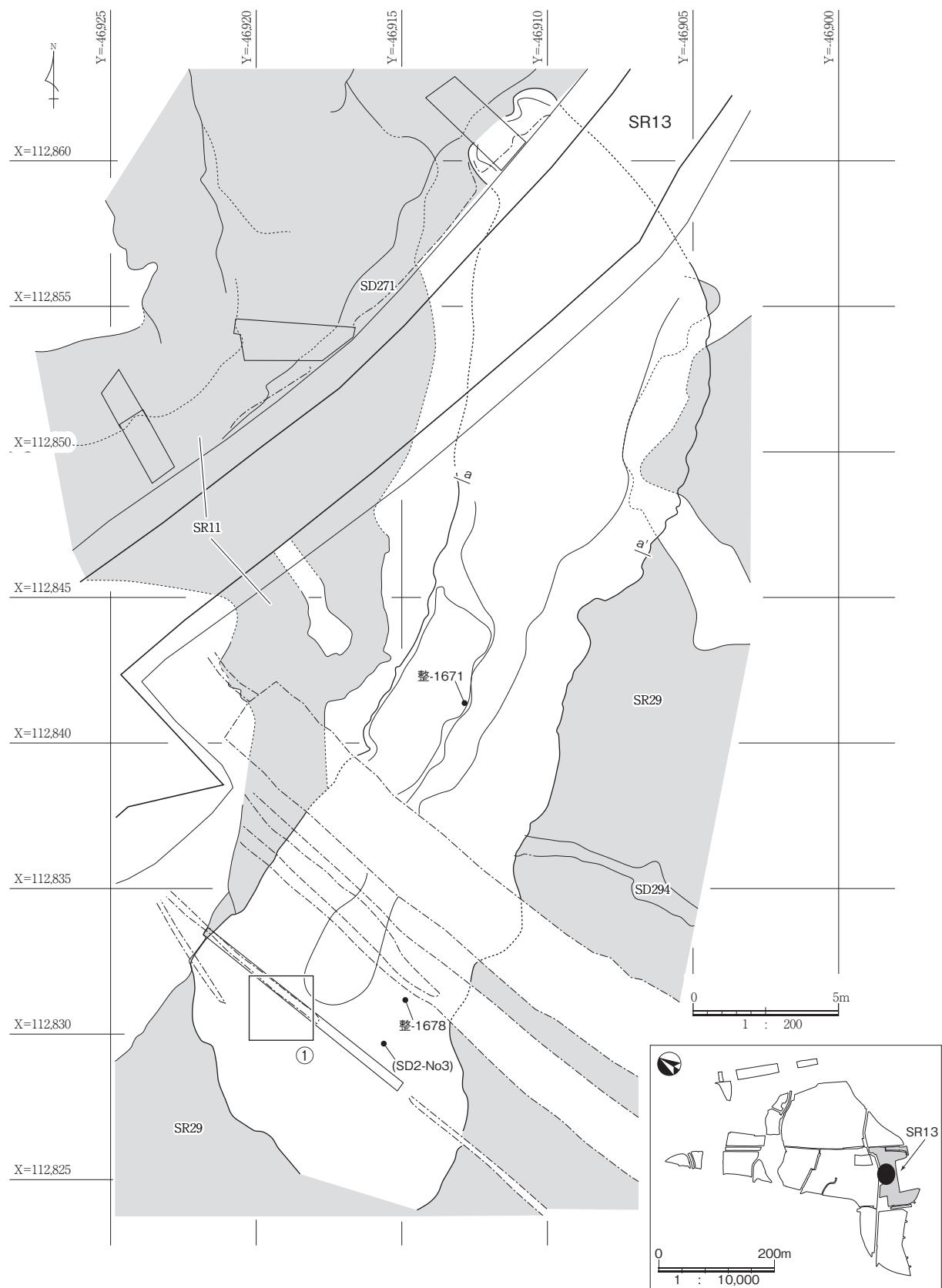


図300 SR13 平面

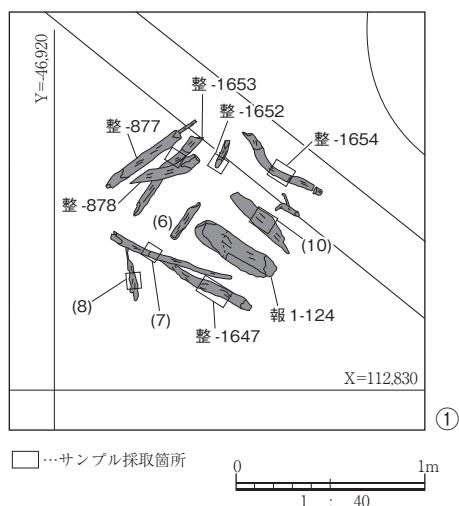
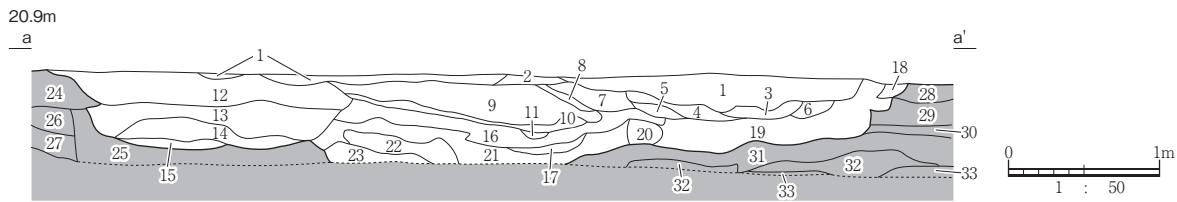


図301 SR13 断面・遺物出土状況

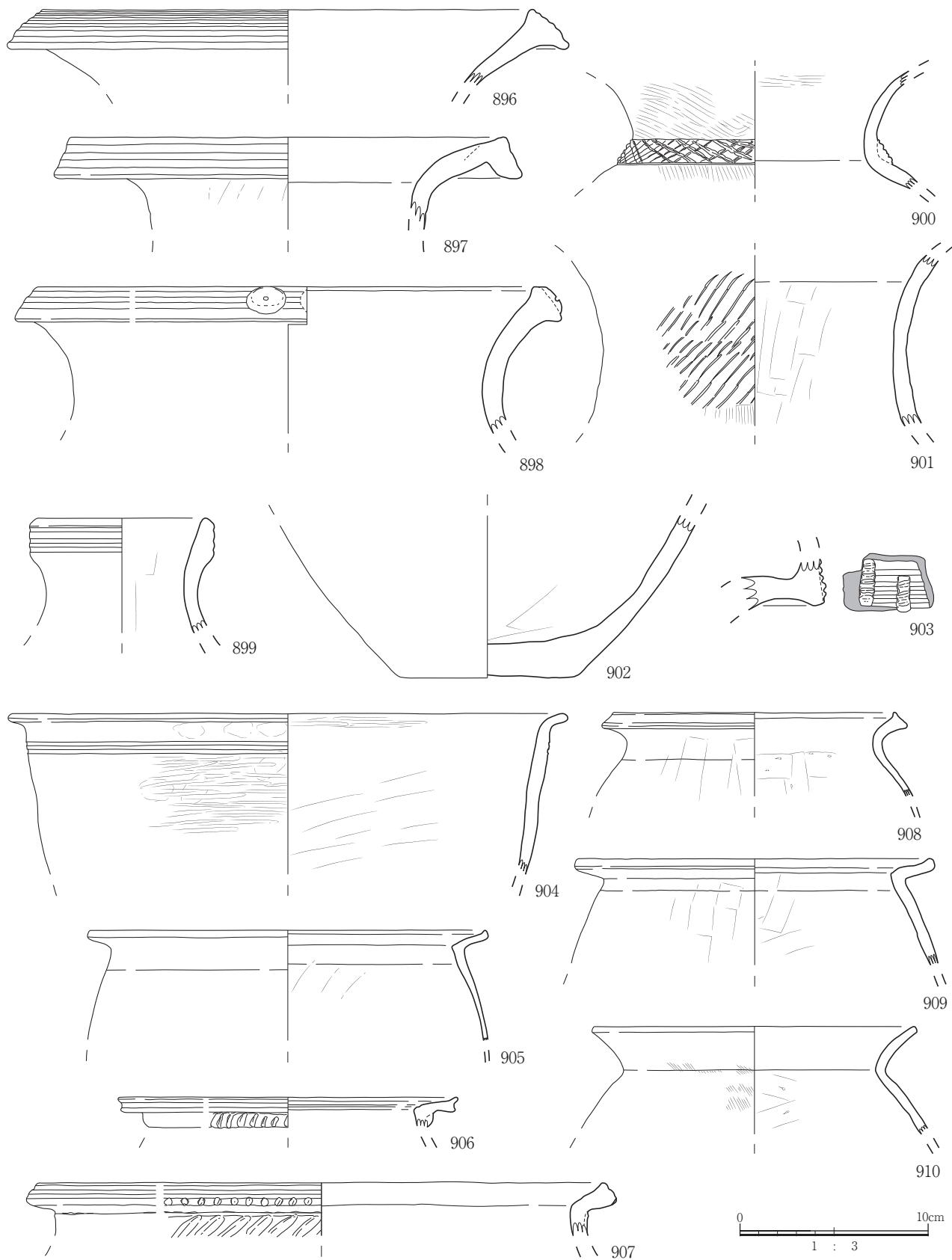


図302 SR13 出土遺物 1

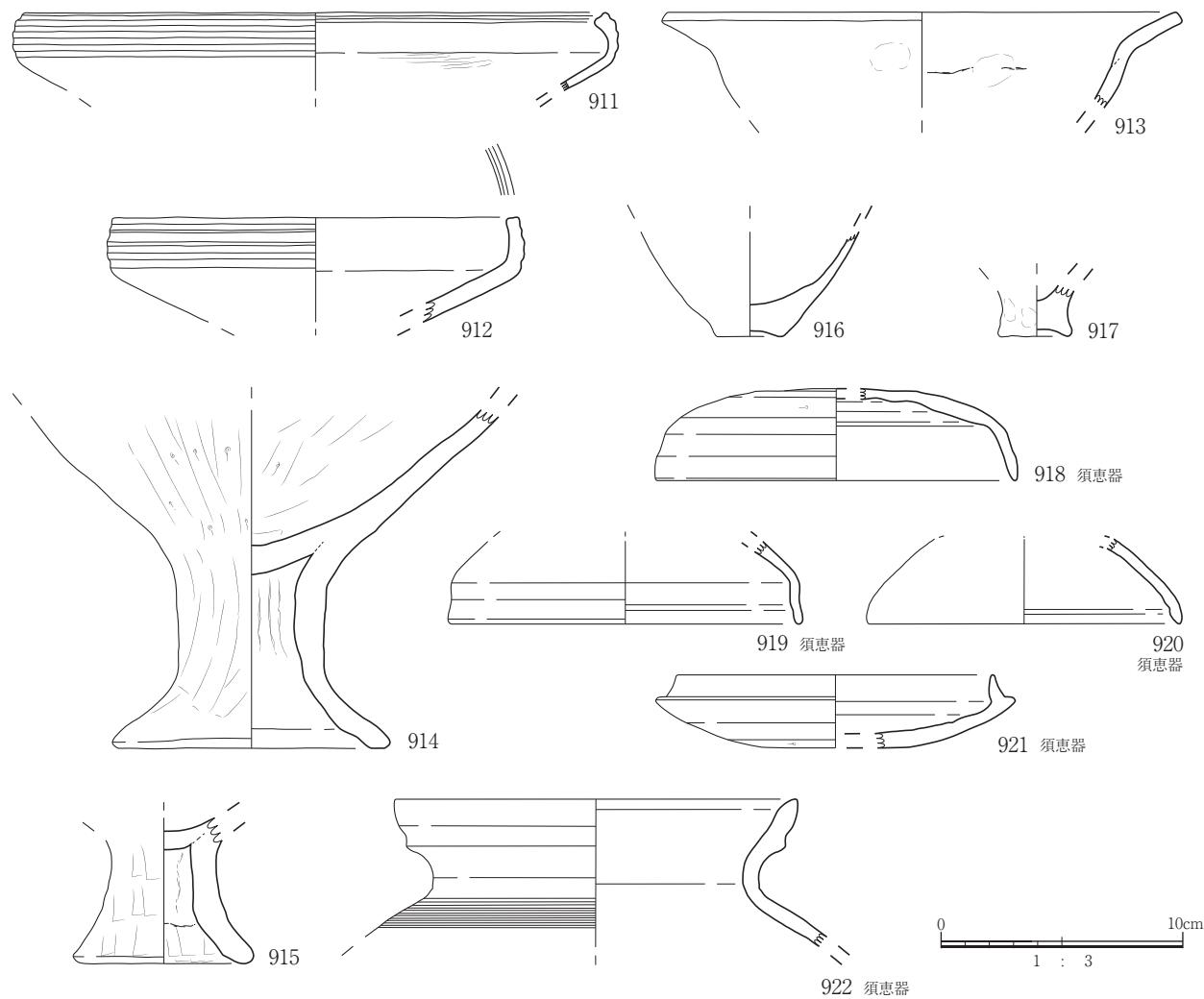


図303 SR13 出土遺物 2

## 12 SR14 (11区-SR1)\_低位段丘1-B

(1)遺構(図304) SR16の北西側にある流路で、埋土の情報は不明である。SR16に先行する。

(2)遺物 遺物は出土していない。

(3)時期 SR16と同時期の弥生時代後期後葉(V-4様式)としておきたい。

## 13 SR15 (11区-SR2)\_浅谷1-A

(1)遺構(図305～313) 南西から蛇行しながら北東へ伸びる流路で、長軸方向はN-51°-Eである。SR29北端部の大部分を並走する。規模は全長が残存で116.7m、幅は6.95m～1.55m、最大深度は1.02mである。灰色～黒褐色が中心となる砂質と粘質土の互層堆積で、一部に植物遺存体を含む。SR29に後出する。南西部端周辺より田下駄や田舟、腰掛、建築部材、杭、板(『報告書1』129～136)が出土している。北東側に位置するSR12とSR15との関連についても検討したが、平面的に合致しないため発掘調査段階では別遺構と判断した。また、流路東側(10区の範囲)について

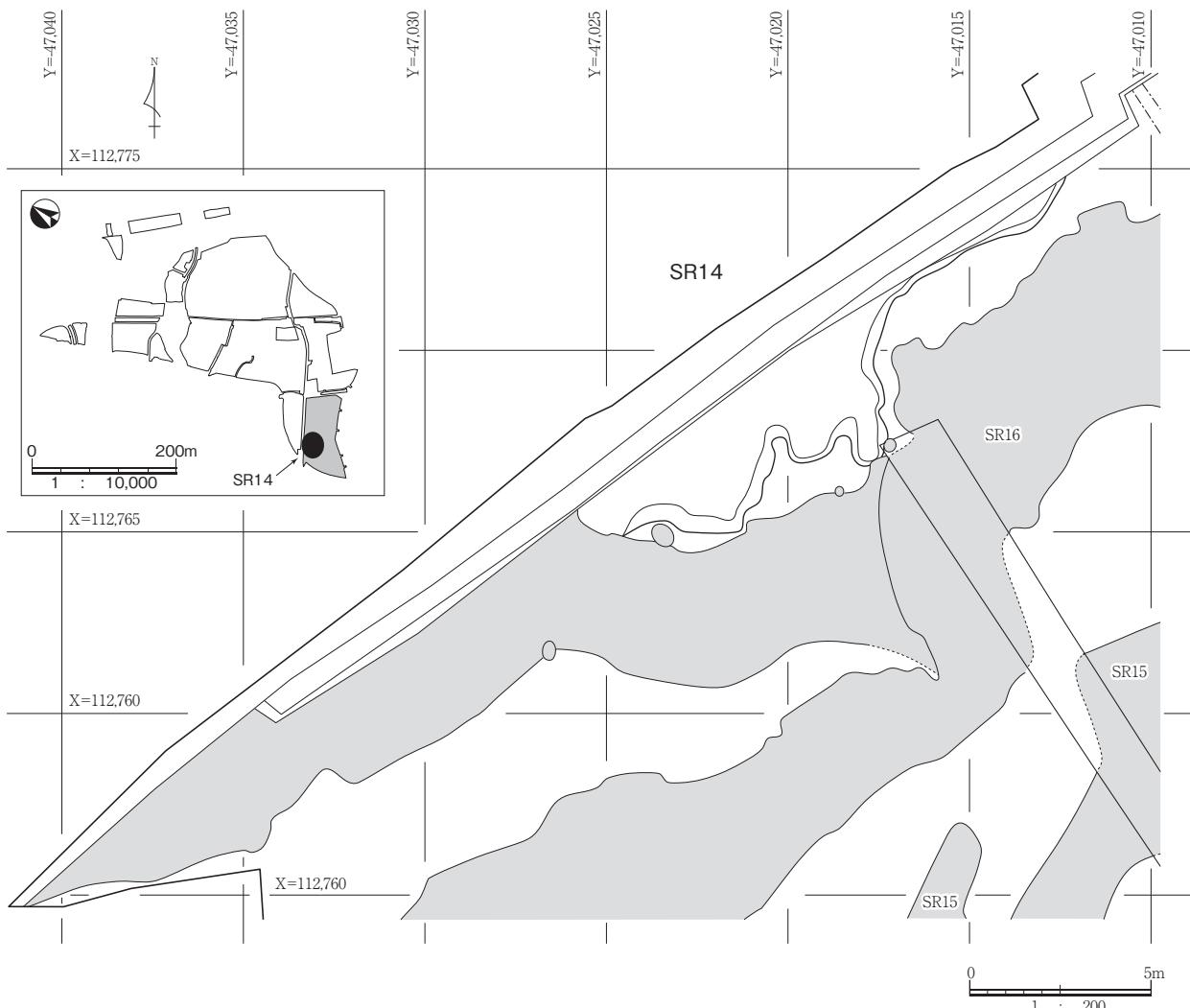


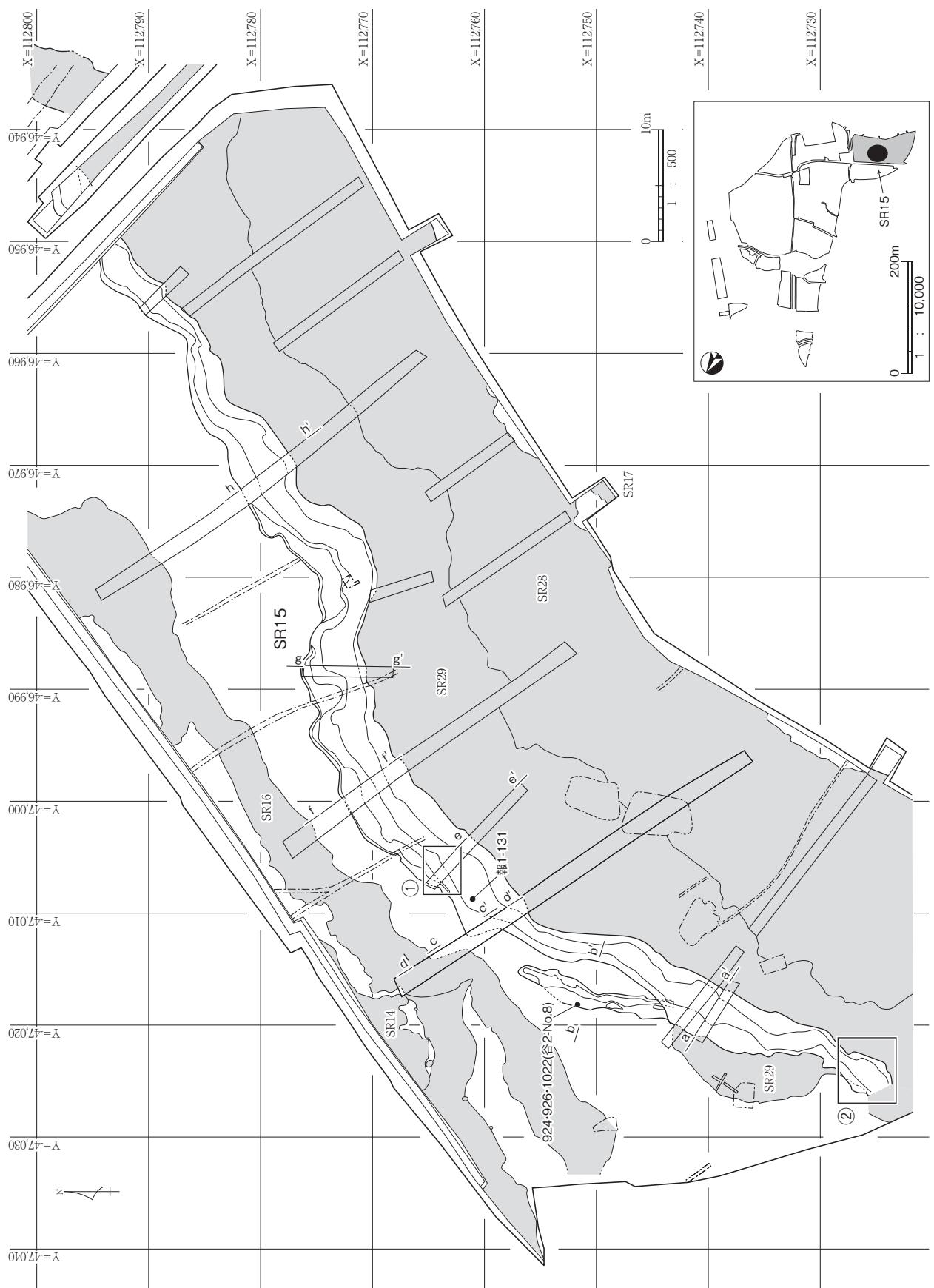
図304 SR14 平面

は調査時に西側調査区との高低差が認められたことから、流路は後世に削平されたと判断している。

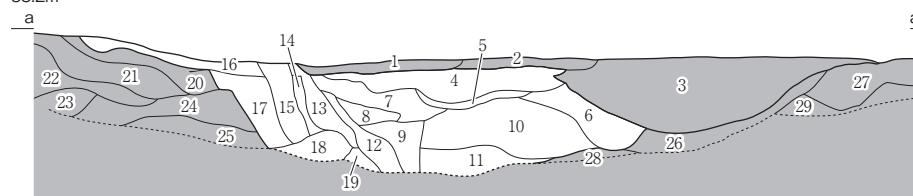
杭列(SA1)は、流路が緩く屈曲した後にやや幅広で直線ぎみとなる地点に設置され、流路の長軸に並行する。北側への水の分岐もしくは北岸の護岸的施設の可能性なども考慮されるが、その機能については不明である。15層よりも下位の砂もしくは砂質土に杭が打ち込まれて設置されたと考えられる。調査時には縦杭のみが遺存しており、横方向の構造物の痕跡は認められなかった。

(2)遺物(図314～326) 縄文土器、弥生土器、弥生時代終末期～古墳時代前期の土器、土師器片、須恵器、黒色土器、石器など合わせて2,425点と木質遺物が出土した。このうち木質遺物を除く119点を図化した。

**土器** 923～977は弥生土器壺である。923は直口壺で口縁端部上面にも凹線文を有する。924～926は小型の短頸広口壺で、口縁部上面にみられる渦巻き状の沈線文は凹線文の模倣だろう。927



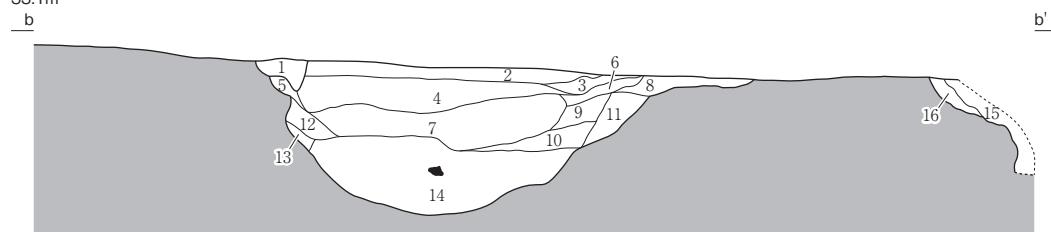
33.2m



a-a' 埋土

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐	2.5Y3/1	砂質	弱	極細砂	密
2	黄	灰	2.5Y5/1	砂質	弱	極細砂	密
3	黄	褐	2.5Y5/3	砂質	なし	細礫	極疎
4	黒	褐	2.5Y3/1	砂質	弱	中砂	密 SR15埋土
5	黒	2.5Y2/1	粘質	強	粘土	中	SR15埋土
6	オリーブ黒	5Y3/1	砂質	弱	中砂	密	SR15埋土
7	オリーブ黒	5Y3/1	砂質	弱	中砂	密	SR15埋土。灰(5Y6/1)砂が混じる。植物遺存体あり
8	灰	5Y6/1	砂質	弱	中砂	中	SR15埋土
9	灰	5Y6/1	砂質	弱	極粗砂	中	SR15埋土。植物遺存体あり
10	暗	黄	2.5Y5/2	砂質	なし	細礫	極疎 SR15埋土
11	黒	2.5Y2/1	粘質	強	粘土	疎	SR15埋土。植物遺存体あり
12	オリーブ黒	5Y3/1	粘質	中	シルト	中	SR15埋土
13	黒	2.5Y2/1	粘質	強	粘土	中	SR15埋土。植物遺存体あり
14	黄	灰	2.5Y4/1	砂質	なし	細礫	中 SR15埋土
15	黒	5Y2/1	粘質	中	シルト	中	SR15埋土。細礫富む
16	灰	5Y4/1	砂質	なし	極粗砂	密	SR15埋土。細礫富む
17	灰	5Y4/1	砂質	なし	細礫	疎	SR15埋土
18	黄	灰	2.5Y4/1	砂質	なし	細礫	SR15埋土
19	黒	2.5Y2/1	粘質	強	粘土	疎	SR15埋土
20	灰	黄	2.5Y6/2	砂質	なし	細礫	SR29埋土。土器あり
21	オリーブ黒	5Y3/1	砂質	弱	粗砂	密	SR29埋土
22	灰	5Y4/1	砂質	弱	細礫	密	SR29埋土
23	オリーブ黒	5Y3/2	砂質	中	細礫	密	SR29埋土
24	灰オリーブ	5Y5/2	砂質	弱	極粗砂	密	SR29埋土
25	灰	5Y4/1	砂質	弱	粗砂	密	SR29埋土
26	暗	灰	2.5Y4/2	砂質	なし	極粗砂	SR29埋土
27	黒	褐	2.5Y3/1	砂質	弱	極細砂	密 SR29埋土。黄褐(2.5Y3/3)砂ブロックを含む
28	明	黄	2.5Y6/6	砂質	なし	細礫	疎 SR29埋土
29	黒	褐	2.5Y3/1	砂質	なし	細礫	密 SR29埋土。2~3cmの細礫を含む

33.1m



b-b' 埋土

層名	色調	Munsell	土質	粘性	粒度	緊密度	備考
1	黒	褐	10YR3/1	砂質	なし	細砂	密 細礫あり
2	黄	灰	2.5Y6/1	砂質	なし	細砂	密 SR15埋土。細礫あり
3	黒	5Y2/1	砂質	弱	極細砂	密	SR15埋土
4	黄	褐	2.5Y5/3	砂質	なし	細礫	疎 SR15埋土
5	黒	2.5Y3/1	砂質	弱	細砂	密	SR15埋土。細礫富む
6	灰オリーブ	5Y4/2	砂質	中	細砂	中	SR15埋土
7	にぶい	黄	2.5Y6/3	砂質	なし	細礫	密 SR15埋土
8	オリーブ黒	5Y3/1	砂質	弱	細砂	中	SR15埋土
9	黒	7.5Y2/1	砂質	弱	極細砂	中	SR15埋土
10	灰	7.5Y4/1	砂質	弱	極細砂	中	SR15埋土
11	黒	5Y2/1	粘質	中	シルト	中	SR15埋土
12	黒	2.5Y2/1	粘質	強	粘土	中	SR15埋土。植物遺存体あり
13	灰	5Y4/1	砂質	弱	極細砂	中	SR15埋土
14	にぶい	黄	2.5Y6/3	砂質	なし	細礫	疎 SR15埋土。2~3cmの細礫あり
15	暗	灰	2.5Y4/2	砂質	弱	極細砂	中 SR15埋土
16	黒	2.5Y2/1	粘質	中	シルト	密	SR15埋土



図306 SR15断面 1

～929は短頸直口壺で、929は口縁部下端部に刻目文、頸胴部境に列点文が施されている。930は短く外反する口縁部外面に4条の凹線文が巡る。931はやや長い頸部に外反する短い口縁部が伸びる。932～944は広口壺、または短頸広口壺で、932～943は拡張する口縁端部外面に凹線文を有する。広口壺947は口縁端部外面に波状文と、刺突を伴う円形浮文をもつ。948は広口壺と推測され、口縁端部外面に格子文と竹管文が施されている。945は口縁端部が上方にのみ拡張し、やや屈曲する口縁部直下には列点文が認められる。946は口縁端部外面に列点文と円形浮文をもつ。949～953は頸部が目立たず、口縁部が短く外に伸びる。950の口縁部には4方向と推測される円形

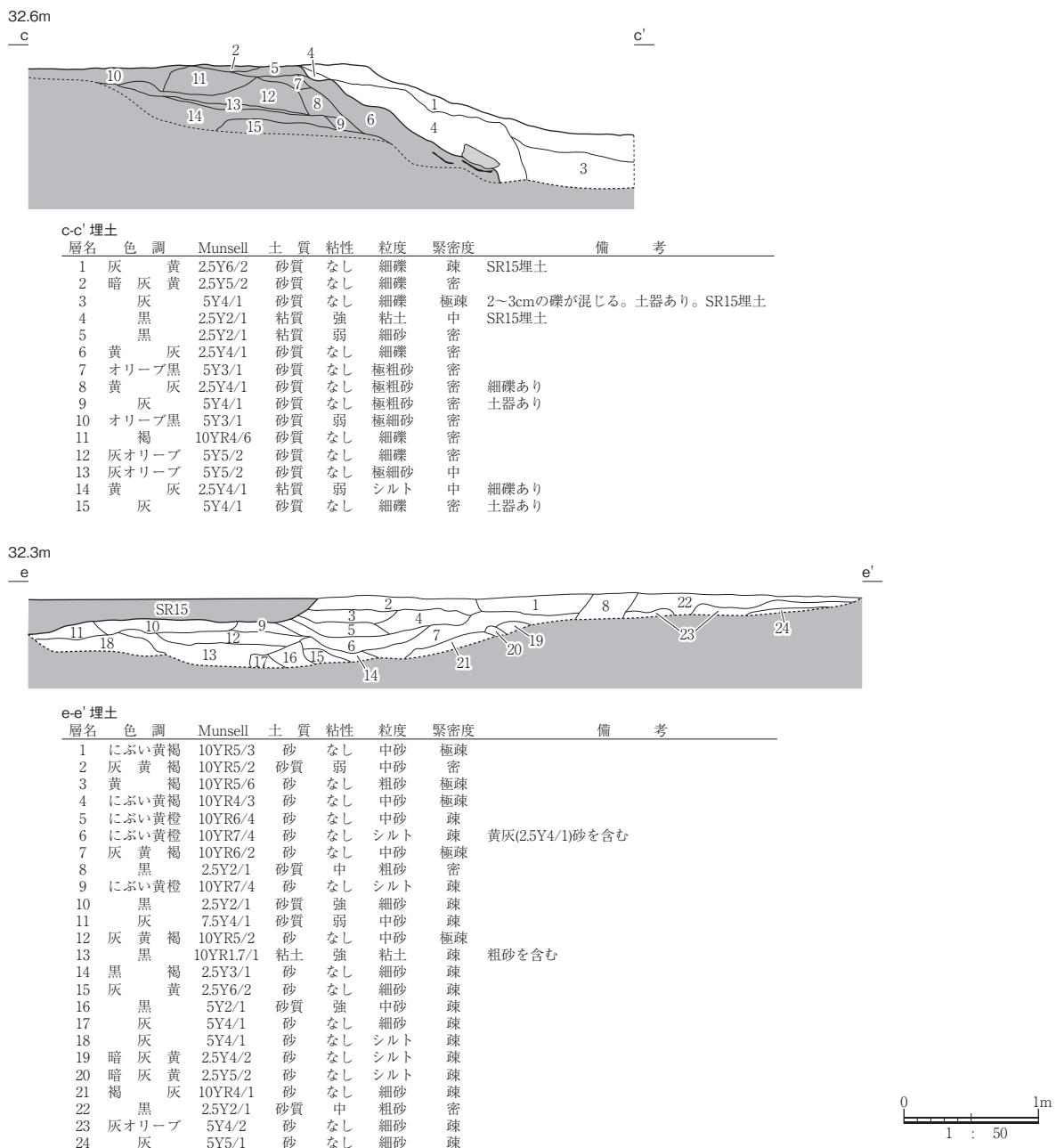


図307 SR15断面 2

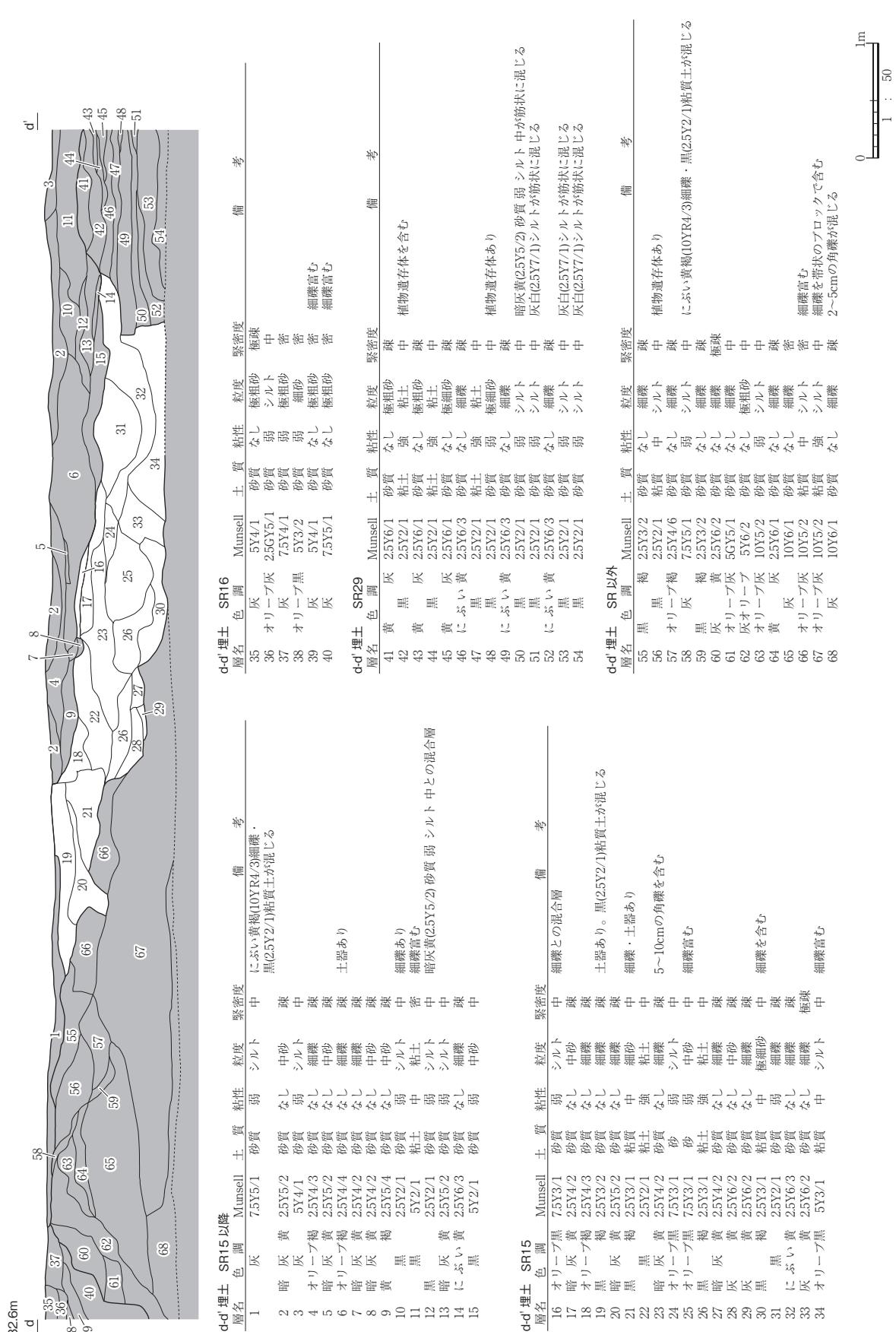
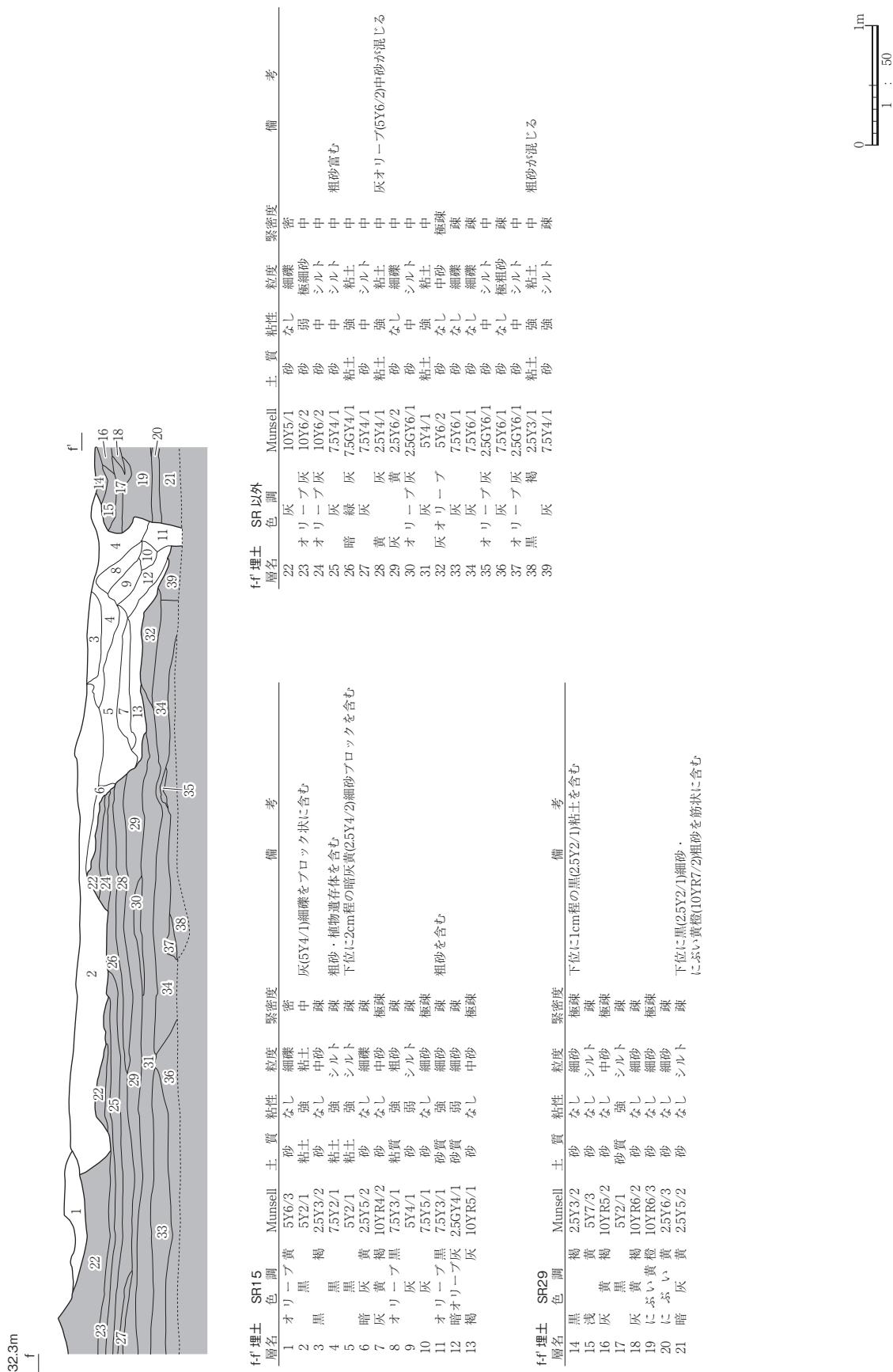


図308 SR15 断面 3

図309 SR15 断面 4



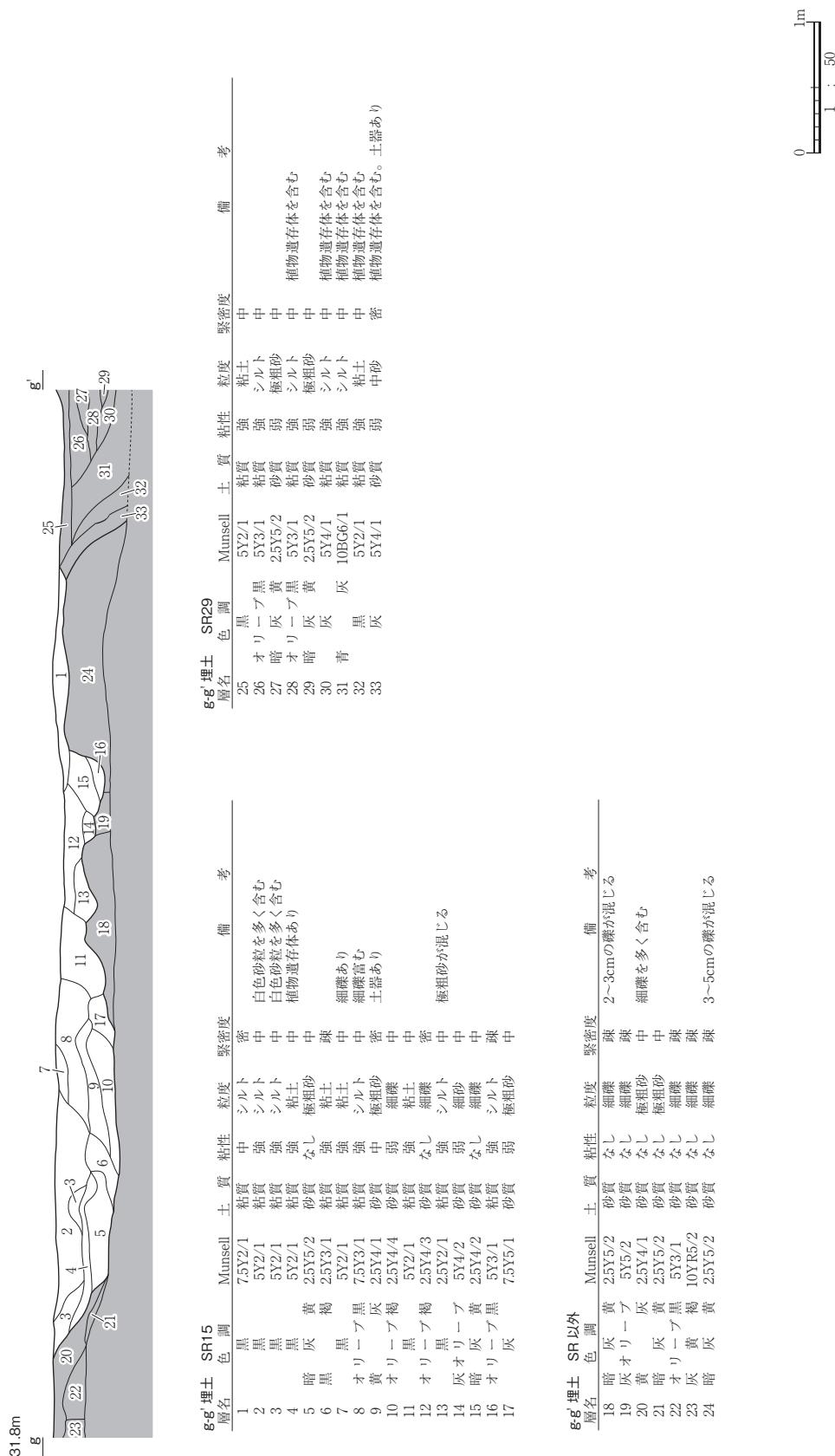


図310 SR15 断面 5

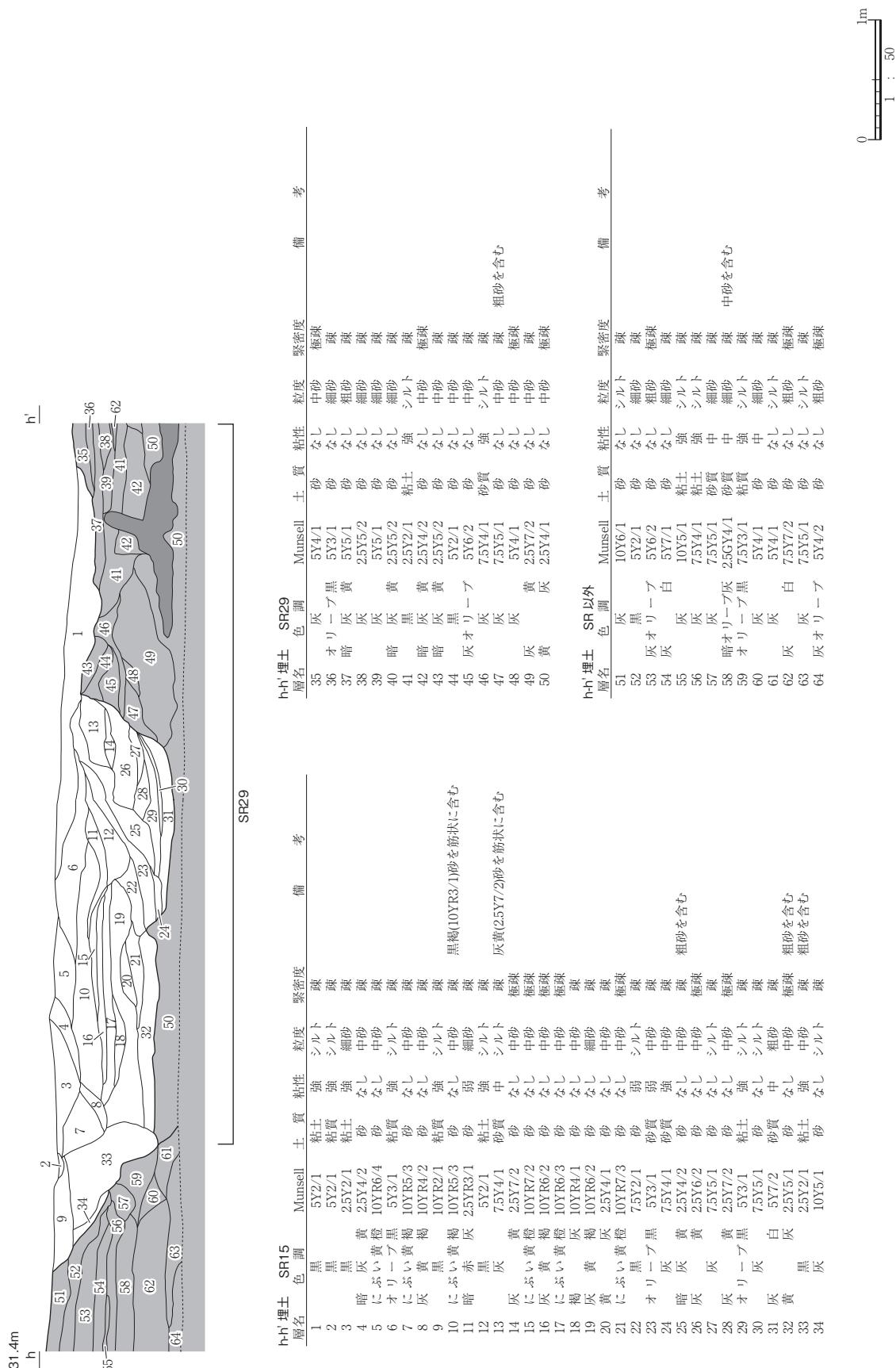


図311 SR15断面 6

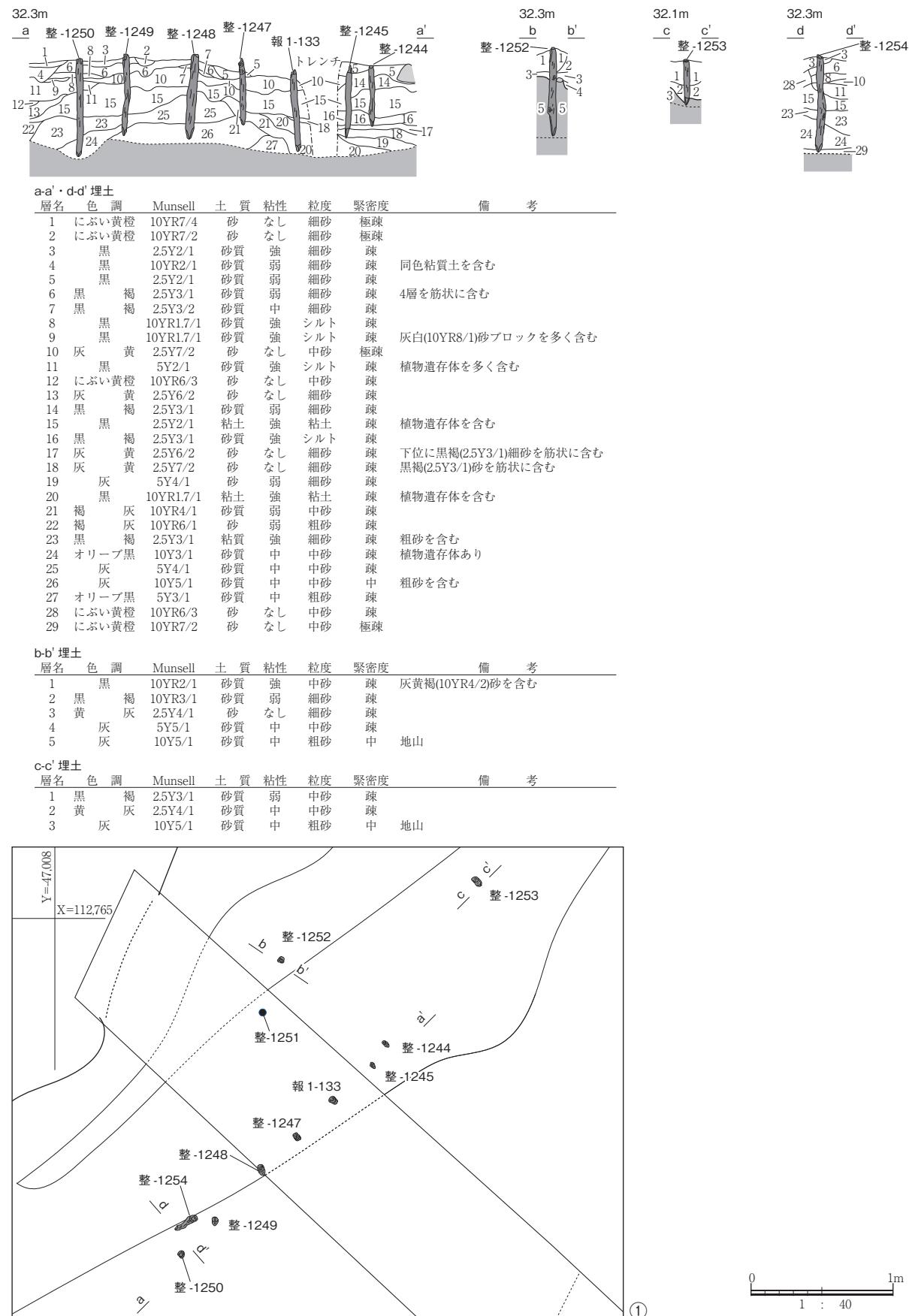


図312 SR15-SA1 断面・遺物出土状況

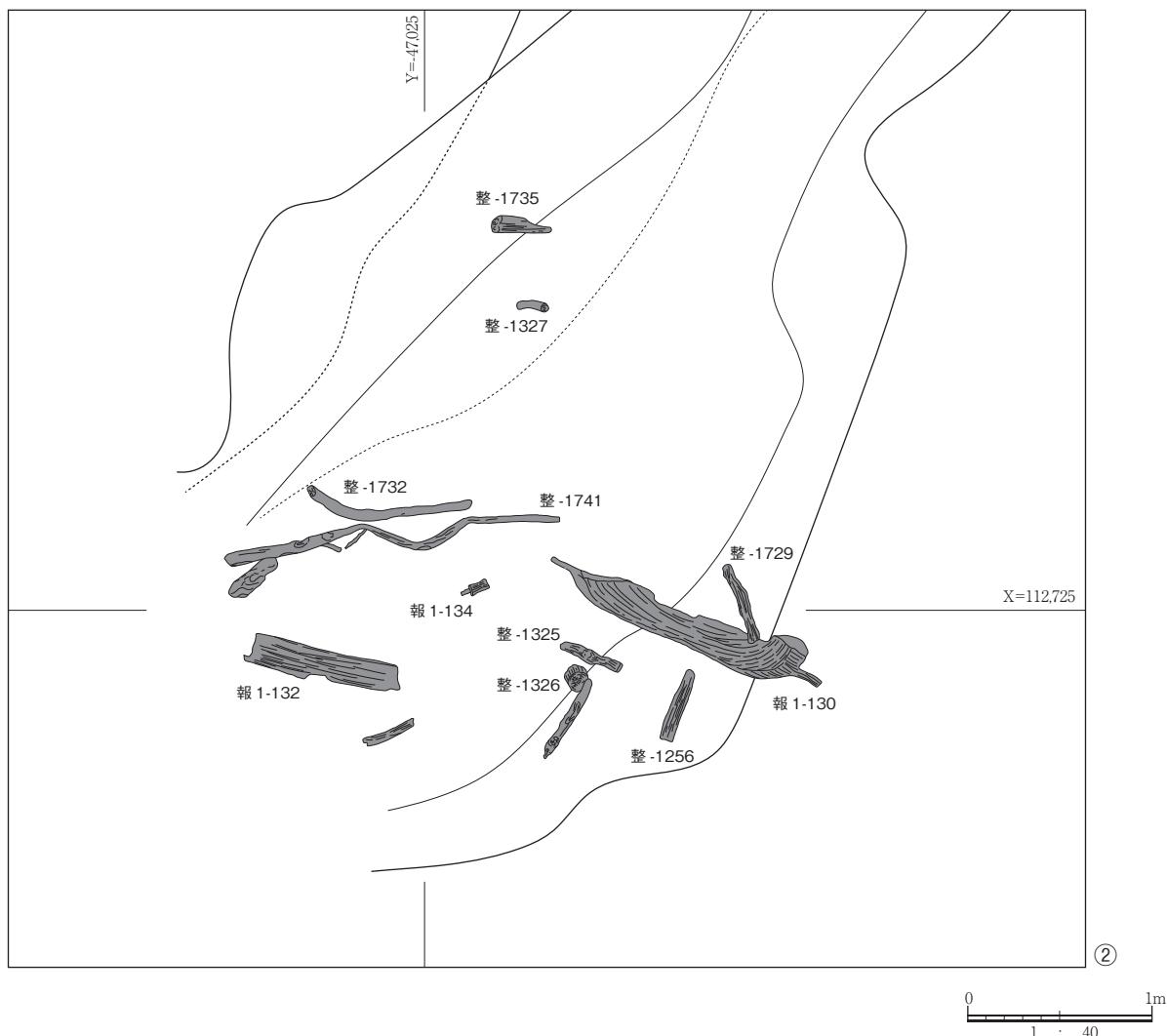


図313 SR15 遺物出土状況

孔が穿たれる。954は頸部から緩く外に口縁部が伸びる。955は954に比べて頸部と口縁部との境の屈曲が明瞭である。957の口縁部はやや内傾する。小型の壺と推測される958の口縁端部は上下に拡張する。960は複合口縁壺だろう。961の下方には算盤玉状の胴部が接続する可能性がある。962は直口壺で口縁端部付近に6条の凹線文が巡る。963～975は複合口縁壺である。口縁部外面に、963は複数の沈線文、965は沈線文と波状文、968は竹管文、969は刺突を伴う棒状浮文、970は細かな波状文と鋸歯文が施される。976・977は二重口縁壺で、977の口縁部には細かな波状文と円形浮文、頸部には沈線文が認められる。978～980は弥生土器甕である。978の頸部には幅の広い貼付突帯が巡る。981～986は弥生土器高杯である。981は外に水平に広がる口縁部をもつ。987～1013は弥生土器鉢である。987は小型の弥生土器鉢で外面にタタキが残る。988～994は胴部から屈曲して口縁部が形成される。1001は土師器鉢である。1002の口縁部外面には複数条の凹線文が巡る。1014～1018は弥生土器器台で、いずれも円形透孔をもつ。1019～1021は弥生土器支脚である。1019の上部内面には横位に細かなハケが施されている。1022は弥生土器蓋、1023は弥生

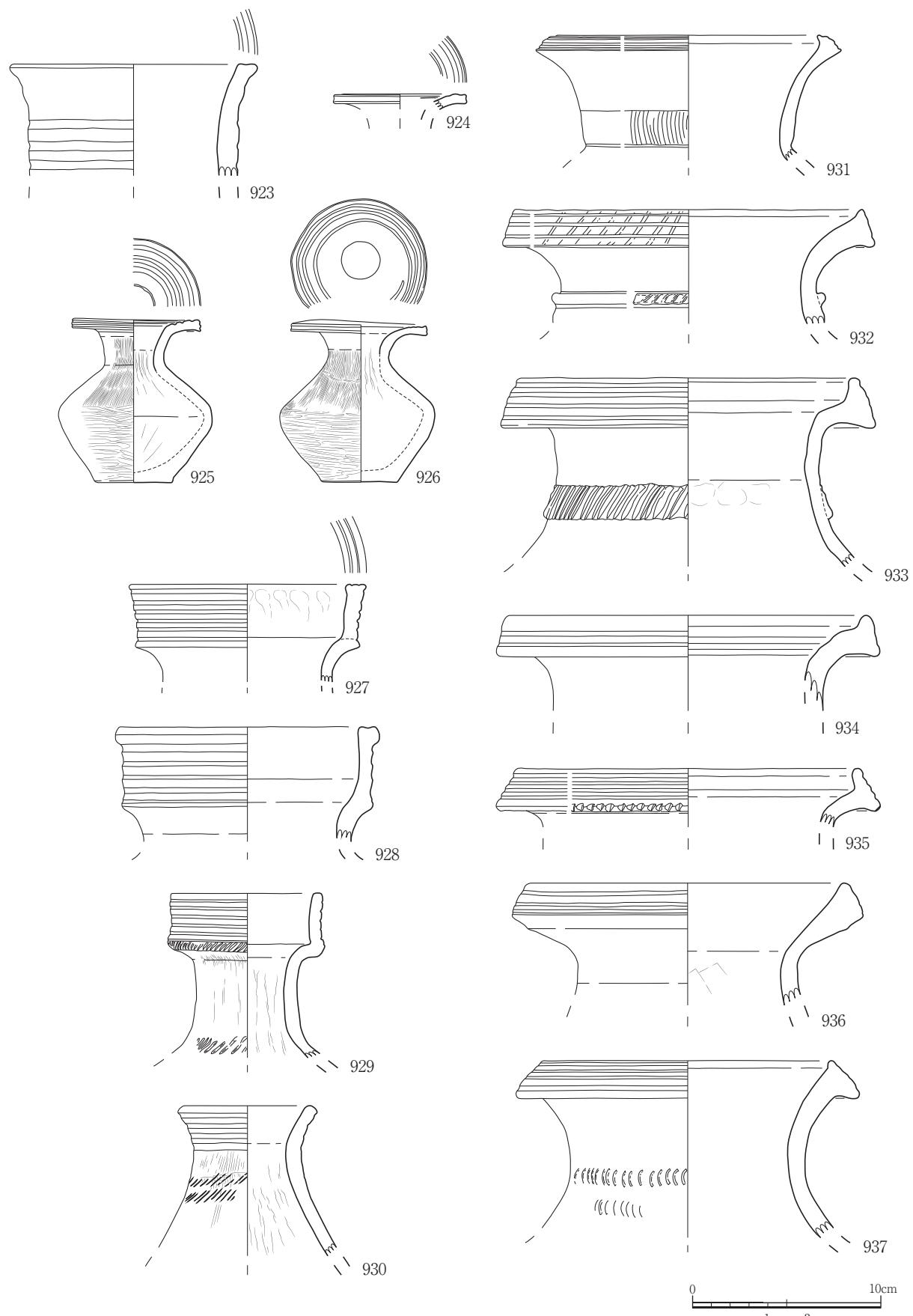


図314 SR15 出土遺物 1